# 醫方活套

道三流

醫方活套　道三流

著者及書名
医方活套（道三流）
年
番
禁帯出

中風
痰水
傷寒
現腹天
感冒用
頭痛
中寒

道云流
近方治驚

## 二 中風

### 八味順気

## 中風

- 八味須気散 一
- 大蓼芎湯 二
- 局方大瓲湯 三
- 保元湯（灯火大瓲湯） 三一
- 大瓲湯 四
- 加減除湿湯 六
- 加味大補湯 六一
- 小續命湯 七
- 加味益気湯（配剤） 七一
- 五補湯 七一
- 加味八仙湯 七一
- 大瓲湯 八
- 二陳湯 八一
- 勞須気散 一
- 侯氏黒散 三
- 医王（補中益気湯） 四
- 虜勞愈風湯 二方 四一
- 瓲通聖散 五
- 加減潤燥湯 六一

赤字は医者覚書方想起大成

## 麻木 二

- 連解毒湯 八一
- 導気湯 九
- 小芫湯 九一

## 傷寒 並陰毒 瘧疾 三

- 霹雳湯 九

●大蒜湯 一一
●小青龍湯 一一
●大順散 一一
●六一順気湯 一一
●回陽救急湯 一三
●連橋皮湯 一三
●陰毒師湯 一四
●橘皮強湯 一四
●小橘皮湯 一四
●猪苓湯 一四
●辞四逆湯 一五
●小建中湯 一五
●寧発表湯 一五
●調中飛衛湯 一六
●調中湯 一九
●正陽湯 一九
●八珍 一九
●五苓散 加味五苓 二〇
●陰疫虜湯 二一
●消風散 二二
●参胡温膽湯 二三
●算正 二四
●和解湯 二五
●天順湯 二五
●除湿湯 二六
●梔子清肝散 二六
●医王 二五
●噌虜湯 二七
●玉屏風湯 二七
●虜冲和湯 二七
●宮湯 二七
●正気補虜湯 二七
●麻黄湯 二八
●調中陳非湯 二八
●兒龍湯 二七
●霊四逆湯 二八
●芍芷杏蘇散 二九
●長建中湯 三〇
●加味益気湯 三〇
●噌起班湯 三〇
●感冒五並瘟疫 大頭瘟 發班 三一
●雌黄消毒飲 三一
●参胡温膽湯 三二
●算正 三四
●消風散 三二
●雲参外麻湯 三三
●雌疫並陰疫 三三
●鼈甲湯散 三四
●五苓散 加味五苓 三四
●陰疫虜湯 三五
●消風散 三五

- 香蘇散 二七
- 十神湯 二九ウ
- 木鼈金正気散 三一
- 八解散 三五 解説
- 九味羌活湯 三八
- 頭痛六 三九
- 宮茶調散 三九
- 加味調中医王湯 三九
- 大棚湯
- 兪氏風餅子 三九
- 汪枹定湯 四〇 第四の気散、小芎揚四一、香蘇散四一
- 中寒七 四一
- 姜附湯 四一
- 走理中湯加減 四一
- 活命散 四二
- 十補湯 四三
- 香蔥飲 解説
- 参蘇飲 解説
- 敗毒散 三三 解説
- 算正 萆薢分清飲 三六 解説
- 神効散 三九
- 厥頭痛 三九 一方三九
- 清震湯 四〇 一方三九
- 二陳湯 三九 一方三九
- 香葛湯 三九
- 六君子湯 四一
- 五積散 四二
- 固陽湯 四二
- 榛温中湯 四三
- 厥證八 四三
- 四逆湯 四五
- 中暑九 四三 並霍乱 四三
- 走理中湯 四五
- 清暑医王 四五
- 十味蒸散 四五
- 大煩散 四四
- 加味生脈散
- 元補心润肺 四四 加味生脈散
- 白生散 四四
- 麥門冬湯 四四
- 算正 四四
- 中湿十 四五
- 滲湿湯 四五 二方
- 除湿湯 四五 二方
- 清燥湯 四六
- 虜勝湿湯 四六
- 滲湿湯 四五
- 龍鮫湯 四五
- 除湿虜湯 四五
- 優寄生湯 四六
- 補中治湿湯
- 飲食十一 四八
- 香砂平胃散 四八 二方
- 香砂六君子湯

・二陳湯 各五匁 加減ハ八
・香砂養胃湯 ハ一 解說
・和中飲二方 一方ニ藿香正氣散ヲ加ヘ一方ニ平胃散ヲ加ヘル 九一
▲痰飲（十二） 五〇一
・加味汪湯 五〇一
・千金化痰丸 五一 八味腎氣丸ヲ用ユ
・二陳湯 加減 五一
・導痰湯 五二
・風蔘洞湯 梅花蘂湯 五三 油煎 大連翹湯 五三一
・追風通氣散 五四 清湯ニ溶シ用ユ
▲咳嗽（十三） 五五
・大順散 五五
・三拗湯 五五 名加減
・蘇香正氣散 五五一
・算正 五九一
・加減三拗湯
・清肺生脉散 五六
・葛花解醒湯 六〇 ウコンヲ用ユ
・香氣、香薷散 ハ九 解說
・蘇子降氣湯 六一
・豁痰湯 六一
・消痞湯 六一一
・清心導痰湯 解說 六二
・加味四七湯 六三一
・清熱化痰湯 五四 三因四物湯 五四 利氣丹 五四一
・小青龍湯
・秘方 五五一
・清肺湯 五五一 一名清肺湯
・加味四君子湯 五五一
・保肺湯

・東垣浮白散 含小甘此湯 五七一 例 五九一 解說
・桔梗湯 香蘇散ヲ用ユ
▲喘急（十四） 六〇一
・蘇子降氣湯 加減 六〇一
・五味子湯 六〇一
・風蔘洞湯 六一
・加減浮白散 六一
▲労嗽（十五） 六二
・龍走小湯 六二
・小青龍湯 各ノ半 六二
・敍労散 六二
▲癇疾（十六） 六三
・駆邪湯 六三
・茈桂姜湯 六三一
・松風散 六四 鳴蟬、養正丹月湯 六四 解
・參朮調中湯 五八一 橘皮調湯 五七一 例 六〇
・靈神湯 五九一 四物湯 五九一 蘇飲 六〇
・旋覆花湯 六〇一
・一方 六一
・大翹湯
・四磨湯 六一 加味四七湯 六二一 降火湯 六二一 七気湯 六二 九文 六三一
▲大青龍湯 各ノ三 六三
・一方
・桂枝加柴胡湯 六三一
・医王 加甲 六三一
・六君子湯 加減 六三

・人參養胃湯
・涼解湯
・驚甲飲子 六五一
・九味清脾湯 六九 解
・參歸驚甲飲 六五一
▲劑 七一 十七
・逆挽湯 七一一
・參冬柏散 自製 七一一
・香連丸 九文 一解 七二
香砂養胃湯
・胃苓湯 玄 七三 土者出
・參蚊鍼湯 七四
・六柱飲 七九
・九文 加減 前に在す
・神木湯 七九
不換金
・一方 汪先敎 六七 人參滑涎鍼 七〇一
・人參截瘧飲 六五 解
・七味清脾湯 六八一 解
・嚼竹瀝飲 算正 七〇 天香湯 七〇 香蘇散 飲 七〇 小柴胡湯 七〇
・柴參湯 七一
五味異功散 七一一
・倉稟散 七二
・胃風湯 七三一
・粮中湯 七三一
不換金 加減 七五
・調和飲 七三一
走理中湯 加減 七四一 一方 七四一
啓脾散
・一方 七四一

・羌活湯 七四一 大珊瑚湯 七五
・和中湯 延壽陰 七五 解
・眞人養藏湯 七六 解 本書化裁九 七六一
▲泄瀉 十八並不伏氷土
・建中湯 自製 七八
不換金 七八
・胃苓散 七八
・四參散 七八一
・胃風湯 七八一
・木天鍼湯 抱靈鍼湯 七八
理中湯 加減 七九
香砂六君子 加減 七九一
・前朴散 八〇
・胃苓湯 加減 八一 解
・十一味木香散 八〇
六君子 加減 八
算正 七八
粮中湯 七八
・五苓散 七八一
・八柱散 七九一
・五霊湯
參苓抱散 自製
・温脾散 七九一
・水浮劑疾神方 并 八〇
解毒湯
・錢氏白朮散 八一
秋傳斗門散 清暑一遍五 七五
・芍藥湯 鍼湯 七五一
香砂養胃湯 芍藥湯 七七 五積散 七七 九味湯 脾湯 七七

小續命湯 八一
加減白朮散
香砂養胃湯 八一
七味枹散
▲ 嘔吐 並呑酸（十九）
小汪加強湯 八二
算汪湯 和 八二
理中湯
走理中湯 八二
六君子 八二
生津補血湯 八二
加味二陳湯加減 八二
香砂平胃散 案 八三
香砂湯 八三
連竹茹湯 八三
順気和中湯 八三
一方 八三 八三一（三処方有）
前木散 八三一
加味二陳湯
一方 小兒 香蘇散 八四 客流気飲 八四
一方 小兒
定吐紫金核 八四
▲ 飜胃 並閙臺（三十） 八四一
利膈湯 自製 八四一
安胃湯 八四一
六君子 八四一
六黄湯 秘方 八五
生津補血湯 解 八五
辞艱血湯 八六 解
順気和中湯 八六 解
嘉禾散 八七 解

▲ 歳（三十一）各呃逆並噯気嘈雑 八八一
一方 古意自製 八九 外二一方有
保元湯 八八一
加味二陳湯 八九 加方
一方 秘方
加減二陳湯
人参養胃湯 八九
▲ 諸氣（三十二） 八九一
三和散 証解 八九一
七気湯 古意 九〇
天香湯 九〇一 正気九一一 解
蘇子降氣湯 九〇一
腎切圓
分心気飲 九一 解
分気補心湯 客流気飲 九三
密流気飲
加味四七湯
三八味 九三一
▲ 水腫 二十三 並脹滿鼓腹 九四一
枹走湯 九四一
五苓散 九四一
三和散 九五
葶藶瀉肺散 九五
水腫之一方 九五
分水湯 九五
保元湯 九五一
五苓散 九五一

・補中治腥湯 九六 九九ー
七味清暍湯 九六
・温暍飲 九八ー
六君子 九八ー
蜜流気飲 九七ー
▲積聚 二十四 附痞滿 九九
・大七気湯・是指迷七気之・七気湯 九九ー
・柴平湯 九九ー
香蘇散 一〇〇
七味清暍湯 一〇〇
・虫積匂月虫寄方 一〇〇ー
古 理中湯 一〇〇ー
・人参ノ散・ 一〇〇ー
・五香湯秋婦人諸証痞滿 一〇〇
・五種丸茶方 玄参 息賁丸 一〇二 葶藶丸 一〇二
▲補益 二十五 並諸虚 一〇二ー
・四君子 一〇二ー
・五参散 道意加減
分心気飲 九七
分気補心湯 九七
・廣茂潰堅湯・鼓脹 九八
古 ・大建中湯 九八ー 三和散 九七
胃苓湯 九九ー 葉正 九九ー
・八珍ノ 一〇二
・十全大補湯 一〇三
六味丸 一〇三
・芪附湯 一〇三
長建中湯 一〇三ー
・補血 一〇三ー
・歸脾湯・ 一〇四ー
・班龍丸 一〇三
・参ノ附湯 一〇三
・噌湯 一〇三ー
・長湯 一〇三ー
・舒中益 一〇四
・生津補血湯 一〇四
・医王 一〇四 解
降火湯 一〇四 大神元湯 一〇七
▲諸血症 二十六 並吐血咳血咯血衄血便血 一〇七ー
・犀角髄湯 一〇七ー
・神効散 一〇七ー
・一方疾血 一〇八
・清噦湯 一〇八
古 ・梔葉湯 一〇八ー
一医王 一〇九 解 小柴湯 一〇九ー
・清咳湯・ 一一〇 天香湯 一一〇 靈神心湯 一一〇
保元湯 賀 一〇九ー
・噌飲子 一〇八
・清腸湯 一〇八ー
・梔花散 一〇九 敗毒散 一〇九
・清肺湯・ 一〇九 東垣治白敷 一〇九ー

噦(ニンシン)養栄湯
▲自汗盗汗(三十七)
長建中湯
・薛(セキ)髄湯・
・参芪湯(人参黄耆栄湯)
順気和中湯飲
一医王
▲脇運(三十八)
・桂枝湯
一医王
・四君子・配剤
加味四君子湯(脾胃虚弱ヲ治ス)
参苓白朮散(蓮肉薏苡仁砂仁桔梗山薬扁豆)
▲淋症(三九)
・灸効湯
・霊調血湯
・髪灰散
・一方諸血(自製)
・白龍湯
・分心気飲
・薛六黄湯・
・補肝湯(参附湯)
滋陰降火湯
六君子(陰虚亜聖教)
・疝定湯(疝気定湯)
・五苓散
・生蒲湯
・五淋散
・治血淋二方
・清心蓮子飲
・八正散・
・秘茶五方
▲痛風三十(並歴節风痺痺)
・羌活湯加減
・清湿化痰湯・
・疎経活血湯・(解)
五積散(胃苓湯)
養栄湯
・痛風中風之付茶(ばかね 風道 ゆ)
・二朮散
・木香湯・
・龍胆瀉肝湯・
小芦湯 三積散
▲背痛三一(並腎痛)
・羌活湯
・参合湯
・流気飲子
・加味逍遙散
・両首散(葛根湯ニ猪苓ヲ加フ)
・大羸湯
一医王

交加散 一二五
・脾痛湔湯 一二五
・秘方 脾痛 一二五
・蠲痺湯 一二四
・活絡湯 一二四
・三术湯 一二四
五積散 一二九

▲心腹痛(三二) 125
・赤石脂丸 一二五
・七氣湯 一二五 加味 一二五
・檳榔散 一二五
・加味逍遙散
・没薬散 一二六 香蘇散 一二六
・三因四七湯 一二六
・胃虫一方 一二七
・針後胶筋挛急一方 一二七

・舒筋湯 一名五痺湯 一二七
・滋栄調中湯 一二七
・加減鶴痺湯
小續命湯 一二八
香蘇散 一二八
勝湿湯 一二八 三和散 一二八 宮流気飲 一二八 烏薬順気散 一二八
・九痛丸 一二九 125

・神効湯 一二五
・烏薬散 一二五
・算正 一二六 小此樂 一二六
・加味七気湯 一二六 天香湯 一二六
・蟠葱散 一二七
・三川胶妙薬 一二七

▲腰脚痛(三三) 127
・補腎湯 一二七
・珊湯 一二七
・腎著湯 一二八
・芫湯 一二八
一方 医学 一二八
・調肝散 一二八
・僂湯 一二九
清湿化痰湯 一二九

▲疝氣(三四) 129
・薛四逆湯 一二九
・神効散 一二九
・茴香丸 一三〇
・蠶湯
・小芫湯 一三〇

僂寄生湯 一三〇
・苓葛湯 一三一
医王 一三一
・分気飲 一三一
・人噛順気散 一三一
・異香散 一三一
五積散 一三一

・一方 冊溪 一三一
・川練湯 一三〇 三の宮散 130
・神効散 一三一
・昊茱湯
・一方 130 烏蠻通神湯加
三和散 131

・烏霊通気湯 130
五積散 131
・須気散傳 130
▲ 贅肉症（三五） 132
・薤活血湯 132
・天香湯 132
二陳湯 132
・滲湿湯 132
・蜜調気飲 132
▲ 内傷 三六 133
・医王加減 133 解
・参苓白朮散 134 解
・参苓抱丸 135
▲ 驚悸 三七 136
・温膽湯 136 天香湯 136
・薤子降気湯 136
・内疝散 杜文子 130
・草蝉蛇散 七味清膵湯 130 小柴湯一名 香蘇散 131 神効湯 131
・香砂平胃散 132
香蘇散 132
・外陽散火湯 132
・六磨湯 132
・萬病養胃散 133 越鞠丸一名
・外陽補気湯
・木香化滞丸 135 一方 薤養血湯一三五
▲ 虚煩不寐（三八） 137
・浮心湯 137 人参養栄湯一三七
▲ 遺尿失禁（三九） 並小兒 136
参附湯 136
・芪朮飲 136
飯牌湯 137
・柔蠔蛸散 137
▲ 小便閉（四十） 137
三和 137
・蹉降気湯 137
・七気湯 137
・五皮散 137 一方 138 一方
・八正散 138
▲ 大便閉（四一） 138
・麻仁丸一名脾約丸 138
医王 139
▲ 脚気（四二） 140
・潤腸湯 139 宮流気飲 139
三和 139 小柴湯 139 一方

大瓲湯 140
・三妙丸 140
・枳御散 140
・越婢湯 141
・紫蘇散 141
▲咽喉（四三）並結核 梅核喉痺 142
・汪湯 142
・九味芎藭湯 142
・口舌牙齒（四四） 143
・珊湯 143
・固齒冊
導赤湯 144
六味丸 144
▲面病（四五）並鼻病 耳病 鬚髮 145
・寧湯 145
・辭拓痛湯 140
・陶氏明統論 142
・木瓜散
・千金続命湯 141
・越婢湯 141
・蘇散 141
・九文 寧鷄湯 僵蠶七湯 142
・和散 141
・玉粒散 142
・客流気飲 142
・内消散 142
・寧湯 143
・序瞬散 143
・一方 口中總司 一色玉 144
・八味丸 144
・人參理中湯 144
・四物湯 144
・一溪方 145
・芍芷湯 145
・梔子清肝散 146
・通明利気湯 146
・固腎丸 147
▲痔漏（四六）並請痔 脫肛 148
・辭免湯 148
・孕朴夏 148
・秘方 148
・芩連湯 148
▲體氣（四七）並懸癰 諸蟲 149
・秘方 149
▲遺精（四八）並夢遺 150
・奇効丸 150
・寂心湯 150
・清心湯 150
▲消渴（四九）並多飲 151
・桂香散 145
・清神散 145
・一方 146
・醉仙散 146
・一方 146
・寧湯 143
・一方 口中總司 一色玉 144
・八味丸 144
・人參理中湯 144
・四物湯 144
・祛風湯 145

・五苓散 151
・調胃兼気湯 151
五苓散 151
・文蛤湯 151
▲眼目（五十）152
・龍湯 152 薑散 155
・滋腎明目湯 152 五味子 152
・泥宮湯 155
秘傳書考可療
・菊花湯 152 一流 152
・二方 洗薬 鼠糞散 一五四 甘菊湯 一五四 日野薬 風眼血目 一五三 防風通聖散 一五三 かけ薬 二方 一五五 一方竹一五四
・糠血清心湯 156
・連浮心湯 156
・驚定湯 156 解毒湯 解悸し
・噌白虎湯 161
・八味丸 151
・補陰湯 151
・銭氏白朮散 151 参苓白朮散 一五二
・大黄湯 159
・清熱除湿湯 159
・茵陳五苓散 160
・四苓散 159
・走理中湯 加味 159
二方 159
▲虚労（五三）160
・補肺湯 162
・十四味建中湯 162
・噌糠栄湯 163 解
・滋陰至宝湯 164
・滋陰降火湯 160 糸下清離滋坎湯 出ス 160 解
・小建中湯 163
・洞飲子 162
・霊補心湯 163 解
・逍遙散 165 解
▲痙（五四）166
・栝蔞桂枝湯
・當歸湯
▲健忘怔忡（五五）166
・浮心湯 166
・糠血清火湯 166
・妙香散 166
・飲脾湯 166 出ス
瓜蔞瞿麦湯 167
参眠養栄湯 166
一方

・一 中風 1
・二 麻木 7
・三 傷寒 並陰毒 9 瘧疫 ・四 痲疫 並陰疫 23
・五 感冒 並瘟疫・大頭瘟・発斑 25
・六 頭痛 39
・七 中寒 41
・八 厥證 43
・九 中暑 並霍乱 43
・十 中濕 45
・十一 飲食 48
・十二 痰飲 50
・十三 咳嗽 55
・十四 喘急 60
・十五 労嗽 62
・十六 癪疾 63
・十七 痢 71
・十八 泄瀉 並不伏水土 78
・十九 嘔吐 並呑酸 82
・二十 翻胃 並隔噎 84
・二一 歳並呢逆・噯気・嘈雑 88
・二二 諸氣 89
・二三 水腫 並脹滿・竅脹 96
・二四 積聚 並痞滿 99
・二五 補益 並諸虚 102
・二六 諸血証 並吐血・咳血・喀血・衄血・便血 107
・二七 自汗盗汗 111
・二八 脈運 114

・一 卅崇(五六) 167
・敗脾湯 167
・一 瘡瘍(五七) 168
・加味五香湯・ 168 鮮精
・五香連翹湯・ 171
・薫烟薬 肥前瘡
・薫烟散 自握下
・一 金撲瘡(五八) 171
・十五味 三五味湯 171 解
・蒲黄散 172 人参 鼈甲 散
・寛中圓 172
・一方
・白朝散
・茯神散・婦人 169
・十六味流気飲・ 169 解
・升麻和気飲・ 171
・雑病(五九) 173
・分気散 瘡毒腫主方(甘) 解 173 合口湯 174
・薫薬(一痒瘡) 174 苓連七味湯(高)(瘡毒) 174
・鬼蘇散(小児瘡毒通用) 174 金花散(小児瘡毒) 175
・玉虎丹(内外用剤) 175 瘟疫散薬 175
・順和湯 175 其他多数外用剤
(次の頁次への頁の終り)

・二九 淋症 116
・三一 背痛 並臂痛 122
・三三 腰腸痛 124
・三五 瘧疾症 132
・三七 驚悸 136
・三九 遺尿失禁 並小兒 138
・四一 大便閉 138
・四三 咽喉 並結核・梅核・喉痺 142
・四五 面病 並鼻病 耳病 鬚髪 145
・四七 體氣 並懸癰・諸蟲 149
・四九 消渇・多飲 151
・五一 癲病狂 156
・五三 虚労 160
・五五 健忘怔忡 166
・五七 瘡瘍 168
・三十 痛風 並歴節疼痺 119
・三二 心腹痛 125
・三四 病氣 129
・三六 内傷 133
・三八 虚煩不寐 137
・四二 脚氣 140
・四四 口舌牙歯 143
・四六 痔漏 並諸痔・脱肛 148
・四八 遺精 並夢遺 150
・五十 眼目 152
・五二 黄疸 159
・五四 痙 166
・五六 非崇 167
・五八 金瘡 171
六十 婦人 178
・五九 雑病 173
六一 小兒 184

婦人(六〇) 178
五香湯(諸病) 178 暑邪ニ感シ吐瀉ス此抑肝湯 178
四物調至湯 178
五積散 179 解
香蘇散 179
調気養血湯 179
人參養胃湯 179
八解散 181
九文 181
醫王 182 解(補中益気湯)
滋陰降火湯 182
喜脾除煩湯 183

小兒(六一) 184
天花湯 184 亦 184
虎口三關陽左陰右 184
十見痘毒驚風疑似方 185
抱龍散 185
醒脾散 186
護神湯 186
神脾益真湯(外感裏症) 186
木香散(驚風) 186
七味清脾湯 186
錢氏柏散 186
五香湯 184
阿昆羅散(胎毒) 184
栖霞林敗毒散 185

# 中風

●八味順氣散 局方 大抵之中風先此方用忽然而服不遂
昏服喎斜言語渋草卽甚槩倍增去究
抱靈光 驚霹靂 噤一名師仁 姜水煎
大寒之症ナレハ鬱順氣ノ用意シ扱ヤ元氣雪ラ
八四肢不遂言語蹇渋スル計ナラハ大蓼究一候氏
黒散杯ノ用ヒ久シクシテ与ヨリ其中血ナク燥症有ハ蓼究
究ノ氣不順之者ハ黒散ヲ奇字物メ氣虚ノ
者ハ四君ハ君ハ黒散ヲ無用〇血虚之者ハ八
珍ノ養良胃ノ類ヲ黒散ヲ無用ヨリ女ハ手足ノ
風ヲ去程ニ四肢不遂ニハ必用ヨ

●鬱順氣散 寒症七情之類用●治風氣攻注四肢
骨節疼痛シ遍身徇麻風ノ卒中手足癱瘓
言語蹇渋スル者ハ先宜服此藥以疎通道然
後隨証投ス風ノ藥

龍齒鮫ニ蚕宮薑師梗老ニ
強狐　姜棗ニ・一身疼加噌抱薛湯
●中風ニ先表気ヲ須利スルニ能葉ニ此方ヲ用
●辛中風杯ニ先八味須気ヲ杯ヲ十服ニ用気ヲ四メ
後ニ此方ヲ用表ヲ須メ吉
●中風メ目眼ヒキツリ此彼瞤動スルニ此方ヲ用切々
治メリ余方未識

●中年之男常ニ過酒之人ノ患中風俄ニ口喝ミ舌
強リ言語ツカヘテリ皃寒リ頭痛脉浮滑之此
方用ヲ二十余服過半安後八十七服ヲ全愈

●久患左癱右瘦去龍加漸珊虜汪星蜜薛〇口
眼喎斜加連虜珊黄〇遍身疾痛加薛菌
乳没〇脚膝浮腫加倍僵蚕〇腰痛加倍仲
回〇眼眩加茶〇四支冷痺加走菌〇癱瘓
三年不能行者合僵寄生湯〇婦人血風加

珊菀黄〇胃膜脹満洞茂〇虚汗去龍加長
〇中風面目十指俱麻乃気虚之用医王加蜜走
虜珊鰩菌〇腰痛初発者不問内外感並治
行気香薷散　舒雲薑鰩宮虜老龍
●　姜水煎加讃蜜琴茂支
●大葱一把　元気四肢不遂言語蹇渋血ヤ燥症
是血虚也●中風外無六経之証内無便溺之但
隔知メ血弱不能養筋故手足不能運動強
不能言宜養血而筋自栄此方主之
芎青薛疑仁虜抱薑玄霊宮僵
仁珊　艾菀離玄小彡師仁
●此方血ヲ以テ筋ヲ艱ヒ手足痺腰ヌケ舌
痺不能言用是皆血虚也
●中風養生薬ニ住左尺脉微細ニ入難用膏肓
又入故ノ常ニ息奨之人気悪脉沒大数ニテ

元テ中風生セント思時之養生菜ニ用一段吉之
左右ヲ不分用テ佳ト
●此方之症ニテ脉微細弱ナラハ固春之中風門ノ猿
栄湯林用テ吉
●緩風ニ吉ノ両股痲木シ肌肉瞤動スルニハ三拿之内
ニ中風スト古人モ云リ是緩風也此方用吉ノ又虜
愈風湯之証也其内脉ニモヨルヘシ表証有ハ勿論
散佳ト又モシクハ風熱盛ナラハ珊瑚聖一連
解毒一之症ト脉モ洪大熱甚ハ猫以ノ documento
●物忘頻死ニ同尿利スルハ死ス
●中風之如ノニメ右強テ難言メ疾モヤノ熱モヤ
キハ中気トスリ此方膏文ニ用テ吉方ノ中風ニ
少疾有物ノ
●此方ハ足痺シ右強テ難言内々ノ養生菜ニ
吉方ノ方考法論有

●候氏黒散 女胃肖 枹仁 小豆 霊蛎 豆揖 ハ
珊仁 噌甘 檗ニ 文弘 薜 強宮 枝豆
●一医王ニ定走ヲ加元来脾胃虚弱ニメ中ラシ
久ルハ他症ヲ不治ト専脾胃ヲ補カ良ノサ
ニテモ大便滑カシハ外ノ documento
実スルヤヲニ可療噌枹走ヲ多ク可用中風
ニノ死スルニ何カ能サリテモ大便カ滑ルニヨリ
忽然トメ死スル documento
●肥人気運リカスルニ蛮ヲ加陽気ノ虚弱ナルニ
発〇凡中風ニハ老ノ類ハ女々ニハ不用カ良ノ
方中ニ有共不用
●黒散半身不遂口眼喎斜言語渋涎多等症
惣メ中風ニ皆用各湯薬煎用重症ニハ噌枹
之要湯大剤而用
●局方大珊湯 卒倒仆半身不遂口眼喎斜右

本綫不語者先保元湯參附湯用元気已復而有不遂之処拘急疼痛當用此方養気血疏通筋骨経脉及小児鶴膝风婦人産後侵入濕腰背手足痛者皆當用之

芎當歸切也 羌活 桂枝 防風 白朮 參考 當歸 川芎 牛膝 酒洗 杜仲 薏苡仁 去粗皮細切姜汁拌炒 牛膝 酒洗 杜仲 薏苡仁 炒 防風 羌活 桂枝 當歸 川芎 白朮 參考

右細切作一服水二盞生姜五片棗二枚煎至一盞空心温服

●灯下大棚湯 弱緩痛不能行名曰痹风或両脚腫痛足脛枯腊名鶴膝风一切麻痺疼軟风湿挾虚之候服之如神

羌活 防風 白朮 地黄 酒洗 當歸 川芎 牛膝 酒洗 杜仲 桂枝 羌活 參考 防風 白朮 地黄 酒洗 當歸 川芎 牛膝 酒洗 杜仲 桂枝 羌活

盡當服此茶加減治之中風緩々久々養生
茶之亦収肝虚而筋骨弱養神調理
陰陽便無偏勝治中風内外無邪服之以
行中道ヲメ抔ヒクメノ二用脈モ亢之
長噌薢酸菟絲杞仲蘭元師
虜珊苡女小龍万蘘籙雷膏
苡文老蒺藜便
姜水煎

・治虜愈風湯・治腎肝虚ム筋骨弱ノ語言蹇
渋精神昏憒安忘養神調理陰陽便無偏
勝治中風内外無邪服之以行中道
虜珊師万宮小老髄噌龍苡
女薢雷芫長籙杼僂薑仲苡
汪蒲防己霊文鉄
欠伎ノ

・中風セハ先表ヲメクラシ裏ヲ通メ枚後ベシ
くゝ久艱生薬二吉ソ

・目之上下胞ヒクメクメノ二吉又脈モ亢二吉膏文
菟之茶有故ノ想別茶味多キ方ハ言語
二不及古人ノ不載能有ルソ

・天陰朦朧之時又南風之雨ケノ時発スル
頭風ニモ用支有此中風心有ハ幸ノ支ニ

・畢竟ハ肝腎之真水虚ム筋骨痿不叶
二吉

・珊通聖散・治諸風潮搐手足痿廃小児急慢驚
風大便結閉非拠是腸胃乾燥寝汗咬牙
上竄膃語筋転驚悸脱肉蠕動ソ
珊宮薢鍼皮芒竟荄龍ノ膏
粤得文袍黄独液師荊生姜三片

・中風方ニ風拠ニアメリ不知人事脈洪数ニ
成テ拠ノ有ニ用也夫中風不限一切驚狂譫

ナスルノ病屢熱ヲ治脈洪数ニ有テヒツ〳〵
トメ有ニ用テ吉此ニ熱ノ此方ヲ用得効

●気虚メ脈弱ハ八味須ーホレテ物忘スルニモ八
味須ーノ此方ノ症トニキルベシ

●此方狂病ニ用狂病多クハ皆風熱ノ常ニ
毒ヒ師ノ減メ用ベシ狂ニ其促ヲ用解毒湯
モ佳先此方ヨシ眼ニカト兵狂気ト可忍得或
大兼気ー杯ニ用皆熱実ノ證ナルヘシ熱ノ実
下スヲ用ノ三焦ノ熱ニ連解毒ーヲ用

●風熱之方ニ五積ートヲ表裏之方ニ春夏之温
病熱病専用ノ河間所作立方ニ仲景往枝
湯冬ニ加用春夏ニモ専用ルソ

●或人労ヲトメ煩ヒ卒中風口禁不語久脈弦
数洪大而ヨワ〳〵トメ言時々驚玄治公此ノ
方用テ治ラレタリ予モ度々治タリ惣別
気虚メ中風シ脈モ弱ニハ八味須ー吉又中風
之証又余病ニテモホレテ物忘スルニハ此方佳
故ハ大聚風熱心腎ニ雍エリ君主ニ大方此
方ノ証ト八味須ーノ証トニキルベシ改之

●加減除湿湯(回)治中風右半身不遂手足癱痪及
筋骨疼痛(スルヲ)一名廖氏湿痰の薬
噌ハ(ズ)袍(ニ)茅(ヲ)霊仁薤(ヲ)(敗)
鰐(ノ)老(ヲ)連(ヲ)汝(ニ)厲(ヲ)

●身痛加羸脚痛ハ加膝防仙一

●五積散之條下ニ或人口ヨリ俄ニ変出テシワ〳〵ト
云似中風五積ーヲ用テ治ス寒湿ト思テ治ヌリ

●二陳湯(合)加薜鼈宮(ニ)厲珊防噌一

●五十計男肥白常ニ酒色過多急ニ中風ヲ
患倒臥於道塗中不省人事身体僵直ス
口林示テ不語メ喉ニ痰鳴脈左ハ浮大弦実用ニ

一

槍皂方得噦吐出疾涎二椀計知人事用汁
續命湯汗出但不至於下体身体麻痺右
ノ手不挙治・肥人ノ中風左半身不遂手足癱瘓及
・加減潤燥湯　治中風左半身不遂手足癱瘓及
語言蹇渋而欠噴嗽面目眼喎斜寛弛
頭目眩暈疼火熾盛筋骨時痛頸或
痛心悸
薛氏宮桂霊星製汪定イ朮茯
髄燒汁鬻膠汶酸ク菲ク蠲ク
離細湯イ師細瀝善
・手不遂倍文菌足不遂倍汚膠
・加味大補湯　左右手足癱瘓者此血氣之大虚
也宜此方
長嚼桂霊薛宮朮髄イ走駈
蜜イ鰾膠酒仲酒ル珊ク萸ク

菌師イ　姜棗ミ
右ニ三方或ハ左或右纏綿トシテ用ユ
其内ニ見分テ脈ニ元ヲ大蓼花ー佳
・小續命湯　治暴中風不省人事漸覚半
身不遂口眼喎斜言語蹇渋肢躰麻痺
神情昏乱頭目眩暈疼延多ク
・東垣曰中風自汗者不可重発其汗仲景
曰汗出ハ則止ム条故此菜不可軽用
龍嚼麻文的宮杏防風菌珊瑚イ
走狂　姜棗ミ
・風症二テ肩背痛ハ文蠲勝湿湯ヲ用
テ不効ニ此方吉惣別肩ニカニウス脚手抔ノ
痛ニ用之又中風ニテ身節痛ニハ用
ソ
・卒中灸処毋田寺気海于五分　神闕

## 麻木

並麻ト木ト之論摘要ニ委出

・加味医王　手足常ニ麻痺者中風之漸也預服之最ニ
未然ニ麻痺ハ気虚ニ加光宮艾
長曽枹薤笛仁蜜炙薑炙走仁
医王条下麻痺ハ気虚ニ兵戸ニ文宮ヨリ艾ニ至ル迄ノ薬味ヲ指ス又麻ノ字ハ門ニ有又画麻ノ字ハ广ニ有又気虚ニ加ル薑ハ薑薤ノ薑ニ非ス
師艾　水煎　麻木門ニ有又気虚ニ加ル薑ハ薑薤ノ薑ニ非ス
・五補湯ヲ為之予改為湯
長曽鍼炙薤仁走仁　水煎

・八仙湯ヲ　治手足麻木
薤宮仁鍼炙芫仁嚼仁枹細末霊仁薑
仁汪仁笛仁莒細辛珊炙芎仁膝仁師
仁　姜棗ニ水煎

・加味八仙湯・物ノ麻木ハ虚ナル程ニ他方ヲ悪ノ此方
ヤ十全抔カ良ノ麻木トハレヒリノキノ艾ノ手足
計ニ不限一身ニレヒノチレルヤウニ成ル艾ノ痺不遂
ヲ以医麻木ト心得テ療スルハ誤也

枹仁霊徳露蘭的細薤宮髄注仁
曽芫膝仁虜珊杉車仁枝師杉
姜棗ニ水煎
・痲痺痿痺ヲ右ハ皆中風ト又類証ト杉ノ間然先ヲ此方用テ吉
・治手足麻木或疼痛
・湿内ニ有テ手足レヒレヒリくトメ痛ニ用畢
竟ハ気虚之又痰痺ハ血虚之止痒ヲ食ヲ
ル口之如ノ成ニ用テ吉気虚之症ハ痰テレヒノ
く此方ヲ気虚ノ風湿ニ感ヲル衝症ニ
・湿痺ハ肥盛之人ニ痰煩出ノ此方吉故ハ肥
盛人ハ虚メ湿ル者故ニ佳ノ○疎経活経通
ハ血虚用ル気計不須ニテ一身麻痺スルハ鶏
頂気レ中ル・上体ノ麻木気虚之医王○十指
麻木ハ湿痰死血之此方○或人上体ヒリくトメ
取分右ヒリメキ酒ノ味ヲ不覚ニ此方治スル○
婦人ノ麻ニ五積感ニ加支車度々治スノ

二

・導氣湯　治両腿麻木

長仁師粳光仁寧薤瑜露独茎(木粒)

離ヲ　水煎温服

・大珊湯(おおさんごとう)中ル　治去ル煩気活血壮筋又痢後脚

弱緩痛不能行復名痢ル或両脚膞足脛

指細名鶴膝ル一切麻痺疼軟ル湿挾虚之候

・大秦艽湯中ル　四支麻木シ肌肉胴動又ハ中ルス

トキリ ル熱盛ニ可用連ニ

・連解毒湯　連(れん)文房(ぼう)(梔)粟(ぞく)(梔)離十指麻木ヲ治是胃中

二有湿痰、死血故ニ加ヘテ佳シ

・四君子湯加房文(ぼう)薊疼症気虚妙シ

・四物湯　加房薊疼症血虚ニ用

・便寄生湯(温筋膝足痛テ不宜中ル二此方ヲ用ル

先ヘ不行物ル故ニ方計ニテハ難行筋血ヲ強ル者ヲ取リ

ヘ可用

・二陳湯　加薊(あざみ)柏(はく)粟(ぞく)離十



八三　傷寒、並陽毒瘡疫

・寧雛(ねいすうまかつぶ)湯　治傷寒、頭痛特疫憎寒、壮熱肢体

痛甚熱悪寒、嚏乾不得睡無治睡不時ヘ

多病疫乍暖脱衣及瘡疹已発未発疑似

之間宜服・陽明之薬ニ嚏乾干目痛不眠元

行悪寒ヘ発熱ニ

・小児急疳(小児ノ瘡ヲ疳ト云ヒ)軽ヲ三ケ一加減シ

雛(すう)粟(ぞく)寧(ねい)鶏(けい)師(し)仁　姜水煎

嚏　・咳嗽箕加・上焦熱文花加・無汗罷加・咽痛

桔加・発黄茵蔯(いんちん)茯(ぶく)苓加

・痘瘡発熱傷寒ニ疑似之間ニ用方ノ或参

薬飲改表ニ寒ニ邪盛也故ニ表ヲ解ス

衛ハ栄ニ和メ痘十ニハ痘瘡出ノ

・班疹出テ或ハ未出煩悶乱ス此方宜シ

改ハ寧雛ハ表熱解鋭栄ヲ和シ師ハ衛ヲ

和スル

●風毒腫ニ此方妙ノ度々手栝ヲシメヨ

●小茈湯　治傷寒三四日脉自和ノ。急而数ノ。病傳シテ陽経ニ其症頭疼發焼腸痛耳聾嘔吐口苦寒ミ熱往来此半表半裡宜和解ス

茈胡（半夏）　芩　半夏　師　甘草　汪　薑　人參　棗　生薑（水煮）

●如棗核名曰味茈湯●心中飽滿加桂老ニ心下痞滿加連（黄連ニ加ル字）洞●湯加雷芒●内熱甚錯語煩不得眠去房棗ヲ是解毒湯ニ

●治之小茈湯治傷寒四五日往来寒ミ熱ミ青滿腸痛心煩喜嘔風濕身熱邪在ニ陽経一

茈胡　芩　文　薑　師　汪　薑　甘草　棗

●此方ハ邪在ニ陽経一用ニ吾方一邪在ニ陽経一半表半裏也邪半表半裏ニ有時ハ寒ミ熱往来ス又邪在ニ陽則脉痛故ニ陽経ニ両脉ヘ行ク故ニ脉痛ム●又口苦ミ膿汁上溢故ニ口苦シ又脉脉強ハ肝膽ノ欤五行ニ有テ為木有ニ重枝之象一故ニ弦ミ此方ハ茈性辛温ニ辛ハ金ノ味ニ故ニ用ニ之挙ニ温ハ春之気故ニ就ニ之以入ニ陽ニ又者欤枯ニメ味苦シ枯則能降ス君以ニ此ヲ則ハ能降ス若以ニ此ヲ則ハ能浮ス苦キ則ハ能降ス君以ニ此ヲ則ハ能浮ス



ハ陽ニ入然ル邪之入ヲ傷ルコト常ニ其虚ニ乗ス用ニ噌師中気ヲ助ケ後傳テ不能ス衰耳ハ又邪初テ入裏ヲ気逆而煩嘔ス故ニ用ニ姜製汪除嘔逆邪半表半裏ニ有トキハ栄衛爭ヲ故ニ用ニ姜棗ニ辛耳以栄衛ヲ

栄ノ

●平人言ヲ聞ケシノ合ス二陰之寒ミ熱ミ下ス此方ニ陰光ノ●半表半裏ニ又心下滿テ不食大便硬脉細袍錄ヲ加テ妙ク或滿心亀甲湯可シ方ハ白朮 汪 薑 雪亜 連 辞 茯苓 宮 噌 酸 葛 師 姜水煮ス

ノ又況是裏症也頭汗出微シ悪寒手足冷ル是表症也此方吉

●畢ル七ヘリ四ヲ五ヲ見ヒシ十二竜四日光ノ加ヲ

●脉浮弦小便難ノ嘅シ脛滿テ脛痛ミ无汗嗜臥此方ニ亜ヲ加ヘテ用

●傷寒痞症心下滿ヲ不硬(カタカラ)テ痛ニスル(ハ)痞トイフ或(ハ)只心下ニ水滯テ滿ス痛ニズ姑(シバラ)ク此二症共ニ開ヲ加用スル者此二症共ニ開ヲ加用

●傷寒ニ渴シ脈弦ニメ嘔シ渴スルハ非半表半裏ニ有此方ニ栝根ヲ加ヘ佳シ

●傷寒發熱咳メ咳スルニハ本方

●汗多メ渴スルニハ此方ニ去(サリ)注(ソヽグ)加栝根(ヘ)噌(ミソ)ヲ增

●婦人経水之時傷寒發熱シ盆(ホトヽギス)明(ケ)ニメ喜譫語スルハ熱入血室ニ此方ニ芫(ハナ)加(ヘ)用テ吾救人ヲ治ス

●一婦傷寒ニ甚シキ時産メ譫語シ青イキレ脈倫(ヒトシ)キ(ヲ)ヌスシ小便通セザルニ此方鍼(ハリ)終ニ粟ヲ加五貼ニメ平安ス●發熱往来譫言多メ尿渋リ悸動スルニ吾

●傷寒十余日汗ヲ發シ吐下メ後四五日小疵湯症見ハ先此ノカヲ与ヘヨ吐止ニラス心下窄メサレ煩スル物ハ未メ解セズ大疵ニ与ヘテ正ヌ而愈ユ

●平人風ニ當テ口酢メ苦キ(ヲ)ヌ斬(キル)ザルモノハ肝膽ニ寒熱アルニ此方ニ茂先ヲ加テ妙シ

●婦人ノ経行之時多怒リ月事止ミ口噤ミ筋ヲ引ツリ鼠血出テ頭痛ミ痰気有テ搐搦シ瞳子上視(シ)脈弦滑濇ナルハ此肝火ヲ熾盛ニテ患所ニ此方ニ髄(ホネ)粤(ノ)鈎藤(カギトウ)ヲ加ヘ平安ス

●大疵湯 治傷寒内實大便難(カタ)キ寒反悪熱此表未除裡又急也

紫胡 黄芩(ゴン) 大黄(ワウ) 芫(ハナ)細(コマカニ)注(ソヽグ)ノ(ヲ)ヌ 虎(トラ)仁(ノ) 洞(ホラ)粁(ガラス)ヲ文鍼粁(ハリガラス)姜(ショウ)煮(ニ)

温服ス剋(キハ)為度

●小青龍湯 治傷寒表未解心下有水気乾嘔或咳或噎

麻芍 桂枝 甘草 龍骨 鍼仁 小強師枝一粒 茎 汪仁
右先煮大龍掠去上沫納諸藥煎

・陶氏小芫湯 純 治方前小芫同
芫(芍)三 文仁噌(夏)汪 雷 鍼宮(芍)師(仕)絡
右姜三片棗三枚臨熱入生艾汁三匕調服

・無寒、發熱裏未宣文者加蘭以温盆表熱而裏又煩渴羹硬者加虎以清血・勻中煎而不逼去汪噌皆加一茱仁・喝者去汪加噌栝根一・腹痛去芍加鍼・腎下痞悶去棗加杜犳洞一・腎痛加桂・未經下而心中飽悶如得心悸小便不利去芍加苓・不渴外有微熱去噌蘭・咳嗽去噌皆棗加苣強一・嘔加姜汁竹茹一・虚煩加竹葉粳米・鼻衄加茜花一・痰盛或喘加萸蔓一・熱盛鋪語不眠加粳連房一・大陽陽明合病口燥目疼加鍼萬・瘧症加甲・

過經不解脯熱已而微利加芒・自汗無熱謹語煩渴去汪合白虎湯方雷依伍師仁是之粳米五入・自汗無風肢痛或寒多熱艾脉弱去芍合桂枝湯枝粳鍼師仁・血虚發疫熱合四物湯三去宮加厨・舌燥无津液加膏乾口燥去汪加雪或賀・坐燥无津液加膏・脉弦虚无力先因房勞夢遺感寒或病後血气未固以致咳嗽吐痰晝夜重發熱不止合四物湯去宮加厨雷房・脉弦虚无力或浮散發熱痰燥口渴不飲水此為虚熱去汪又合生脉散厨噌仁苣子五粒一・熱入血室小腹痛盈疫氏曰妄見或寒熱不定似瘧合四物湯加秬男子熱入血室花婦人加薛離

・大青龍湯 治傷寒、大陽症見風脉者

麻 去節 桂 去皮 二兩 枝 甘 二兩 炙 師 二兩 杏 半ヶ 去皮尖 二兩 棗 十二枚 擘

膏 四 名 兩 水煎

● 大陽無汗脉浮緊 煥可服脉弱汗自出不可服

合 加味匡王 脾肺気素虚感风寒者宜与之

長 曾 枹 薜 雷 煥半 虜 珊 寧 芫 炒 師 炒

姜 五ヶ 水煎 一盞二服 勿令

● 大須散 餘り無汗煩燥咳甚三必用麦未秋

初飲水多寐冷ヶ咳又ヶ二ヶ宜し五六服ヒ

用汗煩熱頭痛又ヶ則ハ咳止

強 菌 杏 炒 師 炒 姜 水煎

● 若咽甚乾キ热ヤ苦ム三ヶ膏ヲ加ヘ強菌

ヲ畏レ无悸

● 六須氣湯 治傷寒、傳裏大便結実口燥キ

咽乾キ狂熱煩渴衣ヲ譫語狂妄シ揭手擧足ノ

班苗陽厥潮熱自汗胃腸滿硬臍ヲ透テ疼

痛又ヶ等症ノ 芫 炒 文 鍼 洞 矮 虎 芒 炒 師 炒 水煎

● 男左リ之眠ヨリ痛出匆月ヘ逆上シ甚肢痛ミ

手足冷エ大小便結シ咽乾ヘ作有効

● 大小便結又ヶ卜云ハ敘吉ノ四春ノ傷寒又痲門

三モ見タリ

合 ... 升陽發表湯 純 冬月正傷寒、頭痛發熱悪

寒項背強重脉浮緊无汗是足太陽膀

胱経表症若頭如斧劈身似火炙者宜

此方

桂枝 去皮 龍 杏 枝 師 炒 宮 薑 炒 甚 虜 珊 寧 炒

右姜棗豆豉水煎熱服出汗止勿多服

● 回陽救急湯 純 傷寒、初起無頭疼无身熱

便就怕寒四肢厥冷或過於肘膝或肢痛

吐涎或口吐白沫或流冷涎或戰慄面如刮引衣蹉卧不渴脉濇澁無力即是寒中陰経真寒症不從陽経傳来此方主之

走強噛箇汪茎霊炙 袍薑炒
右姜棗水煎

・嘔吐不止姜汁加・泄浮不止薑長・嘔吐涎沫有小腹痛加呉萸塩炒

・連翹皮湯 治温毒発斑皮膚瘡疹及唇口下部生瘡飲逆悶乱下利嘔吐清汁

連翹雞粳薑杏洞榛仁師炒
水煎温服

・如病熱沉重昼夜呻吟不安或咽痛舌龍加玄寧一

・玄寧湯 治発斑煩躁譫語咽喉閉塞腫痛

・痘疫不用

寧鍵玄炒師艾 姜水煎

・陰毒師湯 治陰毒畏寒身体重痛腹痛背強咽痛嘔逆恍惚驚気短神昏凡甲青黒手足冷汗頭面烘熱等症

師寧薛枝仁雄黄川椒粳甲往
水煎温服

・猪苓湯 治陽明病上焦熱脉浮発熱中焦熱渇下焦熱小便不利者惟汗多而渇者不可服凡傷寒表症忌猪苓五苓類

猪霊滑沢阿膠 水煎
猪霊滑沢渝井炒

・虜走湯 治陰症内寒厥而嘔逆者

虜走苗根附南 炮強粳 水煎入塩一撮熱服

・橘皮強湯 治傷寒汗病但悪寒不發熱口中和脉微細而飲逆者此寒飛客中焦不得伸也

橘皮 通州 強 噦 水煎

・或汪喬 蔕 柿蒂ヲ加テ尤妙之

・大橘皮湯 治嘔噦氣上衝胷滿煩不安者

橘皮 噦 師 姜七片 水煎

・小橘皮湯 治嘔噦手足厥逆者

橘皮 蔕 水煎温服

・加味調中飲 食積類傷寒頭疼發熱氣口脉緊盛但身不痛与為異耳宜此湯

薊 楪 麭 抱 査 曲 洞 景連 師 強 姜炙 炮 蔕 煎

・腹中痛如刺・痛甚大便定大熱加麻子 景強去

姜東煎 瀝 姜汁入

・小建中湯 治傷寒腹中急痛者

箇 蔕 飴 鉸炒 師 水煎温服

・長建中湯 治傷寒汗後身痛脉遅弱者或小腹急痛腸肋順脹胷中煩悸

長箇 粳 鉸 師 水煎

・諸虚或病後不復不能飲食

・薛四逆湯 傷寒脉滑而厥者裏有熱之白虎湯主之若脉微細欲絶者此湯主之亦復毒主之手足厥寒脉細欲絶者此湯主之要案也

薛 枝 鉸 通州 水煎

・如素有寒氣加吳倍姜寒甚加走脉不至加噦

・參胡芍案湯 治傷寒十四五日之外餘熱未除

脉息不緩大便不快小便赤黄或渴煩不眠不思飲食者壞症

噛茫硬 文雷閇行 茯苓 老狐師 乾姜水煎温服

●如勿肢滿硬去噛加檳●小便數加靈倫●嘔加茹●便自利脉弱去老加噛●血虚加薤

●寧發表湯 治冬月傷寒頭痛發熱悪寒身疼強脉浮發汗以頭脊如解身如火熾者宜

龍枝 師杏 寧 宮 珊 虎 薑 行

●本亚發熱悪寒頭痛無汗而喘加雞去寧

●本経發熱悪寒身体痛者加薤去杏●本亚悪寒發熱身痒面者以其得小汗止故也薑寧杏去ヲ加茫硬●本亚頭痛發熱悪寒忽然飽悶者加老得●本亚感寒深重服湯不化汗再服至三三剤而汗不出者死●本亚汗後不解者宜再服量証軽重用寧龍多々寡為当水二鍾姜三片葱白二莖入用取汗如神

●調中養衛湯 治有悪頭疼身熱悪寒微渴識然汗出身作痛脚脉空浮而无力庸医不識因見頭疼悪寒發熱便呼為正傷寒而大發其汗取以軽変重害人者多矣殊不知労力内傷気血外感寒邪宜ヤ辛耳温之剤則愈名労力云感寒證故経云労者温之損者補之温能除大正此謂也有下症者大茫湯下之則緩即本方医也

噛長薛 狐茫行宮 茫行 露狐師 小行 屡 珊 枹狐 姜 棗 葱白三莖入煎

●元気不足者加寧ヤ計●須知元気不足者

至陰下永其汗・口渴加雪雷・喘加杏去皮尖小・勻中煩燃加粳米一合

・汗不止加鍼去皮小・勻中煩燃加粳米一合

・乾呕者三加生姜汁炊汪・胸中飽悶加老梗

去滓沈師長抱減半・痰盛者加貝去翅小・

脇痛長抱五加鍼強和之・有目血蓄內傷或

有痛處或大便黑加末非離去膠翅長抱・

痛甚者加虎下燻血瘀血則愈後去虎調理

・五積散・治感寒温腰脚酸疼上

感寒温腰脚酸疼上

蠲宮師灸霊薤笛鍼汪三両 楤四両蠲

老龍六両 梗十三両 蒴藋汁 姜東ミ

・或勻引痛三加延老鍼茵光臺茂走・汗

出後六君子加蚕強菌光臺茂蚕走ヲ加七月ヨ

リ八月中旬迄八算正

・此方平胃二陳龍四物方中有故五積ヲ入間ヲ

・此症頭痛發熱足冷腰痛ニ此方表症發散

之薬十七ハ心

・中寒之方ハ冬ニ專用ル方ナリ秋之末ヨリ明二月ニテ

八餘寒有其間ニ專用ル方ナリ秋之末ヨリ明二月ニテ

復ヒ用ヒ有ノ心ヲ可存

・此方ハ除寒湿方ニ九ヲ文ハ除風湿翔通聖ハ

除風熱方ニ夫方中之平胃ハ湿痰之薬ニ

二陳ハ痰之薬ニ脾胃有湿ハ痰ト成故ニ二陳

有龍湯ハ寒ニヲ温散ル故也四物ハ寒ニ血ヲ

滞ラス心故ニ夫亦寒邪着二陰故四物ヲ為ニ

引入陰経薤抹血ヲ温補スルトキハ則寒邪

除ソ三陰ト大陰ヲ陰厥陰之大陰湿土脾ハ

主四肢百節痛中大陰百節痛中ヲ陰腎

腰痛中厥陰筋引攣手痛ル心四物ヲ便

ニヌ強龍抹入陰経散邪ソ故ニ中寒心腹

痛ニ用ユ平胃ト女陰腰痛ニ厥陰之寒湿ニ寒ト者血ヲ滞ス故ニ血ヲ温テ散スルニ又寒ハ生収引故ニ引ツリ痛ム或中寒テ心胸痛スルニ佳シ

●大人小児ニテモ冬腰痛テ腰ヌケタルト云者六必ス先用ト可心得ク故ニ経ニ故ノ証ハ上気面赤下冷ル者タメソウナリ先寒湿経ニ有ハ此方用ユベシ●寒湿ハ必ス脾腎ニツクト可心得シ

●此方ニ走ヲ加強ヲ倍シ便ス有方之カラ専強シタル物ソ

●或人煩之特後洒々トメ悪寒発熱メ不止脈ヲ診候スレハ浮数ニメカナシ是陰盛陽ノ症ト思テ此方ニ走ヲ加ヲ其後姜附湯ト五積ト合メ三服ニテ得快気又後此方計ニテ服用平愈陰盛ニメ陽ヲ抑ノ脈ハ裏ニ寒ノ有ルニ依テカナシ寒ノ余リヤ外ヘ出テ熱ニテルニ能可覚分



素問ニ詳シ

●不行痛ニ乳没又ハ離経ヲ加用ス有

●虚定ノクビス痛ニ吾

●打身血滞リ冷ヤメニリ痛ニ

●感寒此症日久ク経テ陰症ノ傷寒ニ成モノソ日不久ク特ハ先此ノ方佳シ

●瘟疫夏暑熱而反テ寒ス久ル者ハ秋悪寒ス尚此方ニ

方吉

●按ニ為中寒ニ方中寒ノ者宜シ逆理中此方ハ感冒寒冷湿毒ノ者ハ何病ニテモ可用也

合人参ノ粳胃湯 紙ヲ

潜霊 蒼朮 陳皮 茯苓 半夏 神麹 麦芽 甘草 烏梅

師ニ媒ケ 加味強活 蓽茇 蒺藜 光薹 走ヲ

三

姜水煎火

• 人參敗胃湯治外感風寒內傷生冷憎寒壯熱頭目昏疼肢体拘急不問風寒之症及夾食停痰皆効無治飲食傷脾或外感風寒濕氣發爲疫癘及山嵐瘴氣疫左妙也（篇朮 陳皮 藿香 薑朴 桔梗 甘草 薑半夏 茯苓 人參 蒼朮 厚朴 甘草 薑半夏 茯苓 人參 蒼朮 厚朴 甘草 薑半夏 茯苓 人參 蒼朮 厚朴

正氣虛理之疾百于匆月以入咳抔有六十穀丨
月用于吉旻間百

●一男過酒之後感風頭痛惡寒乂不食脉數三乂
而有力算正用汗出頭痛惡寒止熱不退自
汗二十日及脉濡弱三乂五動此方用于治乂り

・調中湯純治夏秋暴寒疫癘
雞(苓)文(葉本白朮柳)本(桂)枹(茯)樘雲(苓)師(甘)水煎

・加味調中湯治冬溫及春暴煖煩躁一(陳皮)
鍵(茯)粁雲(桂)枹(白朮)師(甘)水煎

・八珍湯治肝脾傷損血氣虛弱惡寒發熱或
煩燥作渴或寒熱各憤或匆月高不利大
便不定或飲食艾思小腹脹痛等症
師(甘)參(茯苓)曾(朮)枹(桂)雲(芍藥)薛宮(地黃)鍵(川芎)沈(當歸)仁水煎
本于彼云三陰病深必發以為陰毒有初
症遽然而成者有誤服寒茶或吐下後
憂而成者也蓋以房勞損腎生冷傷脾
內已伏陰邪又感寒氣致之內外皆陰陽
氣暴絕故耳外症此常陰症厥冷吐
利不渴靜倦甚則咽痛齒衄頭痛
頭汗服睛肉痛不欲見光面唇指甲青
黑手背冷汗心下結硬腹等痛身
如鞭打外腎冰冷或便膿血診其脉附
骨取之則有按之則無宜師湯正陽湯
或玄武湯加減選用陽氣復而大汗解
矣陽氣乍復

・正陽散治陰毒額汗頭痛面青舌黑口張
出氣煩渴心下硬滿肢厥身冷多睡
走而良師(甘)皂莢一挍(炙)麝香(研)水煎

・驚甲散傷寒八九日不差諸藥不救名掾

傷寒此方ヲ温服ス陰症ニ宜シ宜ク用ユベシ
甲蒲 滴 茫 文仁 老ノ妹ケ 水英
●李士材云壊症久則甲蒲噌滴温服而止ス
延
●参胡温膽湯 治心胆虚性觸事易驚ス寝
不安ス気ノ爵生疾ス喪生諸症或短気悸之
或自汗四支浮腫飲食無味煩躁不安
陳皮 本 枳ノ 柴胡 竹茹 天門冬 酸棗仁 茯苓 遠志 菖蒲 竹瀝 半夏 五
當汪 靈 老 噌仁 茹 薑閇 茈 樟
ノ 師 甘 ノ 姜東ノ水煎ス
●五苓散 中暑 傷寒ノ発熱而煩六七日不解小便不利
吐水之症ニ亦乾燥不眠 猪靈 枹 蒿 半夏 茵 五
●為未曲服ニ美白湯送下・枝ノ淡狂奔如テ
●名加味五苓散如小水不利而見頭汗出者乃
陽脱也得病起無熱但狂言煩躁不安精
采不ス人相當此加減ノ等入用 名茵去四苓ノ



●四君子條下 名云加 陰之症傷寒ニ 走汗取慶度々ニ其レニテモ又
不ニ汗出一香薷又香薷ノ二入塩陰許ヘ引入テ
佳ス●亦傷寒裏症ニ香薷ノ一香葛ノ二
方用ス百其レ表邪未ス去裏ノ邪未ス裏ニ去ノ病重ク見
テ裏熱去レ先表邪未ス去ノ是レノ病重ク見
二右之二方ヲ用テ表ノ發メヤレハ頓ニ愈人之
不知ス之ヲ
●三拗湯 條下 咳嗽 傷寒咳嗽メ色喘ス者是寒邪
袋包故也此方可シ
●七味清脾湯 條下一人如本傷寒之小茈ノ証如此々
トメ寒ノ熱ス脉細緊ス他医見傷寒ノ色々
寒ニ玄ス吐下之ヲ誤ツテ熱ノ甚ス者ニ亦効
治スル能ハス効ヲ見ス前症能問ス八匁用ユ虫
上ル ヨウニメ其候寒ノ成熱出テ不食ス胃ノカ
ヘメリ予思ニ此先医ヒメモノ寒ニ某ニテ攻ル
故ニ用中ノ気冷盧メ其冷気カ気ト共ニ攻

メ上リ出ツ入メリ出ツ入メハヨセラント思ヒ此方ヲ与ヘ愈メリ●又傷寒ニ汗吐下ノ後匇々ツカヘ不食シシ〳〵トメ余熱不去女ノ物ヲ欠ケ數ト云脉モ細緊盛ニ此方ヲ用治メリ此心ハ热ヲ醒スナリ茶タメ服メ胃中冷テ匇ツカユルシ労瘵ニ似タルモノ傷寒ハ三仮者三虫有ヲ胃疾ヲモ能ク

●算正 條下 陰症カリタル二可シ陰症ヲ仲景ハ
●本ノ陰症ト見ヘタラハ解散ヲ施スヘシ四君ニ熱ヲ加ヘ温ノ字ヲ得タリ
大陰中寒ト云今云陰症ハ元気之虚体
草卧如何ニモ靜ニメ服ニ精
見事肝要ニ
ヲノ沉ミ物悪シキ体シ眼ニ光ナシ陽症
●陰症体草卧脉微細ヲ証ニハ此ノ脉ヲ
ハ如何ニモサワカシリ手足ヲメンカス無正
不ニハ此ノ症ニハ解散相傳シ四君ニ走ノ字ヲ初
ニ成ヲ云●陰症ニテ他証ヲ兼メヲ見之
ヲ療スルニヲノ二走ノ字ヲ去ノ余ハ右メニ取シ心ヒセ動計有ルヘシ
其脉如何ニモ靜ニメ不行加走ヘ走ハ補ヲ助ケ支障シ
按ニ是胃気未絶ト思四君ニ走ヲ加用ヌ
レハ殊外汗出治メリ●田月脉ハ緩和シテ

メトイ動数有ヲサワヤレクモヲ陰症ト云可秋

∴医王 給下 労役傷寒ト下骨草卧二此方ニ加
用ヲ即加味医王又豆本ニ参ノ字ヲ有シ此ノ症ニハ参ヲ不知ル居之
虜或先ヘ不行加走ヘ走ハ補ヲ助ケ支障シ
有シ此ニヲ先ヘ行ヘ走ヲ加用ノ熱ヲ去ハ補ヲ能ヲサスルノ
●降火湯 條下 虚労 傷寒ノ汗大ニ出陰虚スルコト伏有
脉ハ細数ニメ声濁リ咳嗽出テ眼精冷凄
也此方之症ノ右ニ方ノ症成ヲ傷寒ノ後
ニタメシ切脉可ニ症見●傷寒ノ後女労役ハ
男茎中痛女小腹痛或小便赤渋ニ医王
住シ加車支房

●癘疫虜湯 諸風疫風ホロシ良
虜 前胡 麦門 檳榔 桔梗 師退 老 キワ 宮定 霊花 芥
汁加飴 姜水煎 ●虚症ニハ医王加龍枝
●消風散 壮男血気衰弱而風感肌膚癘疫
甚痒面如汚時々悪寒脉虚濡
黄師虜退算定宮 珊 蚕霊 噌二両

三

靈樞經 • 血風之症ノ

• 九味清腑湯 傷寒ニ似テ一症之如ク寒ヲ悪往来口苦ク煩雑
合 宝ニ此方ニテ経久能愈ニ足ル者有

• 三和散 諸気 ※下或人俄ニ悪寒シ大熱往来シ狂言妄語脈
弦数他医傷寒ト見テ療スレ共不治予見ニ数何
モ一年ノ内痛処ナク又キン抔ト腫シ痛ミヲセヌヤト問
ヘバ腰ノ下ノ通リ張キンヘシメッケテクルヤウナト
云数此方之証ト思ヒ与ヘ三貼ニ諸症退ク事湯シ
久時如飲水也後小腹ニ大塊アルヤウナト云ッ故ヘ
大黄一ニ光ニ加ヘ用テ平愈之後又為粮生矣シ
テ二度不発



二四

瘧疫並瘧疫

• 冊葉玉葉曰瘧為ニ陽三焦相火ニ有ニ色痕ニ
而豆頭粒重者紅如ニ綿紋ニ疫属ニ陰寒ニ火
浮小而有ニ頭粒ニ随ニ汗ニ随ニ没々ニ也傷寒
発班有ニ血惟湿毒発班至重紅赤者為胃
熱紫黒者為胃爛也下之早一則下ニ脱
乃外感熱病発班也陰症
之間手足雖有ニ赤痕ニ疫雖属ニ陰
等之火聚於胸中止独重肺傳於皮膚而
為ニ斑黙但如ニ蚊蚋蚤ニ虱咬ニ而非ニ綿紋ニ内
傷発班者胃気極重一身之火遊行於外
所致軽如ニ蚊跡ニ多有ニ手足ニ也疫雖属ニ陰
君火見於面多者乃心火入肺而然背上多
者ニ足太陽膀胱火熱而然四肢多有腑
手心火熱而然也又有所謂瘧疹者多属

腑隠之然在皮膚之間故曰癍疹發則多
癢不仁有汗熱汗濕之殊又有所謂毋疹者
皆悪熱毒血毒於命門遇相火合發即發
也色有赤白熱有微甚其在小児得之名曰
赤瘤有活見証科

・玆寧湯　治斑疹癍疹無内寒者並咽痛燥者

玆寧狐　師ノ粒　水煎

・若無血者加鼈・外寒發熱
甚者加麝・虚寒者俾元一主之・小児疹先用
惺々散勿妄用寒冷劑腑胃無滞者六君二
加強枝而与之若用寒茶則令悪後可作大患
若咽渇甚並不可与宜文蛤等冷茶用五苓
散等劑利小便則津液外而渇自止虚弱
者医王三倍寧・若咳甚則加強龍杏・虚寒
甚雅出者走理中亦主之令石固王十全類
宜補表益血気有火燥腑虚者可忘参ノ
冬抱散

・鼈小毒飲　瘟疫三子熱燥之者二用ノ大便泄ノ
易キ腑胃虚寒ノ症二悪シ

粒貫珊師　鼈粁　鼈ハ鏡ニテ厚キ不ノ湯
水煎調鼈未服又加文冬佳シ

・一医王語　虚弱ノ者小児之弱疱瘡風疫抔用
本方二加玆粒ノ

・噌起班湯　極熱時燥煩メ元気弱ノ見エル二用
即白虎湯減ノ
噌イ名　甘　陳
噌イ名　薑　薑仁　師狐　水煎

・寧雛湯　治下班疹出未全煩悶乱ニ佳シ

・九又　條下

## 五 感冒 並瘟疫・大頭瘟・發斑

・和解湯 治泄發熱惡寒惡風食味不宜小便短
艾與三郎而頭痛甚微汗則且卻快
（考 柱為）曾蔺鼓（酒炒）汪三（當）灵七（芍）強五（當）蔺七（甘）師大
石姜汪 水煎 加（孔氏）蔺珊（許氏）佳也

・長健中湯 傷 元来虚弱之人咳気ヲ兼頭痛
ニアラサレハ元来熱モ水涙出テ食モサノミ味
モソコヲスフラ〳〵ト久シクスルニ此方ヲ必用ヨ

・小茆湯 傷 食傷ヲ兼テ潮熱抔之有ニ必用之来
茆汪食ヲ推スナリ也 洞曲牙之類ヲ用ハ悪シ

・医王（補血）依本方龍枝ヲ加

・中気虚メ熱甚ク頭痛スルニ必用ノ此症ニ
香薷一弓（穫抔ヲ用テ久メ痊スト壊症ニ
成ル多シ 云々

・又虚人ニ用加味厲僂瘧・疫厲火有ニ

曰班屬三焦元根之火疾屬心火其上復於肺則一也外曰初起頭疼身大熱口知味者忌大汗下宜解肌微汗有自吐汗者即愈內頭或微疼但手心熱胃虛者大補以降其火一体盛者宜清肺以其化疼

・芎芷香薷散　天性実症ニ瘦骨高ニ丁疲

熱頭痛更者六十以後十九人ニ必用ヨ若者ニ六ケ様之方ヲ用ヒ希

薑黃　舒宮　薑絲　姜水煮

・大順散傷　元餘疲熱咳甚キニハ必用　蔓之未秋初飲水多ク寢冷メ咳スルニ忙宜シ五六服モ用疲熱頭痛スレハ咳ハ止レ疲熱頭痛スル

カ食シ・依本方若咽甚乾熱ヲ苦ニハ喜肩周如ヨ強箇最元悼

・除濕湯　中暑中濕寢冷メ足腰シメル ノ板脹浮痢ハ寒ニ伏脈用・又曰春冬ニ咳嗽疾ニ用ヒ龍用ニ傷夏秋表薄ノ陽盛故此方ヲ以治之風寒ニ

蔺枹　汪　霊草　強　箇　ホ　多　僧師ス　姜水煮

・腹痛ニハ加蜜・有瘡家蜜ヲ

・霊甦逆湯　時疫用

強走　霊枝　枹ホ多

・玄寧湯　大頭瘟ニテ頰腮之腫或下疾抔生スルニハ必用ノ寒ニ非ニ重シト思ハ加蔺・陽明経ノ症カ久キ程ニ症多ハ加薑・大抵ヤ陰ヲ虚ノ症ハ加鴈・陽明加穢カ良ノ・久シク上膓引カメルニハ加鴈・陽明経ノ実ニハ加雞テ良・疱瘡ニ麻疹ト見ユルニハ不可用必ス内ヲ温ムルカ良ノ

・枳子清肝散　一般ノ大頭瘟ニテ一昼ナ疱瘡後耳或頭項胸乳等處作痛或下膓咽ニヨリ絶食スル動ヤ等加作痛或寒ニ熱加汝連大陽或頭痛加屬

治数人

靈薤宮 鍼灸莖杨粘師粟雞一味半
寧ヶ 姜水煮

・麻黄湯云 実症三ノ一身強疼痛又必用之
卜ハ一身痛甚シク虚人ト見付ケ不可
用

龍杏枝宮 薑珊虜 寧ヶ師ヶ

・調中煉乖湯純 治内傷外感而發陰班
薤粳露蜜算 鍼師揮汪薑虜
老仁宮 龍枝 姜水煮

・疫陰皮痒無腫痛疫有頭粒或粟米如或
如蚊虫咬迹微紅或隨出隨没而又出紅斑
隱皮皮層表分欲出不出但作搔痒全无
腫痛名陰疫卜當蚤在傷寒最重即温毒



・寧雞湯傷 加粘黄珊一 寒ミ月二用

・贈虜散 暑月用
虜傻 茫 蒲 老 揮 贈 靈宮師
籙定 天麻 滅半 荊ナ 姜東ミ水煮

・撚六加芟涼六長薑ノ加

・兒龍湯 微汗メ即愈陰毒壞症大率以表
症多者宜用
雷丸龍師鍼文仁枝仏 水煮

・玉屏風散 内傷房室又感風者

・珊長仁枹仁 或枝鍼加佳ノ 水煮

・宮湯 内傷房室又感寒者

宮枹虜仆 風寒兩感者合三方

・虜冲和湯 此太陽経之神薬也治春夏秋之
非時感冒

虜仁珊薤仁文荒一 薑宮ノ師小

三
多 ・如胃中飽悶如老婦之狀

・正气補虛湯 治內傷飲食七情勞外邪所襲寒熱頭痛身疼腰脚軟弱轉筋自汗肢冷麻痺男婦諸虛通用婦人產後感寒之宜

・噙鼻檮長 薑蘇芫宮 兒狂菌 荃抱汪 走喬 蜜 強師仁

・噙荊芥散 治血風躰痛頭昏目浜心怔煩渴寒盜汗癪赤口乾疾嗽匆月滿或月水不調臍肢疠痛疙癖堀硬或產後瘦弱症忌之雜

・香薷散 治四時傷寒頭痛發熱惡寒

薑 舒仁 霜仁 師ナ 姜 葱

・薑煎頭痛し上气し虫嘔吐虫積吞酸气病良

・舒ハ開田月口進食ノ汗气表ノ開スリ

テヨシ・霜ハ嘔吐酒積ヲ治消酒毒去痰胸塞ノ

・气苯し發散ス心ハ久メクナシ能表气ヲ行シテクノロクル故發散之心モ有し發散スル苯ノ内テハ軽劑也・等一气ヲ行シ气ヲ快クスル苯之芒々トメ气悪ク蒸ノ蒸々トメ發熱頭痛抔有二吉

・入湯之メクリ二ハ大要此方吉心ハ上气又湯之出入ニ风引ノ故二吉感冰濕ヲクル故二疾虫上ヘル故し予驗二数人ヲ治ス拳一人壯男一七日ノ間入湯悪寒發熱頭痛咽乾思三湯之出入三风引又湯濕傷膲理久ル卜心得テ苯子三四服二平安ス

・此方二宇雞陽合メ香葛陽ト云し頭痛咽乾二ル隹し

・或婦人三年之間病ニ作時ハ上气面テ赤メ心悪し悪

他医深思テ療治ス不治予此方三服ヲ安

●病人ニ腫気抔有テ内ヲ引頭疼而熱出咽乾キ胸膈ダルニ雞抱抔ヲ加ヘ用ユ湿之ダメニ加劇テヨレ胸膈ダルニ香葛ノ二加劇用ノ

●香葛湯ハ諸病ニ湯条抔ヲノメダノ吞発熱腕動数有ニ可シ

●婦人病ニ此方ダダ用支有又暑天香ノ表裏解ハ絡句此方ニ塩ヲ加ヘテ用ユシ陰部ヘ引入セン

ダメナリ香葛ノモ同支シ

●補茶血茶或ハ走鳥頭之熱茶ヲ用テ長ヲ療治スルニ間々ニハ必ス此方ヲ用テ気ノ行シ茶気之積リヲ散ス毒茶ヲ解也

●四時不正之気行ハシ雨湿流行之不食スルニモ此方ニテタメ塩ヲ加テ可用能食ヲ進ルモノ胃口ヲ開進食茶也又治傷寒感寒不食発汗症

●此方ハ発散之薬ノ中ノ軽キ方也惣メダ毒ノ病者ニ重キ茶ヲ用ヒ茶ヲ入ルヿ有ニ用良

●傷寒裏証ニ用ルヿ有シハ表邪未楽ニ裏ヲ早ク攻テ裏熱ハサレ共表邪未尽ザレ共裏熱ハサレ共表邪未尽ザル病重ク見ニ香ノ或ハ十ノ用テ表ヲ発テヤレハヤガテ愈事有是人ノ不知所也又日裏熱モ表ヲ発メサムル意有シハ金ノナリワクニサムルヿトレハサムル心ニテ表ヲクツロゲレハ内熱モソレニツイテ去ノ秘シ

●医書大全倫間知加減法私按雖ニ加減繁多単法当流ニ不信故ニ抜要者婦人経行前行

先寒熱加離婦人産後作屈熱不退煩渴
嘔吐鬱・傷ㇾ下不解耳内出膿血疼痛也加
貫私加芎藭雀也・瘧寒多熱甚ノ或内寒
外熱骨節疼痛ㇾ腎脵痛此方佳ㇾ甚
有ㇾ神効

・香葛湯・茂熱脉動数ニメ諸病湯茶水ノ
ウニノメ久久呑ニ

薑舒鬱寧雞鉤ホ師ナ姜水煮

・十神湯・治時令不正ノ温疫妄ニ行或西時感
冒ㇾ卜熱頭疼身痛寒熱メ無汗陰陽両感ニ
龍宮師舒雞寧鬱鍍鬱薑ナ
姜葱

・此方ハ芎芷香ノ寧雞ト合メ龍ノ久久方
ノ香葛ト二似タリ

・感冒咳嗽頭痛ㇾ汗雖出ナソ猶用テモ汗
不出頭痛甚時用ル方ソ

・傷寒之様ニテ久ㇾノ熱気去リカナテ汗モ不
出口乾頭痛又後ハ班必出ル物ソ其時ハ此方
必用決メ寒薬ヲ用事ナカレトㇾ班出而可然
ト思時此方用吉

・右之様症ニ交ㇾ此方ヲ用ル八班一身出ルトソ
加様ナコトハ功者故ソ而後正意書曲日屈ニハ
加減化斑湯ト名此方ヲ用一服ニメ死トㇾ能
々可心得也

・参蘇飲・治感冒風頭痛茂熱咳嗽声重涕唾
粘大解肌熱宜中快膈或ハ労瘵潮熱
往来並能治ス

陳皮 桔梗 半夏 前胡
鬱薑 霊仁 舒雞 得汪 淅蘇 老豕 木香 奎於
師ナ 姜枣ソ 食後温服

・本方ニ嚊ソ三分入ㇾ常ニハ不ㇾ入改ナソ一名ノ
人参ハ當ニ銭嚊ソ三分ヲ云ヲ記ス

●全曰此方ハ四時共ニ用咳嗽風痰ト胃痛ニ中ヲ寛メ調胃脾進食復気之方也感冒
發散之方也香ソヨリハ重篤正ヨリハ軽シ

●小児痘疫疑似之間ニ用テ吉寧雞ニモ用但
児草臥タラハ悪々敷吉稍雑著次序毋後小
児痘瘡治法第三圏之下ニ然甚ハ則噌左文之
用ト有此方痘瘡ニ用時ハ蜜ヲ去リ表然甚故
エ也・此方ハ第一疾ニ主ル

●噌又心ハ此茶之証ニ衛気ノ虚シタル者有リ
其ニ用又ハ気ヲ通ス為也又ハ気弱メ茶力ヲ
コブカ為ニ入用ノ係四春小児咳門ニ肺実
有邪ニ去噌ト有

●此茶ヲ用テ班ノ出ル之有何以テモ表然ノ
甚キニ蜜入故カ又芦菴家ニハ蜜ヲ去ト云ソ

●傷寒七八日發然脈小弦一類ヒノ寒ニ茶ニテ
モ不効然甚ノ裏ニ入テ妄語抔有テ脈数ハ
解毒湯或涼膈散之証ニ此方佳也心表ガ
塞テ然有ル故ニ此方ニテ表ヲ開テ吉可称
解毒ノ症ニテ譫語メロ乾唇烈脈数脹
満モセス又ハ先少解毒一用ヒ若不治ル時ハ此方
ニ又連加吉ソ是テモソト然気ヲサニシメ
ケレハ芫連又ヲ加テ吉大便難ハ大芫一ノ証也

●感冒メウツラントナリ労咳ニ成ヲ能治ス

●霊補心ートハ此方ニ四物一合シタモノ咳嗽メロ無ス
ルニ吉専ラ婦人ニ用方ソ

●姙身之傷寒抔發散シタクハ此方可用余方ニ
テハ胎ヲ益ス然共老ハ其人之虚実ヲ見テ可用
又注ハ胎ヲ落トス云説有レ共非ル中古ノ誤也用テ
試ニ不言ル道ニ能毒ニ不覚只依人可然者ノモ有
不然モ有蜜ハ上産ス之者ノ湏ハ子ソホソラスルソ

常ニ噌甘不可服心ハ手ノ大陰肺經ニ入テ火ト十九
ト云ヘ又雞著二有殊ニ況ヤ咳嗽喘急抔ニハ不入
又克金ス又抔肺ヲ清メ吾ソ

• 小児疫ノ後身熱シ便溏シ不食シ咳痰ニハ者亮
者此方之症ハ脉浮大吾ニ亦諸病多ク医治之
跡ニハ此方ヲ用表気ヲ行スヲ療治メ佳シ或云療治
之妙此方ニ有ト云ヘ

• 九丈ハ脉浮大ナルニ吾ヲノハ脉沉ニメ而アリ早
クモヤキニ用ヒ貧正ハ正気虚シタル之脉ハ九動
モ有ニ用七味清胖ノ用様有脉数ニ有テモ細数ニ
ハ可用咽乾キ数大ナラハ虫成リト云不用ト其様
ナル之ハ香砂正気散ヲ用ソ物忽剔香砂正気ハ虫之
症ヲ治ス

•• 症尺尺ノ症ヲモシヽヌニ用・香砂正気散某檳榔
砂薑湯師ヲ劇ス 姜棗ニ水煎

• 手常頭目不清似痛不痛此方用得効ス有

• 中井曰是方去噌甘如常合衛衣メ雷ヲ通キ病ニ依
テ用ヒ不効却テ熱ホカ〳〵トメ気重ク不快身
熱ス之ニ噌如ク用ル時ハ汗出テ効有事アリ是ノ
理ハ気弱ニ依テ衛気不行邪ノ出ル道ナシ
故ニ噌窒ノカヲ以テ邪ヲ追出スト心ト云リ

• 十歳小児感冒熱退後ニ是ニ六君子ヲ用
又止汗多ク出脉五動智用ナン汗出テ咳
ニモ亦止

• 啓曰小児感冒熱退後ニ是ニ六君子ヲ用
ユト有ヘク故ニ用ル人ハ咳ハ大正ル虎汗多ク出
ニ君子ハ汗愈ル方ニモ非ス此ノ症今ナシ邪気残メニ
ヌメク出メソト云ニ前ノ症ヲ治シ邪気不散噌
依テ君子ヲ補剤ヲ得テ邪気不散噌
抱ヲ以テ皮膚ヲ閉塞キ爵熱内ニ蒸シテ
汗出ル之ニ其時ナソヲ用ル人ハ汗止咳モ亦

止ヲ以ハ汗ヲ止ル方ニテモ无ニ何トシテモ一汗
止メントスニ十ノ八表気ノ順シ骨熱ヲ散ス
ル非気ノ残ル所モアリ骨蒸ヲナスコトモ無ニテ
自然ニ止ルヘシ六君ニテ汗出コト理自然ニ十ノ
ニテ汗止コト當流ノ手ダテ也

• 壮年男感冒労煩及ヒ十余日無汗時々譫言
口乾尿黄ニ大便順脈細数ニ成方ニテ治メリ

• 方考曰感冒宜解表故ニ用舒雞薷労倦
姙娠宜補裏故ニ用噌霊師乃蜜炙老
楫需所以其利和表裏之気ニ気和則神和
神和スル則無病矣

• 不換金正氣散 治四時感冒傷寒瘟疫寒
熱霍乱吐瀉及ヒ出遠方不伏水土並皆治之
楝需 蒼朮 陳皮 厚朴 甘草 半夏 藿香 生姜 棗
此方腹痛或ハ心痛之候方ノ又食留滞ニテ
心痛腹痛シ又行遠方水土ヲサワズメ腹痛心
痛亦白下利吐逆ホスル二良

• 感山嵐瘴気ヌル瘧疾ニ洗景加用(雀)

• 感寒湿シヌル腹痛ニ加強菌(雀)

• 嘔吐スルニ高蓼ヲ加

• ナニトヤラ気悪潮熱スルニ茈文ヲ加(雀)

• 持病ニ頭痛有テ雨天ニ逢ハ作ルト云加宮
薑黄

• 方考曰山気之瘴気谷気也内経ニ谷気ハ通於
暖故今人不服水土而壊腹是レ蒼朮楝需師
平胃散也可以平水土之敦阜之気而消気障
乃注之燥所以醒脾尊之若所以開胃方名ニ
曰正気音謂且ハ正ニ不正気ヲ矣

• 敷毒散 治傷寒瘟疫ニ風湿風症肢痛增
寒ニ加熱項強睛疼或ハ多汗疼或ハ處甲

濕之地脚気痿弱ノ此草不可缺

• 四時通ノ用大陽経表症草也噌ハ気弱メ草カメル之ヲナリ三入用治日傷寒之症ニ用茂表之草ソ汗不出ク者有悪心ハ気ニ屋ス故ニ噌加ヘ正気ヲ補汗出者ノ此方ニ噌入ル毛此心リ又正気強ケレハ噌不入先出者ノ此方ニ噌入カ服ノ

屢僵蚕 蔥白 柴胡 宮霊紅師大姜

• 全日風湿之方ニ又尊正ヨリ悪ンサニス之ヲ

散重ニ

• 此方傷寒ノ表証脈弦数ナル四時共ニ発散之草ニ又頭痛悪ハ寛ヲ加佳シ

• 噌花ヲ加テ十味敗毒散ト云

• 傷寒頭痛発熱悪寒ク半表半裏之証ニ蚕蔥白柴胡宮霊紅師大姜ヲ加ヘ尊正ヨリ悪ンサニス之ヲ発散ス重ニ

湯早ト思時此方也内証ニハサレ共表証ニ強キ方ニ

• 疫病之方ニ通ニ日無ノ疫病無余方ト云ヘ共此方ニ加減メ必ス可用仲景云疫病無余方ト

• 痘疹之序病ニ悪悪ハ寧雞ニテ吾若不出紫草ヲ加テ用ヨ風湿ニ感シテ有故ニ

• 痘疹疫病悪悪ノ寧雞ニテ不出時ニ舒ヲ加用吉凡湿ニ感メ有故也

• 大頭瘟トテ面ホウ腫痛ニ粳連ヲ加テ用咽痛ニモ吉亦発シタクハ列缺メ佳シ

• 正傳瘡門二十一味敗毒一二辟抱珊瑚鍍花加ヘ久ニ班疹ニモ吉ソ血班ニモ吉風呂或ハ湯林ニ入テ血ノウキタル牛血中ニ風入班出タル三吾血凡ト云テ是痒モノ好ニ有粳疹血粳班

• 或人瘡辺ナトヘ出時必班出タリト云悪凡悪寒ヘ

又ノ故ニ濕ト風ト杯ニ中テ出ト心得タリ其ニ濕物湯ナトヲ入レハ弥ヨ出ヅ痛ミヤン腫按ニ風濕血中ニ入ルト思此方ニテ吉治タリ

●小兒急驚風ニ加全蝎用テ佳ニ心急驚風ハ疾熱有余之証ニ治宜解表ノ

●小兒中風ノ口噤ミ啼特能喝ニ是ハ濕ニテ有間數アト思ヘシ先何リテ痛ムヤ又無ヤト問ニ大痛ミ有トテ不動ハ是ハ濕腫ヲナス也其故ハ口モ喝ト思此方ニテ治大急

●一切火熱之症ニ用口気熱スルニ吉

●傷風此方十神ー香ソヤノ傷寒ハ尊正五積ー之類

●此方中世之内ニ重宝ナル方ノ四時之キライナシ太陽経之表症ヲヤホシ

●傷寒疑似之間用之

●冬感テ寒ニ不即病至春夏為温病熱病者用此方妙解ス

●悪寒ヲ甚頭痛脈数実者此方吉悪寒心中蘊熱加文●傷寒汗後不解亦宜服此

●面傷寒ノ自異ニ声重咳嗽吐服加法杏●四時瘟疫流行衆人一般者加雞●一切火熱之症ニ加乾葛文玆連翹貝母流胤粉●酒毒皮作湯加雞連

●八解散● 治四時傷寒ニ頭疼躰熱悪風多汗悪心嘔逆

嚊枹霊露注葉 楊師ホ 姜棗ニ

●治曰柱枝湯ト此方ト分別有桂枝湯ハ傷

凡之証ニ汗サント欲ニ其状ヒ之様
十ニ用此方ハ傷寒之証往往湯ヨリ重ク
悪寒シ無汗ヒ悪風色青々トシ又青白ヤ
ルニ

●陰証ノ傷寒ニ脉微細体重卧気々クト
シ目見ハリナリ妄語スル者

●或人体健ニシテ脉二十日計ナリメ阿房ニ成ル
予此方用ニ乗ジテ汗ヒシテ解スル又固敷
●卅余歳之男感寒ニ汗ヒシテ解スル又固敷
食而脇痛ミ大便瀉シ今脇痛ハ止テ脏
暈シ左ノ前痛ミ脉右関微弦此方ヲ剤
ヲ加テ汗ヒ解ス

●三十余歳之男仲春ニ感冒シメ後作ル寒
再三今熱発シ汗ヒ皇フサカリ鼠血シ咳
痰出テ色嗄咽ノ外ニ乾ク脇痛脇ヒシ脹
腰膝痛ミ小便赤ク脉弦数ナル二此方ニ鍉
粤棚樟茹閑加ノ可也

●霍香正気散● 治凡時不正之気寒疫時気
山嵐瘴気雨湿蒸気ニ或中寒ニ吐利中暑
胃凡吐瀉中湿身重ク泄瀉シ或ハ不服水
土脾胃不和飲食停滞後外感寒頭痛
憎寒ニ或ハ嘔逆悪心胸膈否閉或発熱
無汗者並ニ治之

蓽茇 蓽澄茄 藿香 縮砂 樟榛 枹露 汪
一ニ 師艾 姜棗

●全云サリヨリ発熱強ニ而時々ニ用ル方ノ即
復用ハ脾胃ノ調方ノ此方ハ内外ノ労
テ名基言ノ方ニ旋前宇殿ヨリ一溪ヘヤ病
圓ト被仰時即チ此方ノ書付テ進メラ
ルヽ也

●玉枕傷寒門ニ此方ヲ仲景カ折タリ專ラ氣ヲ正クスル方ニシテ然ルニ發散ト計心得ハ非ストソ乍去按ニ内外虎ニ能方ニ況ヤ此方ハ宋朝之時分之方ニシテ又タトヘ仲景ノ折タル虎十二七ツ八ツハ内傷ニモ能シト可心得十ヵ十共ニ發散ト計リ心得ハ不合ニ陳ヨリ出タル故咳嗽ヲ治スソ

●霍乱ニ專ラ吉或腹痛吐瀉頭痛發散之方ニシ・傷寒ニ感冒之ヤ重吉

●濕霍乱之瀉ハ腹不痛ト有此方腹痛之吐瀉ニ少ク吉又腹痛台虎不痛虎此方吉

●内傷生冷外傷風寒温之為ニ腹痛吐瀉スル三ヨキ方ニシテ不食スル二佳シ

●不正之氣ニ感而眉ヨリ至額如斬痛ミ惡寒ミ或ハ胠暴事ヲ思ニ症ニ成ニ用吉シ

●感不正之氣頭痛是レ亦發散之ヤ殊ニ以テ吉ヒ

●婦人春産後發時雪降寒烈是レクメ水凍スル時遠ク行テ而傷寒頭痛惡寒ミ發熱腰疼是不歩行脈沉細ニ宜用五積散其於咽乾腰膝ニ腫氣出ル事ヲ名用此方十五貼而平安ス咽渇ニ雞ヲ加テ同渇止

●食傷ニ吉ヒ右之氣口脈緊ナル三殊ニ以テ吉ヒ

●夏霍乱腹ト云ニ吉腹痛腹脹ニ佳シ

●八解散ニ六君ニ檳榔加ヘタルモノ此ニ似タリ此方ヨリ氣ヲ補ヒ重ヒ此方之症ニ草卧サヒ重ク有汗之陰症之傷寒ニ吉此方陰症之如ニテ解ヒ次第ニ草卧タラ治スル

●或人傷寒陰症之如ニテ熱不甚頭痛吐逆心中妨悶腹脇攣引脈数也理中湯ニ加茯苓ス此方不平愈同症ニ改ニ用此方加薑棗宮光ル

有驗于次劈二安シ

●此方大陷口堂ト于寝久ク間二口臭ヨリ内入久ク二吾久久ハ胸痛ハ大陷二アル故ニ必ス此方吉医亜栄氏之又胸ノ久ク二モノ

●旅行経于水替リ于煩股痛股下此方或不換金佳シ

●酒飲于傷風撚気ヲ或吐逆スル二吾酔ト感ヒ之

●或人云食傷之ヲ久久二不換金食傷心下ニ痞ヘ于ニ此方用于安シ

正下用様ハ二メ物ノ又云不換湯ヲ常二服メ陳ニ山嵐瘴ニ云

●二月上旬平余男昨日過酒感冒頭痛汗ヲ疾ク心中痛ニ于脈浮緊ナル二此方用于安シ

●諸病二此方用ント思フ時外感重ク加劇湯去ル●内傷重ク久ク薑曲ヲ加私按二曰之中暑門云中熱之時納涼於深堂大廈涼亭冷舘大扇凡事凡寒ク以傷其外或ハ生冷氷菓氷水寒冷食ヲ復内ヲ傷其病頭痛ミ身痛ミ発熱悪寒ミ或ハ悪心嘔吐泄瀉股痛此内傷生冷外感汎寒ニ所致也宜シク正治之此非治咱者因暑所致病ニ外感重ク加劇湯内傷重ク久加薑曲ニ云

●古考云内傷者調其中算袍霊露師注標得當皆調中則能正気干気外感者疏其表舒鬱疏表茅ニ疏表則能正気干外ニ兵便表無風寒ニ物亦能発汗脾気改ニ曰正気ニ

●婦人乳風ニ薑光ヲ加ヲ妙ク

●九味羌活湯 治春分後傷寒ニ傷風ニ代ニ桂枝麻黄湯ニ冬月用之亦可也

厲男 珊 劇 各等半 師蒿宮莞 文一 茅各 小四方

罪時傷風傷寒之在表者發之



・宮茶調散 大抱頭痛自風寒中發以來感冒門一

宮 蔓荊子 黄芩 各兩二 荊芥 臺兩四 羌活 藁本 防風 細茶 各兩二

細茶ヲ入水煎火・又加茶尔

・治諸風上攻頭目昏痛鼻塞遠重

・神効散 婦人血道上ヲ切々發スル

蘇葉 臺 宮 薄荷 龍ノ腦 骰 髓 枹 強キ 各

水煎火

・加味調中益気湯 治気血俱虚頭痛其効如神

當歸 各一錢 芎藭 細嚼 蔓荊 宮 炙 黄 各一分 三

水二盃 水煎・一方二盃ニ兌房有骰薄荷

・厥頭痛 治風寒在脳頭痛及傷風寒二切頭痛

宮 臺 羌 蔓荊 女 稍 小 茴 粹 各 黄芩 師 兩一 荊芥 兩二

右為末毎服二匁食後茶清ニ調下ス

六

・清震湯　治雷頭風頭重疾瘡膿痛寒熱狀如傷寒

寧薊一荷葉一　每五錢水煎

・一方荷葉一　燒細研煎茶調服亦可

・愈風餅子　治雷頭風脏量先吐後服此

鴆炮宮紅女薑珊小屑黄花師二

右為末餅丸

・屑愈風湯　治雷頭風脏量血之虚而風之甚

気ノ特甚ク頭ニ用亦脏量血之頭痛

二用更有

・豨薟気散　治雷頭風脏量血之虚而風之甚

用于佳

・二陳湯　痩ク人頭痛ヲ治ス痩ク人血虚ノ疾

火ヲ加味茶薑黄小楫・亦肥ク人頭痛

ヲ治ス故ニ肥ク人ニ気虚ノ証アル者ハ加味ス

薑黄小屑楫黄

・葺正気散　感冒不正之気感而眉ヨリ至額如斬痛ミ

悪寒或脏量ヲ悪症ヲ成ス用或頭痛甚シク

發熱咽乾ミモ　頭痛門之長生王一吾

・医王劇　治下気虚ノ頭ノ右偏ニ痛・又四物二合

二陳加防黄茶ヲ小ニテ偏頭痛ヲ治ス妙シ

・汪枹定湯　治痰厥頭痛服黒ク悪心煩悶上衝ヲ

神癪例月不開服厥冷スルヲ

汪麝牙杉霊長噌蓊定杉

曲枹独活杉強二ク　姜三片　水煎

・此方六君ヨリ出ク化ク痰ヲ厥頭痛ヲ治ス化ク

・気虚脏量ス化ク二吉其脏量之姿ハ毎車ニ

乗ス化ク如ク風雲之中ニ如居フクトメ月舞

目開ク口トナリ胸サワキシ上ミ熱シ足冷此類

也此皆面ニ取云如ク四月気下脂ス化ク故一身之気



四四

虛シ劇(ハゲシ)ク痰ヲ吐ク症ヲアラハスニハ芎藭・畢
竟気ヲ草ル下ス薬ナレハ必用ルヿ
・錯定湯ヲ用ル間ニモ此方雜ヘ用テ吉痛陽
方中ニ六君有故也是ヲ補ヒ浮ヲ補ヒ浮ヲ忘ル也
殊ニ況ヤ元気モヤク草ル脉モサカイナノハ
猶以(ヲ)テ之ヲ先定湯(錯定湯)計ニ非ス服モ用
テ愛難成ノ
・月経ノ来ル時ニ及ヒ痰ヲ吐ク症ハ食ヲ減スルヿアリ
或ハ時々症仲ナト有ニ非ス畢竟気虛ヨリ
ル痰ヲ証ニ用ノ・医王抔ノ遺ヲ以テ用ノ
・一身皮膚之内ヘ水入テ有ル様ニ流行スル様
ニ覚ヘ或ハ米粒之様ニ皮膚之下ニ見ヘ其上ニテ
ル様ニ覚ヘ色悪ク気不ル(ヲ)頭痛抔有ル用ヒ
・此方之病症ト積聚之病症ト似タモノヽ是
ハ腹ニ積有ルカ無キカト可ヿ間・亦加味四君ノ症ト

粉ルヽヿ立ル白ニ良

・此方ハ東垣作ノ東木騒ト云者之内頭痛時ニ編ヲ
ノ脾胃門命ニ詳也
・小・小茯湯傷寒條下芍陽頭痛脉弦ル物ハ此方可ヲ
・香蘇散傷寒條下加宮薑ル(ヲ)芷香蘇散諸ノ頭痛
ニ吉中ニモ気ノ寄ノ頭痛ニ專吉其外諸痛ニ吉
・頭鳴頭眩不能起身煩メ頭痛シ口渇キ不
食スルニ香葛湯モ吉
・・葛湯条下偏頭痛在ルハ此方ニ合ニ陳加翊黄文方ノ用ル也

ム七　中寒

・姜附湯

強走　外　水煮

・冷食大過ノ腹痛甚ノ手足冷テ脉モ伏スル症ニ用急ニ此方用吐涎ノ肢痛止手足温ニ成脉モ出・必与食久肢痛ノ絞腸沙ト名ク至極飢及テ欠シテ子リ湯水ヲ漸々ニ食物ヲ與此方ヲ用テ吐涎之後咽ヲ燥ス竟甚ノ其時強走之谷ト思連壹月等ノ寒ニ案勿用早クスク立無者ソ

・六君子湯（補益二五）ニ姜加用テ可ノ吐涎カ因多ノ津液カ燥テ咽カ渇スル程ニ吐涎止テ食進ム必湯ヲ止者ソ

・走理中湯　右之症虚症ニ用治八五臓中寒、口禁不言四肢強直兼治四月脱停疾冷気刺痛及治臓毒下寒泄利腹脹大便或黄或白或毒黒或有清穀

抱噌強　走　外　水煮

・霍乱吐涎加光霍名治中湯・嘔吐者治中湯加厚汪撃一・泄涎加藿霍亜名補中湯・不喜飲食米穀滓不化加茯苓走霍亜・霍乱吐下心腹作痛手足厥冷去砲姜名四順湯・急痛手不可近者加桐亜名桐理中・霍乱轉筋加膏月・臍上築赤香附気動也去砲姜・腹痛去砲姜・飲酒過多ノ及吹、炙煙熬食茂茂皐蚊加官・本方加藿霍亜名藿氏理中湯一

・五積散　傷寒　可見考

・治傘散　治中寒ニ厥冷腹痛ノ将絶者

呉走ニ升蜜一升 芫ハ分 水煎

・固陽湯 治陽症厥陰陰衰縮入手足厥冷腹痛脹冷汗大ニ脈或洪弦長 曽ニ升 枹霊 走ニ升 強蚕ハ升 槟良三升 信腹痛 水煎

・十補湯 治諸虚百損一身痼冷 曽 枹霊 長 菌 薤 宮 髄 鹸 走 炙 朮 水煎

・槟温中湯 治脾胃虚弱心腹脹満疼痛 槟ろうじ 疫及秋冬ニ客寒ニ犯当月作痛 槟露ニ升 強ニ升 霊 桂 宮 蜜 師ニ升 姜ま









## 八 厥證

・四逆湯 厥症ヲ治ス厥ト八俄ニ手足冷テ入死ノ痛ト紛々ニ往ニ能々見分可ニ療

強 桂 走 附 炙ニ両 水煎

・走理中湯 中寒 平素虚弱ニ此方ヲ痛又傷寒中風ニテモ無誤ソ

九

## 八九 中暑並霍乱

張潔古曰靜而得之為中暑動而得之為中熱中暑陰症中熱陽症李東垣曰避暑熱於深堂大廈得之曰中暑

・清暑益王湯・治長夏濕熱蒸人感之四肢困倦精神短少匆匆痛気促肢節疼痛或気高而喘身熱而煩心下煩悶小便黄数大便渇而頻或不渇不思飲食自汗躰虚重脈洪緩

長蒿一匁半　寧一匁　曽炮　麹曲　猪苓　澤瀉　蒼朮　白朮　茯苓　麦門冬　人参　黄耆　甘草　各一匁半　五味　黄柏　各一匁　水煎

・虚人之中暑冷気意之有テ気虚ヒト云者用ノ光去力良ノ疾有ハ妙ヲ入

・十味蒸散　治伏暑身倦躰困神昏頭重

吐利

長曽炮　霊曽　炙甘　炙甘　茶　朮　水煎

・暑時有暴冷之頭痛発熱悪寒体倦ヲ難ヒ

夏暑二者用

・大順散（傷寒）　治壮人暑邪水飲冷食而或入水寒熱相搏頭痛発熱吐瀉甚ヒ用此症二算正角故ハ病病亦瘧労症二治成　強箇杏仁多師ヌ姜

・元補心潤肺（名加味生脈散）

曽炮　茎　関　長甘　師ヌ　水煎

・虚人痛暑養生茶服セント云ニ用・腎水虚燥症多ハ加減・陽虚人脾胃弱ニ加ヒ炮

・走理中湯（中暑）　霍乱吐瀉腹痛甚ヒ乾霍乱可ヒ

・加味理中湯　治乾霍乱心腹胞脹絞痛不吐不瀉脈沈欲絶

箕　蘭　撲　朮　薑　蜜　老　甘　師　強

九

• 茵蔯　姜水煎

• 回生散　治霍乱吐泻但一點胃気存者服之自生

　藿香　蓽茇

• 麥門冬湯　治霍乱已愈煩熱多渇便不利

　橘　枹　霊　藿　茯　師　棱　蜣　薑

　清暍湯

• 加減湯　主治霍乱食傷心胸冷痛手足厥

　冷心下痞悶寒咳痰嘔吐下而痛

　良　強　茵　藿　洞　玄　化　汪　光　朴

• 或喬二木

　藿香　白芷　蘇

• 蓽正散　霍乱之主方也又湿霍乱之浮脉不

　痛下有此方脉痛之吐泻亟吉・諸病共外感

　重久加蒼朮去枹・内傷重加蓽茇・霍

　乱轉筋二如氏



十八　中湿

• 滲湿湯　治一切湿之症

　蒼　枹　師　朮　白　霊　強　二　藿　服　朴　姜　三

• 水湿一中乞身体重ク痛犯水中小便渋リ大便

　三泄久二用・若只在上頭痛項強ケ有此症

• 滲鬱湯　寒湿ヵ雨路三中ラレ身冷ケ覚ヘ自

　汗盗汗大便溏泄ス陽気虚之ナル二用

　枹　二　噂　咩　強　四　鉄　走　炮　霊　枝　炙　甘

　姜五片棗二枚水煎

• 除湿湯　治寒湿所傷身重腰脚酸痛大便

　泄小便或渋或利

　蒼　枹　汪　霊　蓽　強　茵　狂　師　女　水煎

• 夏秋之疾咳六茎杏ヲ加

• 同方　蒼　汪　仁　蓽　藿　霊　枹　仁　師　五

　姜棗ヽ水煎

・龍鍼湯 治濕熱流注支節腫痛

龍鍼仁 珊瑚 貫衆 僵蠶 薤仁 仙人洞
槐雞宮 紅師薛寧仁 水煎

・下焦加減・婦人瘧加膓多加洗蒿・衰痛ニ
加乳汁・瘀血加漆非虎

・清燥湯 治久月間濕令大行子能令毋宜而熱壯濕
熱相合而刑傷太陽故寒ニ涼以救ニ燥金ニ受濕
焚之非寒ニ水生源ヒ絶則腎虧痿厥之病大
作腰下疼軟瘫痪不能動

長粳 薤仁 枸雲 蓯紅 薯霊寧仁 閇
薛荒 曲 猪仁 汚 茝連仁 荜 茇 師ニ水煎

・除濕湯 中濕而身盡痛者乃濕相搏非
在表

虜粳 珊寧 茇 本 薤仁 薛宮 箇
雙 桂

・寒濕脚膝肩ニツ五積散ニ治ス

・虜勝濕湯 治肩背痛不可觀此乎太陽気
弱メ不行経ニ入ル茶散ニ脊痛飲折 項強ノ膕 此
足之太陽経不通行此薬主ニ
虜僵仁 本 珊 師 宮紅 方ニ 水煎

・是方ハ東垣ニ脚里論ニ古リ食後ニ腰沉々
然ル経中ニ有濕熱也其如キ病ニハ此方ニ薤
加テ可用

・一人肚メ多驚キ小便淋瀝ス色々療メ不有効ト
思ニ経中ニ濕熱有ルカト思此方ニ茇蒿ヲ加用
ルニハ其候吉ノ

・又一人項背引ツリ痛ミ天項痛甚イヨ々々ノ
・僵寄生湯・ 治腎気虚弱ニメ冷臥湿地腰
背拘急筋攣手骨痛ミ當風取涼過度風
邪流入脚膝為偏枯緩弱疼痛羸脚重行

十

妥鞋難並白虎一歷節風之痛
獨 膝 蒼朮 仲 細辛 桂 甘草 參
●僂荒豚艽仲小閑宮的靈噌
●本胃虛ㇾ感寒ㇾ濕脚気痛風腰痛此ㇾ痛ニ
用方ノ
●濕脚気ニ用方ノ腫者ヲ濕脚気ト云也
●此方ハ十全大補湯ニ痛之加減シタモノ也
●方中ニ仲ハ下焦之風濕ヲ拂物也腰足肩之
痛ミニハ屢僂有ルノ
●腰足痛テ不ㇾ立中風ニ此方ヲ古方ニ能用メリ
●中風ハ先ニ不ㇾ行物ヲ故ニ二方計ニテハ先ヘ進行
筋骨ヲ強スル茶方取ルベ〳〵可用
●無奇生代續斷ヨト有又五香連翹湯ニ寧
ヲ加事一倍ト有
●補中治濕湯 此方ハ冊後ニ載ル方ノ物別ニ此方ハ冊之配劑也後ニ分兩付テ用ヒ
未ダ一溪先生取用ユルノ
噌 枹 豕 薊 靈 蠹 閑 辭 支 犹 文 尓 大通
榛 寧 ミ 水 煞
●是方脾虛ㇾ濕ニ感ㇾ腫脹肺脹ヲ生ズルニ吾
●脾胃草卧テ胃気不ㇾ升中焦ニ積気滯リ
脹滿スルニ用
●朝寬ク暮ハ急ナル血虛暮寬ク朝急ハ
気虛朝暮急ハ気血共ニ虛スル也
●此方高キ処ヘ上ル八胸ヲヘ吸キト云ニ用吉故ニ脾胃
虛ㇾ濕気之逆上スル也 肢下ルノ類ニ吾

## 飲食

・香砂平胃散主 実症之者傷食胸中二痞有二用

蒺藜(ハマボウフウ) 陳皮(チンピ) 蒼朮(ソウジュツ) 姜水煮

・肉食不消生冷麪食霜降三ヒ用

不止霊砲汪娠湯ヲ加

・治香砂平胃散・治傷食霜降三ヒ用

蒼朮(ソウジュツ) 陳皮(チンピ) 厚朴(コウボク) 甘草(カンゾウ) 姜水煮

・肉食不化査梨ヲ加米粉麪食不化曲芽(モミヤスカ)ヲ加生冷

瓜菜不化強光(ツヨミ)ヲ加飲酒ニ傷々者八連(ヤセン)(熟葛)ヲ加

洩不止霊砲汪娠ヲ加桔梗(キキョウ)ヲ去ル石膏下有痰作痛

飲肉者食積ヲ去ル査牙強洩

・二陳湯主過酒之者瘡湯ヲ用

茯苓(ブクリョウ)は(1)霊 陳皮(チンピ) 半夏(ハンゲ)(2)日 甘草(カンゾウ)(3)日 姜(4)

・葛花解醒湯 治飲酒太過嘔吐痰逆心神煩

姜水煮 枳殻(キコク)は三匁若しくは生姜ヲ入ル

乱胸痞塞小便不利
多孙醒(酲)汯 窒ヒ多光行 霊仙 猪噂豕半
枹曲 蒼朮 陳仁 水煎
・香砂養胃湯 治脾胃不和不思飲食口
不知味痞悶不舒
薑蓽蔥 藁 霜ハ曾孙曾 枹仁 霊孙多窒ヒ
多ヒ師ヤ
・此方第一勿用フレ不食シ脾虚冷メ不食ス
ル三吉
・胸冷々トメ脾胃和セス四肢中有寒疼故也
・他病成ヒ不食ニ本病ヲ治スル薬ノ間ニ此方ヲ
用テ吉又有リ思之外本病ヲ治スルノ斌事切
々有又諸病雖熏不食ニ見症脾四肢ノ和メ見度
ト思ヒ此方也
・紙脾四肢ヲ和スルヤ赤レ和トハ補ト浮トノ中ヤ善加減
之ヲ見也 ・多ハ四肢ヲ開此次ヲ可学幸想之
剤ニモ白虎湯之跡林ニモ不食ニハタメニ加ト
有 ・兎角不食ニ能薬ノ此方ハ香砂平胃
散ト四君トヲ合メ多ク窒ヒ加ヘメ物ノ是ニテ分
別スベシ平四肢四肢之除湿熱ヲ治食滞ヲ四君
八脾胃ノ補虚ヒ窒ヒ上達ス此心也 ・此方之症ハ
疑定湯ニ紛レソ ・諸病之不食ニ良シモ取分
傷寒大剛剤ヲ用イ愈テ後不食セハ此方ニタメ
ヲ倍可用其効如神 ・按ニ雖ニ方中有平四四
君之薬薬味之内洞算ヲ去リタメ物ヲ加ヘタル也
只不食ヌル二ハ此症ニ若胶中ニ有停食不食
シ胃林モ不快可ヒ二洞雖剛薬猶ヲ停食有ハ
為湿ナトスルヲ汗ニ取リ温四肢故ニ食消スルノ由ニ
詳カ也
・香蘇散 感冒 条下ニ食傷外感寒慄怒相冲ハ即

十一

此方ニ加ヘテ二鬱宮ニ屬カ老龍佳也行気香蘇之症也曲飲食門ニ有 ・魚肉ニ傷ク久此方ニ等加ニ當多ク或ハ木豆抹入テ吉

・行氣香蘇散 治内傷生冷厚味ニ外感風寒濕氣悪寒ス皮肚腹脹滿疾痛等ノ症

舒鬱薑鬱 屬仁宮 龍 老七分 師ニ分 姜一茶水煎ス ・濕勝者加蒼朮ニ非食滞去 龍加光蜜蔥鼻ノ若左右及心腹痛者大七ニ湯ニ加鬱

・萬病養胃散 壽德院秘方 食傷腹痛疾飲胃塞リ泄浮其外不食何ニテモ

鬱標 薑 朮 蒼 宮 薑 蜜曲炒 蒯仁 汪師生五分

・和中飲 一切食傷大霍乱症氣ニテ脹手足ノ冷ニ脹寒ニ三歳之小兒何共不知加大人ニ脹ニテ用其後黄一名枇杷葉湯

吳仁 茂朮 蜜炒 箕ノ師ナ 振出

・土味和中飲 功能前ニ同

蒯薑曲 牙 吳 蜜師 宮 箕 茂 枇 各ホ分 振出

・香舍丸 食傷下肢霜雪之腹痛是數亦山嵐雨湿ヲ佛ニ塩湯亦海邊不正之氣ヲ防ス白湯ニテ送下

蜜仁 喬仁 研仁 細末ノ為丸

・宮子湯 余下ニ鬱枝強ヲ加ル症百ハ蜜薑加虚弱之人ニハ走加風寒ニ表ハ首ヲ加

十二

## 十二痰飲

• 加味汪湯　治諸痰飲

汪仨 霊仁不強 姜仨水煮

• 宿飲小便短少則加茵仁• 若し実痰者六加牝

儿香三六加薑黄• 脾气虚弱之人生痰者六加牝

仁研仁彼曰消化食而用曲牙洞類則脾气

弥虚痰弥盛之此金匱小汪霊湯也專治え

痰无於此加強助胃陽莫不愈者若老痰

桐堀凝滞胸膈火盛气実者宜用化痰類

必不可過用

• 豁痰湯　脾虚而胃陽不化痰飲湯溢者

頻三用之則胃陽運而痰飲凝結為一團

黒色物自然吐出気降食消無湯溢患

枹仨噌仁霊仁不汪牲強仁不師ナ蜂房炒

姜仨水煮各三服服

八味昇丹丸

千金化痰丸

二方摘要某方並治命百異

• 葶子降気湯　和剤　治虚陽上攻気不升降上

盛下虚痰涎塵土盛及逢急難後或因

電交之事気上不降不能熟眠

皷日 薤炙 前胡 桂枝 陳 蔞仨 枳実 瓜蔞仨 秋汪五

右各服五銭水盖姜三片棗二枚煎服加薑枹

尤可也

• 二陳湯　治一切痰飲化為百病治痰之要薬也

薑 汪仨 霊仁不 師伴 姜水煮

• 風寒寵皮姜ノ大二ス• 食支ハ洞標劇• 湿中

虜劇• 気鬱蔓舒窒• 火燥二ス咳多ク

上逆二ハ貝仁荃関• 帯血茂鋭苑加去汪

• 加薗房清心道寸痰湯之症ヲ治シ多リ



五一

●痰濕ニ属スル乃津液之所化也何之病ニモ痰飲ナラハ用ニ可也然共濕痰宜ク甘中ニ粘付スルヲ濕痰ト云又咽喉ニ乾付クニハ姜仁等之劑ニテ禮下メ佳

●又曰中ニ有熱最上ニ有痰ニ陳湯ニ加黄連ヨシ

●風寒ニ傷テ而心悶吐スル者此方用テ吉頭風之症也

●三十余歳之婦人産ニ月吐逆小便渋リ大便結ス此方ニ洗ク支車前ヲ加速効有リ

●三十許婦人産後五ヶ月感冒寒熱頭痛吐逆テハ痛欲飲水胜暈便結ス此方加洗光強姜ヲ入煎リ名ヲ痰ト云不解メルモノ

飲ト云

●消痞湯 治婦人不食及悪阻或痰塞胃口

（附方ニ載スル所ノ方ト薬味異ル者ヲ挙ク）

半夏 茯苓 甘草 人参 白朮 枳実 厚朴 神麹 麦芽 山楂子 各等分

右一剤水煎

●導痰湯 治痰飲語渋頭目眩暈或胃脘留飲痞塞不通

半夏 南星 橘紅 枳殻 茯苓 甘草 生姜水煎

●痰ニテ数日苦ク痰延日ニツカヌル用ク必参蘇飲ニ加ル又依症霊補心湯モ佳

●或鼻鰾騒加順気導痰湯名ク或文連膏抱加依症加減メ良●凡方ハ痰之定症ニ佳也清心導痰湯●配剤

半夏 南星 橘紅 枳殻 茯苓 甘草 生姜水煎

●清心導痰湯 配剤

麦門冬 半夏 南星 橘紅 枳殻 茯苓 甘草 竹瀝 生姜水煎

●一方去甘草加薤白名ク洞定加霜宮ト有姜可便

●痰火ニテ脈数実胜暈ニ良ク騒定ート互ニ相用ル方ノ痰火之症ハ頭重ク足軽ク項大陽経強上气シ此彼コビクメキ頭フラ〳〵トスル之ニ此

十二

方定ニテフラ〳〵ト治ス奥ノ連文ニテ上火ヲヲコス慶
僂多ク入テ経ニ強リテ止珊上焦之風痰寒ヲ散
スルノ星ハ風痰ヲ退ケ霊ハ痰気ノ逆上ヲ降下シ
次ニ上焦ニ火ヲ小水ヨリ取露ハ和中気宮ハ下焦
爵滞ニ気ヲ疎ニヨッテ頭之重サ自止ルナリ

●疾火上ヒハ吐逆シ胸ニ疾上リ胃ノ内イキレ熱ス
ニ吉此方不効疑定ノ証ニテ吉変
●此方ハ前胜暈門清暈化痰湯ヲ主方ニメアミメ
リ即此方ニ去僂連奥ヲ加ル方ノ
●疾火上レハ吐逆スル物ノ胃ニクヘ〳〵ト疾火上リ胃ノ
内イキレ熱スルニ吉若シ此不効疑定ノ証ニテ吉変
有●疾ニテ胃痛ミ脈滑ナル疾火ノ上ニ
●脈進ニテクル胜暈ニ用イテ吉故ニ疾火之キツク上シ
ハ也気虚メ胜暈スルト見メラハ四君ノ内加減之方吉
●疾火之胜暈ニモ此方吉●胃ワクヘ〳〵ト〆自無

吐逆悪忡怵有ニ

●又脈滑実ニテ丸ハ加膏ヲ用也●丹溪ハ右之様
成証ニ二陳ニ加雷房用タル変有此方全之配剤
也

●凡萎枳実湯● 治疾結吐咯不出胃膈作痛不
能転側或疾結胃脘満悶作寒熱気急上ニ与
並疾迷心竅不能言語者皆治之

枯梗 霊貝 露ハ文 粳仁 薤ハ蓋
蜜炙 師ヲ 姜汁 竹瀝

●疾凌胃ニヨリ〳〵ト三テアエリニ此方用ユ
●疾軟咽ハ痛ミ敏ヲ加腸痛ニモ佳久ケレハ胃ニ
癰出テ膿ト成リ難治ノ是亦ニ疾結之症ノ
●疾迷心竅不能言語加膏去砲気喘ニハ好箕ノ
如ク用テ吉扒用姜滓操擦痛処也
●二人労痩メ久シク咳嗽早晨ニ受又治ス久シク不験ス

咳嗽 息 労咳 痰飲 小児 婦人 胎産 胎教 胎出血 胎漏 胎動 胎痛 胎寒 胎熱 胎虚 胎実 胎毒 胎瘡 胎癬 胎疥 胎瘡 胎癬 胎疥 胎瘡 胎癬 胎疥

二此方用ル二三貼メ安シ

• 吐トモ不出者ハ是痰飲ノ具ニ是方吉

• 身撚難轉側者痰結也又照下二有痰作寒撚該
軟気急作痛ハ亦痰結也此方佳

• 四歳女子ヲ感冒ノ後咳痰不止ヲヲメ痰撚気息
喉鋸ヲ引ノ如ク不時撚来々リシハ其形食喘息
又ハ支連シ諸医集テ百方用ヒモ不効予用大竟ノ
悉退テ後用方九貼ヲメ全快ス

• 大連翹湯 竜膽 荻車 牡蠣 鼈ノ甲ノ支 退

薜 珊瑚 牛黄 貫衆 芫 師ノ二 水煎

• 加味四七湯 諸気 痰飲第一之方ノ畢竟萬症痰ノ病ニ
吉ノ降火下気痰飲消ズル茶也

• 此方症ニ清湿化痰湯ハ異味同ノ治スル也 清湿化
痰ハ湿撚ニ吉此方ハ気剤之痰ノ病ニ吉ノ

• 七情之気剤ノ生痰ニテ不快気病ニ用梅核ニモ

• 清湿化痰湯 風湿撚ニ吉加味四七湯ハ気剤之痰ニ

• 疑定湯之症ニメ痰ツカヘ胸苦キニ用ユ

• 痰胸ニツカエ身ニ痛有ハ必此方吉

• 胸脇ニ痰有テカラメタル様ニメクロカヌニ此方ヲ
用テ吉畢竟ハ痰ニ吉

• 汪袍定湯 頭痛 条下 目舞 気虚ノ痰ニ吉

メリ或時々症忡怵有ニ良気虚ヲ兼タル痰症
ニ用ノ亦医王ノツカワレメニ用

• 此方之病症ト積聚之病症ト似タモノノ是ハ
ニ積有カ无カト可問

• 三因四七湯 心腹痛 条下 虚陽上攻上盛ニ下虚シ痰延雍
盛ヌル二加粳蓽ニ可也

• 追風通気散 痰飲為患或喘或咳或暈頭痛
睛疼遍身拘急骨節疼痛胸膈痞悶或嘔吐或
腰腿手足緊絡瞳硬或痛或不痛皆之

無血胡麻或有微紅
薤支 鼈甲 薑苗 鱉 老師 小豆
酒半ヲ入水煎
・利氣冊 此方氣付諸病卒死 雀小兒驚風元良
星 徳 鴈走 缶 蚕糞 噌仁 辰砂一 細末メ
蚕煉 ・功能疾速產上盛而氣絶中氣中風等
之症二皆正可用之也 姜汁三テ送下セヨ此即濳
齋方之須元散二加噌辰名也 適要二詳ス



・大煩散傷寒 大抵風ヲ引テ咳甚ニ用ル燥症有テ労
症二欲成ス又寢冷メ咳スル二モ加莖閉花貝ノ
用ヨシ吉 參蘇飲抔用ル症ハ稀也トソ
・小青龍湯傷寒 強ク風寒ニ中テ咳甚メ寒熱強キハ
必用ル先三拗湯ヲ用テ不愈ニ此方ヲ用ル三拗
湯ト同シ氣味ナレ共莖カ入テ肺氣ヲ保ツ意有
アリ某味多メ行処ヘ行ル三拗湯ハ專肺ノ寒
邪ヲ去テ氣ヲ下ス計也
・三拗湯 玄 大抵咸冒之處ニテ療スルソ
師 龍 杏仁 姜水煎
・加減三拗湯
龍仁 杏 箕仁 師 杓 粳ニ 多 姜水煎
・如疾盛加星 注・煩喘加膏 ・火喘口乾加文仁
花・寒喘加小菌 ・氣短而喘去龍 嫌 ・氣

加薄荷 薑

• 秘方玄 久咳不止ニ
髄閉 茎貝 酌仁 枹 強仁 井 柹 炙ヤ
水煎

• 雨濕ニ八錢加元氣虛之ニ加薄荷• 勞咳ニ炙用ノ寒ヘ
茶ヲ多用テ脾胃ヲ傷スカ為一也

• 霍香正氣散感冒治婦人腹脹或咳嗽盜汗

• 清肺湯 治犬喘汗火喘者作進作退得食則
減止食則喘也
芩 梔 桑白 薑白 炙
文 粳 洞 箕 靈 杏 霊 貝 妒 閉 甘草
辰 加味 姜水煎 竹瀝ヲ入ル

• 四君子湯 治短氣代氣短而喘者呼吸短促而
無痰声
噌師霊 靈 榛 蓼 妒 箕 薛 枹 甘草
蜜炙 姜水煎

• 清肺生脈飲 治暑入肺咳嗽脾胃虛弱氣喘
氣促
長仁 薛 茫 煎 甘 閉 五味 茎 麥門 水煎

• 清肺湯 一名咳清湯 治一切咳嗽上焦痰盛
桑白 芩 文 粳 靈 陳 花 梗 甘草 貝 箕 仁 薛 閉 粤
杏 閉 茎 麥門 甘草 妒 師 甘

• 一切之咳嗽ニ名ト有由之方前ニ三ケ条挙ケ有

• 肺脹嗽ト八呼吸早ク喘滿気急ヌルヲ云此
方吉

• 久嗽不止成労性或ハ声嗄ヲ治或ハ生瘡是
火傷肺金故此方能又降火湯モ吉然ト モ
降火湯ハ早シ 又用動劑
度ト思時ハ此方吉茎抔ニ至テ肺気ヲ補テ扱駆
秀ヲ涼血降火茶ソ

• 久咳不止労咳ト成時々悪寒ヘ抔有リ熱気

来リ杯メ不効虫故ノ咳ヤト云ニ是ヲ用ニ能ク亨リ

• 又虫咳ニ吾労瘵ノ咳ニモ男女共ニ口杯乾咳嗽不止ヲ度ニ此方ヲ用ヲ出治ス

• 又或僧正半年計咳嗽不止ニ色々ト療治メ不治陥火湯之類ヲモ不止是ヲ大火ト思ヒ貫ニ陳ヲ合メ三服ニ治シ〻メリ三貫ハ宿大火ヲ下スヌ又陥火湯ハ虚火ニ吾此三貫ヲ計ニモ可然可哉

• 有人歳三十余肥白之男感冒咳メ午後ヲ度嗽筋ノ如ク五更ニ近ヲ度如ク敲ケレハ脇筋ノ如ク止厭強ヲ洪大也陥火湯餘リ強シト思此方ニ芫洞ヲ加ヘ十九服ニメ安

• 疼嗽ハ有ニ疾ヲ度有シハラクメ疾出テ即止咳気ヲ度ヲ度ノ不止ヲ度ハ肺ニ伏火有テ潤乾此ハ茂散之劑ヲ

• 傷寒ニテ咳嗽メヲ度ヲ用大事之症也故也三拗湯吾四ニ加減ノ方有

• 咳久シノ不止ヲ胃ヲ度痛ハ肺離ト可得心ロノ是ナニグヲキハ称ノ事ソ橿湯可也

• 橿湯 橿貝辭箕長女杏師

• 保肺湯 治肺胃受風熱疾盛咳嗽喘吐不止及治久嗽不愈

瑽霊 鼓行箕 紅蚕行 酢穴文 珊杏行 砧紅莖 橿行 得行 水煎食後服

• 噀痰曹月湯傷寒条下平田月敬ニ陳湯カ方之中ニ有故ニ白月痞有症疾ハテ而々トメ股痛咳嗽ニ此方佳也内外ヲ兼々ル方ノ

• 咳嗽ニ九丈 宋ノ三稿飲陥火湯称ニテ不験ニ此方ニテ吾事切々有症ハ而寒ヘ茂熱咳嗽疾切

七又ル者ニハ猶吾方中ニ二陳湯有故ノ

・合小茈湯傷寒ノ余下ニ云熱症之歟冷水ヲ好ミ不食シ痰上ヘツキ上リ胃火之如ク熱ニ此方ニ加芎藭黄芩

杏噫噎滅ス・熱症之咳逆ニ柿妙也予思ニ兩脇痛ミ身ノ轉コト能ハス咳逆又ル片ハ此方又感冒之咳ニテ兩脇或右ニテモ左ニテモ痛ハ茈ヲ倍シ加ヘテ吾

・合枯蓼(カウキン)洞湯(トウ)痰飲ノ余下ニ夜明方ニ咳歟多ク八胃中ニ積有此方之症ノ又上半日ニ歟多ク八胃中ニ伏火有ル也是モ此方ノ午後ヨリ夜半ニ至至テ歟多ク八降火湯之症也又黄昏ニ咳歟ス久ク茎ヲ加症也咳清湯之類用可也由ニテ條挙タル此方ハ咳歟喘急之主方也

・東垣浮白散・治膈気在下陽気有上咳喘呃



箕狂簸糸 壺亜一糸 彡糸 光莖 霤噌仁粳粉

水煞

・咳歟日久ク肺気草卧多ク吾東垣命ニ陽気在膈気在下故ト云也

・降火湯林用テ肺気カ余リ草卄タラハ此方用テ吾

・丸蓼洞湯ハ実症ニ用此方ハ虚症ニテ肺中ニ火非之有ニ用方ソ

・一婦歟日久ク肺気草卧テ不食シ咳血有テ脉无力者ハ清咳湯之症也ニ貼用テ不止畢竟ハ肺気カ草卄テ肺ニ火非有ト思テサヘ

竟ハ肺気カ草卄テ肺ニ火非有ト思テサヘ

簸杯ニテ火非ヲ去ントモ思此方用タルハ二貼ク全

愈咳血モ止

・簸ハ肺中之火非ヲ去リ下焦腎間之相火煞

熱スルヲ治スルノ至ハ肺ノ熱テ喝ニ吾噌敗肺

ノ温潤之ル物ノ肺気之虚ニ吉

・金匱浮白散之症ニ川芎洞湯ヲ用レハ却テ吐血スル物也浮白散ニテ補ノ公痰之下ニ用テ肺之火非ヲ浮スル三反テ補ノ理也浮白ト八白ハ肺ノ云ソ

・有婦人産後ニ膓之後咳嗽喘急臥ル不得ス初中後ニ咽乾キ脉数也也香蘇湯用テ咽喝モ同前降火湯之証ナレ共脾肺之虚ノ殊ニ産後ト思此方用ルレハ三貼ニメ安シ

・王枕云此方肺気分之方ト云ン又王枕ニ此方子細詳也

・私云ナレモ風邪ノ有時ハ不宜先ニ参蘇飲杯ニテ去邪後ニ此方用

・参朮調中湯 渇燃補気止嗽定喘和中進食

長細 其紅 噌 霊 袍 師 狂 茎 竹 沫 錄 圀 雷 ㇐ 光 ㇐ 水 炎

・此方八咳嗽喘未発之時脾肺之正気ヲ助ケルヲ以テ主トス又咳喘已発ハ非ヲ散ヲ為主ニ陳ハ湿痰ヲ除キ仏蘂洞湯ハ燃痰之方紀此湿痰カ燃痰カヲ見テ散非ノ跡ニ食不進汗出ハソコテ此方吉ノ

・物身ニ元汗乾食不食咳嗽杯不止加駆痰散非之薬長噌ナト減メ其当ニ病ノ本ヲキラヌ折已カ心ヲカナツチニメ必ス気弱キトテ其促用メラハ誤リ重テラン先其鑓先ンテ元効ニ給旬軽キ此薬ヲ用テ可也

折トナリ

・香蘇散 感冒ノ余ニ・感冒咳嗽痰ハ指引之時参穀飲

・葉正(感冒)条下咳嗽抔ニ杏蘇散ヲ用不効此方用
テ良
・茵陳湯(補益)条下咳嗽午後ニ多ク発陰虚此方ニ滞
房膏其火ヲ降
・陰虚喝嗽或吐紅或者此方ニ加滞房效尚
箕山録吉シ
・労嗽ハ宜補陰清金此方ニ姜汁竹瀝加テ妙ソ
・陰虚大動メ嗽ハ此方ニ合三陳用妙房滞加テ
寄也
・霊補心湯(虚労)条下心虚メ
ル二用也扨血虚メ咳嗽スル二算ニ方也血虚メ
夜ニ入テ生ズメ嗽シ後必有事ソ
・小蒜湯(合)条下婦年二十余リ産前ヨリ咳嗽産後ニ
日悪寒発戻咳甚シク滋陰至宝湯(虚労)ニ非ヲ用イ
テ咳嗽止ミ潮熱シ夜ニ入テ之間数リ起リ自汗盗
汗又脈数此方ニ髄鋌ヲ加エ五貼ニメ全愈メリ
・参蘇飲(感冒)条下咳嗽労瘵トナル二吉労熱裏熱
ニ用ユ咳嗽門多ク神飲ノ下ニ労疾トナルトスシ
治スト眉メリ
・疾ニテ咳ヲ胃苦ク疾ノ途白ヲ二ツ丈ケ開ク多ク此
方能ク又依症霊補心湯(虚労)モ佳也
・小児咳百テ急驚風ノ初発ニ先用或白丁疾
気ツカヘ久シキ吉可秘虚弱ニ滞ヲ其侭入疾気ノ
衝上ニ噂ヲ去テ可也
・(合)瓜婁洞湯 条下食積改ノ嗽ヲ疾ト如膠(コウノ)ノ也此方吉・扱
何ヲ因トメ煩ト扱ヲ嗽喘急ニ吉ノ

十四 喘息

不治之物ノ常ニ用ニ咳門之秋方ノ内ニ文ヲ大ニ
加ニ噦皆走ヲモ如表盛ニメ寒ニ風ニ不中枚當座ニ
苔ニ大順散蘇子降気湯之類ヲ手ニ隹ニ

・蘇子降氣湯 治ニ屋陽上攻ニ気不升降ニ上盛不屋
痰ニ旋覆華塞喘促短気咳嗽者

水紅雲橘梢 蘇子 汪辞師 紅多

・旋覆花湯 治ニ傷風寒暑濕喘嗽大盛坐卧
不ニ寧

千 鍼 渕 汪 黄 師 霊 荃 杏 龍 舒

姜束ニ水煎ス

・五味子湯 治産後喘欬脉伏而厥

荃ニ魯 杏仁 閑雲ニ 汪 姜三片束ニ枚水煎ス

・一方 特効常ニ二陳ニ木占 其ヲ加テ治ス不効ニ
噦日敗毒散ニテ立効ニ愈ル久リ

一方 痰喘息ニ治

汪 星仁雲紅 老霊杏 皂角ニ 師ス

姜水煎ス

・加減浮白散 喘急哮吼ニモ

箕 楫 栢 寧 汪 杏 舒 銀 舒 師ス 姜水煎ス

・加荃圓七九十一非 瓩灸メ隹也

・凡薬要洞湯 痰飲条下 胸口クヽトメ有壱喘急ス咯
痰不ニ宣ニ音気ニ奇メ此没喘也

・喘息メ不得眠者又服薬々之後若咯痰メ
痰出テハ為効若咯痰メ不出ニ雍治加秋箕ニ
用ニ猶条下行テ方可治

・四磨湯 治喘急気逆上気ニ
麩噌 洗 鰺 舒 水煎ス

・右如常ニ煎服ス喘咳喘急ニ效也気逆上気ス

ル三吉面赤ノ髪ヲカナグリ抜三吉竹田之秘密
也陽坊被呂之時度々覚工百之由三テ相傳
也大二可秘

・加味四七湯 諸気余下上気喘息メ胸ツカヘ噫吐メロヨリ
白沫ノ吐スル二又蛮流気飲之余下三モ此二メリ
二方見合セ用イヨ

・降火湯 虚労余下陰虚火動メ喘息又ル二加秋髭莫
杏瀝妙ノ心脈数也

・七氣湯 積聚 有積聚テ喘急スル二

・九文 感冒 余下一男持喘常二發則用二陳加杏雪テ
愈今度又前症用常茶或他療メ不効膏ル
処ノ用立処ル念タリ

十五 労嗽

・龍 走小湯 玄曰惟在初感時初感ヤ覚悪
寒咳嗽甚者寒氷在肺藏龍走小湯或
強閉類當温門無表症者青龍湯之類
可治之此特却用参ノ蘇清肺類其許忽
慢則至不治

龍二両小二両走一服
石三味以氷一斗先煮龍減三升去上沫内薬
煮取三升去滓温服一升日三服

・大青龍湯 傷寒
・小青龍湯 同

・秘方 咳嗽 労咳二必ス用ユ

・叔労散 治没肖倶虚労嗽无痰夜熱盗汗
四支倦怠体痩食ヤ恍惚異夢ヤ嗽中有
血名肺痿

十五

薑一斤 長師 甘草 參 茯苓 温四 陳 五味 棗 膠

水煎



• 駆邪湯 瘧初發先寒後熱先熱後寒久者當用之治

蔺仁 強仁 蒺藜 汪一斤 走七分 師六 茈一斤

右為三貼每貼姜七分或一斤水煎

• 三四日而后吉生瘧者數愈也不愈而寒去熱往發者腎水虛腠腧弱加甲雷•風多寒六者倍柴•風六寒多六者倍強走•

數為風寒多多六服不是柴背多柴頭痛者風多寒六一身背柴六服是柴无頭痛者六頭痛之者寒多風六當知柴多之處必寒非多•知寒初發於何処而可知引經茶或大陽屬六陰優小之類是也腑腸逆加洗仁勿用光洞小便短六加靈信秇•大便不鞕加枹朮行各一斤

・桂枝加葛湯　治發多寒少一

　枝　銕　棗　葛　薤　汪　文　生　姜水煎

・葛桂姜湯　治瘧寒多久微有發或惟寒不

　發服一劑如神

　葛　伴　枝　三錢去皮　強　二文三錢炒去皮　桔　梗　三錢炒　炙二

　右水煎日三服微煩復服汗出便愈忌一本无姜有薤

・医王　加減

　治六月暑發久盛腎遺發久不止不食・加莲強

　瘧多汗後元氣虛之者之必用之遺發不止

　汗多者必用久瘧遺發不絶大便不鞕或微寒

　時々有之者因妄用涼藥所誠元氣也

・張仲賓曰噤價貴難治多用桂一味三錢入

　宜用此因為貧者有大益我亦走之多以下皆

・加文銕汪・有汗及寒重加桂枝倍之・熱盛倍葛

　文・湯加陳香・久瘧三用・一婦人瘧後狀体骨

　立生諸症半歲加走仟用二合・二切瘧又能治

　瘧後腫滿宜正加姜棗小治久

・六君子湯　諸虛　加蔺強長薛二久瘧之後用

・不換金正氣散　感冒　加葛文二錢用

・松風散　秘方

　茂　荊芥　葛　薄荷　雄　麦　連　洗　木通　芎　白芷　生　姜水煎

　強久下落中子九二茂乃九

・噤養胃湯　傷寒　老人胃弱久強半瘧三下之無永利

　二用　去六加蔺光棗草堂走二用久レ久リ

・加減瘧二久乃ク〻レ久九二道遙散又此方可レ脉弦

　大九猶ノ有効竟久久レ

・又曲方毎日晡時三寒ノ發メ汗出大便沒レ心脫堅ク

　腹鞕面四肢浮腫二武方三下治乙甚神効也

・第一先瘧之方也漸々トメ増寒ノ翁々トメ發熱

　レ位之軽症之薬也寒ノ多ク發ス半二用立

中風 麻木 傷寒 瘧 中暑 霍亂 中惡 飲食 痙 痙 痙 痙 理霍亂 感冒 頭痛 中寒 痙 痙 痙 痙

八大便八自通スルヲ玄之命ノ

• 一方　截テ宜シト思ハ此菜ヲ用ヒ毛有ノ生姜百
人三人ノ
恒洗ヒ媒テ
• 猛火盛ニ用ノ　水煎

• 驚甲飲子　治瘧久不愈胸中胠結塊名瘧
母肝之積
甲抱景（甲乙作）洗宮　鼈鍵榛牙
姜棗ヒ媒ヲ入水
• 参ノ歸驚魚甲飲　有ニ瘧母ニ用
噌査　洞蜜狂　師ニ光　長薛靈抱
薑宮八　姜棗ヒ媒水煎
• 噌截瘧飲　治ニ虚人発瘧一切瘧疾並可ニ服
之
噌抱　聖薛光　榛蒐雷文果通

甲ハ枝ニ師ヲ媒姜棗ヒ水煎

• 是ハ四君子ヨリ出ヅ久方ノ瘧之功莫労瘧ト
ナラントスル二可也甲抱有故ニ片貝ナトニモ吉
• 老瘧久瘧或三日ニ発或一日ニ発及弱瘧積瘧母
有ル人ニ佳也養胃湯同心得ノ
• 老瘧之方也久瘧ノ間モハヤ灸カ此方カト可心得灸
噌抱　聖薛光　榛蒐雷文果通

甲ハ枝ニ師ヲ媒姜棗ヒ水煎

• 是ハ四君子ヨリ出ヅ久方ノ瘧之功莫労瘧ト
ナラントスル二可也甲抱有故ニ片貝ナトニモ吉
• 老瘧久瘧或三日ニ発或一日ニ発及弱瘧積瘧母
有ル人ニ佳也養胃湯同心得ノ
• 老瘧之方也久瘧ノ間モハヤ灸カ此方カト可心得灸
卜兼用ル也瘧之肝要之菜三テ八無シ本瘧三テ寒
發往来抔有ニ八不驗胃ニ脅ノ久ト八相違ト心得
ノリ
• 瘧之後養生菜三吉噌養胃湯ヲ養生吉
瘧落テ発残リ久ノト思時此方ニ十服ヲ用
テ吉カキトレノ瘧ハ不落菜カ弱キ也弱内
之功菜也已ニ四君子ヨリ出ル久方也
• 瘧母有ツテ片貝瘧ト云ニ用也甲有ノ故労瘧
落テヤハリ養生三吉

●老人虚瘧ニ用ヒ中ニ三度發リ或四五日一度發リ久シク病テ老瘧ト成ニ事ヲ用ル也

●労瘧之方也敗成老瘧ヲ治スルノ久キ瘧ナル抔最モ早ク切ント思時ニ清脾湯カ此方ヤト可心得灸ト兼用也然ル急ニ甚キ瘧ニ不堪久數百日ニ余リテ起テ寒ニ弱サニメ熱モ甚ニノ気血ニ衰脉数細弱ナトノヤウナル用方中ニ景雷光但甲杯ノ發ヤメノ證ハ四君子也補気薬ニ補血薬和栄気血取立ル薬也故ニ内外共ニ備リタル薬ノ然ルニヨツテ瘧ノ後ニ養生薬ニモ未タ服硬物有ル内ハト云者ハ此方ヲセヌク不食抔ス人ニハ當ニ養胃湯吉

●服ニ有積塊患ニ瘧ニ月種々療治メ不治此方ノ隹也内ニ光景雷抔有故ノ雷抔ハ四味ヲ能毒ホニ治積ト有レ共疾ニ水ヲ趁ニ舞気ヲ以攻積上ハツラダレセヌソ

●男子五十余歳久労積気今患瘧疾既ニ三ニ發汗タクヤウニ面之正気散ニ貼發メ露ニ宿發日之五更ニ温服ヲス即落也

●正気散 曲靈汪藁光宮景泥滴花図行 枝師 姜枣

●衣瘧ニ落ヲタル物ノ是ニ其病症ニ相タル方ニ鍼茈之三味ヲ加ヘ用是ニ味入タル方ヲ可用ニ三服之後發ニ其時ハ隨症薬ヲ用

●柴滴脾湯 治瘧強数悪タメ寒ヲメ口苦ノ咽乾キ大小便赤涙上 光榛柏 景茈 雷 文ホ 師ヲ姜水爽

●瘧ニ行テ有シ共又方ニ参ノ清涼シクスルト云心ニテハナシ脾ノ滴ヲタル人ニト云也

●労方考ニ序用和方也ト有ホメタソ玉ニ行テ有

小蒜ノ之症ニ似タルニ用ユ小蒜ノ之変方也

●先第一瘧ノ方之症ハ裏多寒ナメ寒熱往来頭痛シ口苦ク小便赤ク咽乾キ脈弦数ハ此方之証ノ想別傷寒抹ニ小蒜ノ不叶此方吉又ハ疝気之症ニ用ユ

●瘧ニ蓽茇之效茶抹用ユト思ヒ此茶先ヲ入テ煎ヲ醒メ後蓽茇ヲ可用

●丹溪ハ産後ニ有瘧疾内茶之内ヘ蓽茇ヲ加減セヨ其ハ産後瘧ナトヲヲ有シ此ハ平人之瘧ナ程ニ先此方カ或ハ時ニヨリテ可然方茶ヲ左ヘテ取蓽茇ヲ可ヲ

●或婦人産後戦慄不斜大熱大寒往来甚シク腥気有テ泄スル之效如氷不食咽甚乾キ渇シ脈大数雖産後タリト先ツ非ヲ去ライテハイカヽト思此方ニ三服ニテ治メリ三度共度スル自然方ニテ治ス其後発ヲ苓ヲ抱ノ補中治湿ノト合メ膓

退テ平愈

●又有ル婦人悪寒メ振々々ル之益盛夜七八度ニ有脈数ニメ無力頭痛ス此方ニテ治メリ如様之類嚢截瘧ノ用テ治スル之效ニ有他医瘧ト不知傷寒ト計心得ル也

●此方之条下ニ其ノ元云其文所以没文陽熱乃前方温脾之変也方ノ名清脾其義可知然後景等茶寒メ熱ヲ用ル則ハ是未免格也此斤ク久也然而後亦方考ニ曰大陰脾ハ主温ノ温生ズ於ヒ於生熱ヲ故ニ見上件ノ諸症脈来弦数ハ為寒数ハ為熱也故ニ此方曰清脾者非清涼謂乃致去其邪而脾弁為ク一度清潔也故ニ光榛清去脾弁於ヒ汪亜清去脾中之湿其文ハ清去脾臓之虚火而メ景ハ清去脾中之熱師ハ清去脾臓之虚火而メ景ハ

又所以清膏粱之疾也劉宋彦先生因果仁之温而喬蓋之未達嚴用和氏之清矣云加此玉枕ヲソレソテ此方ヲ誉ムノ

• 渇甚ク小便汪ヲ去テ加噌肉雷房粤雞雪五石之間弦ナラハ莵光雪ヲ加倍スト云云

• 七味清脾湯　治脾瘧食瘧一痛民間各方ニ云ノ因食傷脾停滞疾飲寒热未愈前件ヲ三

• 虫ノ脉必ス細緊成ル者ノ瘧起ス三両貝ナレハ虫也• 才一虫ニハセクリエリテ不食シ身振抓スル武方ヲ可用症ニ色々有兎角虫トサヘ知ハ可用寒热往来ナク先脉イラ〳〵ト細緊ヲ此茶ノ見付トス虫ハシ〳〵ト寒ケニ有者ソ

• 此方ハ脉細数ニ用数大ナル虫ナリ先不用ソ

• 一人三十余歳之男瘧二年及間日発シ後左ノ脇脹リ積上衝シ大便溏ス用此方軽ク発ス次ニ此方ニ洗蜜甲加テ即落• 瘧カ労瘵カト云ハ霊補心ヲ用切々得効

• 虫又ハ疾之標ソ治スルソ左右股筋攣子急スルニ必用テ効有ル婦人労瘵之様ニ病ム用ル面ノ婦人虚労門之滋陰至宝ヲ霊補心ヲ噌養胃ノ之病症ニテ〳〵ソ又九清ソ有ル又七清九清ノ白ホ入カ佳ソ

• 瘧ニ内テモ才一虫瘧ニ吾本方六味ナカラ虫薬也虫咬ニ吾ニ陳虫之加減シ又ル心持也振ニ吾虫瘧之見様ハ脉細緊成物ソ其又発シ様モ起時ニ自月工物カ指上様ニ有也此方吾• 俗ニ三虫瘧是也

• 此方ハ内傷生冷外感六淫非為瘧然ル先九清ヲ製ヲ去テ起リ日之五更ニ此方ニ洗ヲ加

テ可畏ト有故ニ艾ヲ灸ノ寒ヘタメキヲ治

• 陽火ノ之症ニメ病々ト寒ヘ虫気ニテ旬日ヲ久ク不食シ陽火ノ杯用テ不験ニ此方ニテ旬月ニシテ全ク治スラン人能ク此方ヲ用ヒヨ切々ト思フ

• 労瘵咳嗽杯有テ十ノ杯ニテ不験瘧ニ似テ咳虫モ有ト見タラハ此方用ヒヨ切々ト加ヲ得メリ

• 男女共口杯乾燥不止毫嗽ニ方考之潤肺ノ用ル虫ニサワリ不治故ニ此方ニテ虫ヲシツメント思用シハニ貼ニメ毫モ能ク治メリ能心得テ可治ス

• 又或人毫嗽々々人有テ種々療治メモ不治病ヲ喰メ治メリ門人其故如何ト云全ク日ク寒冷ハ補脾之剤ナル故也亦咳久シク不止胃痛ハ肺虚ト可心得口之毫ナシ寸キハ称也勿論肺癰ナル言又ヲ橘湯可也亦咳嗽此方ニ之条下ニ云ヘル九欠感冒ノ条下瘧疾不向先寒シ後熱ヲ先熱ヲ後寒ハ如前雖況ヲ

トスル頭痛身疼ハ如前雖況ヲ

• 葛正感冒ノ条下或瘧之後与不快寒ヘ熱或感冒之後養生ヲ不ヲ時此方能ク気弱噫昏感冒ノ

• 天台湯諸気ノ条下二十余之婦姙娠臨月悪寒發熱如瘧一日二三發ニメ左脈弦数右之脈浮数ヲ与此湯ニ服ニメ愈メリ

• 香蘇散感冒ノ条下瘧寒ヘ多メ熱ヲ或内寒ヘ外熱ヲ骨節疼痛シ臍腹作痛能也是有神効

• 参蘇飲感冒ノ条下瘧發ヲ多ク寒ヘヲメ咳嗽ヲカヌル吉傷寒ヘ瘧ト雖ヲ時ニ此方ヲ用瘧ナレハ汗是ヲ小ク吉大秘也又泄気ニモ練子杯ヲ加用

• 小柴湯感冒ノ条下瘧身体草卧寒熱不止メ人ヲ見コトヲ悪ミ心驚キ恐ル其時ハ熱ニ指汗多ク出ハ是ヲ陽之瘧也此方ヲ用治ス多ク亦一人大陽瘧ニメ令腰痛頭重ク寒ヘ月ヨリ起ル先

寒ノ後發ス此方ニ加芎薤治ヲ愈・治二男一
瘧患ヲ三年倶ニ富ム申己亥之日三發ス八人
公昏已並ビ夕申ニ退ク是陰中之陽症ナリ
正氣ヲ補ヒ表可解加枹宮露光薤文
得大汗愈・又人ハ夜亥並ビ夕寅ニ退ク思
ニ是陰中之陰病ナリ將ニ血ヲ補ヒ肝ヲ疎ス
ヘシ合四物架大汗メ治・亦瘧後如勞瘵ニテ
勞瘵ニ非ス蒸々トメ並ビ發ス小便色種々變ス脉
弦數上氣陰至時ナク起リ氣モウカ〳〵トメ漏
精ヲ〳〵瘵名シタ上ナラハ加鼈莞勇薑妙

二安全ス

• 噌汁漉飲（ニンジンシルコシノム） 二十五歳男間日瘧飢五並ビ々則ハ

寒戰甚熱亦汗如洛脉虛脉數弱
噌（ニンジン）枹（胡）芎（川）藭（穹）薤（藁本）辭（柴胡）莞（酸棗仁）陳（陳皮）皮（茯苓）
師（生）媒（烏梅）漉（竹瀝）姜（生）棗（大）水煮

• 灸処十一十四ヶ可也

• 芎歸湯 治瘧發寒ヨリ發病在半表半裏陰陽不

分 芎（川）歸（當）芍（芍藥）藥（沢瀉）地（地黄）
芎（川）歸（當）汪（大）猪（猪苓）斎（澤）枹（胡）薤（藁本）師（生）姜（生）棗（大）
水煮ヶ無汗加麻寒ヨリ多加芎（川）歸（當）多發

十七 劑

・逆挽湯　治二三日微發大泄浮數十行而后帶血裏急

後重　茯苓　半夏　本曰　薤一　支　霊　強八　多老五　多師　甘　姜一　多　曾六　多

素虚弱者倍之　水二　煎

・裡急後重甚兼胸痛者加芍藥倍強必

芍藥用二　匙

用鍼・若風症多者加薤倍枚・雖有頭

項強痛必多用薑宜虚弱成人者二倍曾加味蜜丸連三　枝六　多

虚弱成人者二倍曾加味蜜丸連三　枝六　多

・五味異功散　治脾胃虚弱燥下血多メ

・加白頭翁井斑・寒濕去ス加蘡

多冬白木　去配劑　芩　芍　桂　陳　甘

曾斑佛袍霊孙　箕霜強行

黎炙　水二　煎

・按此方劑後脾胃虚弱易泄者用宜用

之若食微多則易泄者不可決守二全方一可

用二走強行等温散火一劑久而日月陽虚難

成二全人一

・倉廩散　一作湯　曾敷毒敗加連　陳倉米三百粒一

感　冒　全下冬月之劑無散表甚敗加連　陳倉米三百粒一

・此方入疫劑二用之劑門二有按一文一加下七住也

・按此方劑後脾胃虚弱易泄者用宜用

之若食微多則易泄者不可決守二全方一可

用二走強行等温散火一劑久而日月陽虚難

成二全人一

・倉廩散　一作湯　曾敷毒敗加連　陳倉米三百粒一

感　冒　全下冬月之劑無散表甚敗加連　陳倉米三百粒一

・此方入疫劑二用之劑門二有按一文一加下七住也

・劑疾長幻相侶者名曰疫劑加薤・或姜茶煎

以防之更曾房加気調治

・劑病二散不去内二散行林二下早ク止下散宁下

裏急スル二此方二加三黄或文計ヲ七加用物心別

此方食アセ又毒茶二甲ク乙ヲ解散スル故ノ・惣

別頭痛發不去劑病二月二八歳二男患赤劑

昼夜十余行裏急後重發散頭痛咽乾

脉数而有力此方三下治ス・或人冬月無熱是

肢痛シ病ヲ患ニ鈎藤湯或ハ荊芥ニテ不効風
濕ニ感メ為ニ荊ト思用テ効有右ノ症病症ニ夜
寢ヒエル又ハ夏有ニ老ニ檳榔ヲ直行ストテ能シブリシ
去ノ此ハ手ヲ尽メ之上ノ夏也加様之夏モ自然
有事ノ（二十歳男泄瀉ニ依二十余度肢痛ミ微熱シ頭痛ミ脉数メ有ヲ此方ニテ安全ス）

・胃風湯　虚弱之人頭痛茂熱メ大便カメニウ
ス如豆汁帶血用大抵虚症ニテ分方メニ加
蜜可用腑胃虚泄ニモ吉
（木香）
薛宮的　檳枹霊　（肉桂）　蒲附　水煎

・養中湯　泄瀉不止或劇病衂茂用一切服薬
也　（朮）　（芍）　（陳）　（茯苓）　（桂）　（附）　（乾姜）　（炙甘）
檳枹鍼霊亜蓍仁蜜粉
（肉桂）　（干姜）　（桂）
蒲仁強独師ニ　姜水煎

・大小人ニ可也

・胃苓湯　治腑胃不和暑温停飲泄瀉肢
痛水穀不化陰陽不分不伏水土一切治泄瀉
之總司也
蒼霊檳猪枹文蓄鍼連師ホ
姜棗ニ水煎　去滓劑
・曾胃苓湯　蒼檳霊猪蓄枹霊朴仁
蒲師ホ　姜棗ニ水煎
●泄瀉ヲ人掛ル初ノ三度ヲクヽト下リ後渋ルモノヽ其時ニ応方在日暑濕
●四五月ヨリ八九月迄昌暑濕熱ニ感シタル泄瀉用
ナルヘシ方中ニ桂ヲ去リテ止ルノ
平胃一五苓一合方シタルメ物ソ

・不換金　（感）胃苓下　荊病食積有テ膿血ヲ後重甚
ニ用ルトキハ連老ヲ加ヘ師ホ●又蜜洗加ヘ熱
強ハ連加呉茱ヲ煎其汁ニヒタシ乾シ又連ソ胃ノ
気ヲメ苦寒ニテハヨロスニイタメニ制表ルソ●夏
暑熱ニ中テ発又ハ荊ハ熱有テ咽乾キ衣ソ
差ヲ嫌也此方ニ蜜連猪蓄鍼ソ加用●禁

曰劑二蜜洗連佛碣ヲ加工用度々得効●劑之茶ヲ用不治ス或右疼有カ左ニ疼有カ畢竟左指ヲ以テ支有ル処ニ灸スレハ気ト得心可治右ニ指ヲ以テ支ヘ甚シク久老損ヲ加左ニ灸ス光標又腰痛ハ飛ヲ加ス●悪心血ヲ下シ痛モ強ハ延鶏ヲ加●劑ニ用ルトキハ二ツ宛可シ予常ニ用ユ●劑病色赤白雑下ル二六

●調和飲　治下劑稍久者一

鼈宮（芍）文連（文姫）薜（木防）菲（水豚）寧伍　水煎

●劑病林ニ不調脾胃草ヲ以テ之様成ル物ヲ下ニ此方用テ度々吉又病人産後之劑林ニ吉又白ニ赤ヲ雑ヘ下ニ吉ル処スレヲヘトメ大便通スル中ニ小豆程硬物之ヲ下シ又ニ赤ヲ雑ヘ下ニ吉ル処スレヲヘトメ中ニ小豆程硬物之ヲ下シ鳴ヲヲヲ痛ル如ニメ中ニ小豆程硬物之ヲ下シ約中後用テ吉●扨七八日モ止リ雖ニ用ル●白ノ豆汁ノ如ク時ル処ヲ田風ニ吉ル処中ブツ〳〵ト十九物ニ●イキミ渋リ腸ノ痛有テ元気弱リ

タラハ

●参（ジンギャウ）蚊鍼湯　気血両虚メ五十日モ三十日モ不止時ノ劑久不止ニ用此調気血自愈邪気之強時用ル悪シ

薜（防已）仁霊（茯苓）鍼（芎）枹（朮）粳（麻仁）孔七ノ　趣（芎）曾（陳）蘭（藿香）

師伍ノ　婢（佛）燈（トウシン）州　水煎

●此方三テ八カ不行二四君子ニ鍼（有版）薜洗（陳）藿ヲ加可用也

●六柱飲　刮腸（ケツ）ノ

霊（茯苓）走（附子）曾（木香）蜜仁（行）黎（リロ）ノ伍　姜水煎

●黎ヲ去枹ヲ用テ可也

●證治準繩曰諸病壊症久下膿血或俗名刮腸此則臓府但ニ虚シ脾気欲絶故腸胃下脱若劑薬則誤ヲ矢此方ニ走去益ノ加可ニ

其萬一

・走理中湯（アヅキ）中寒条下加靈亜（花）右之症ハ熱淫ニ邪表ヘ入ヒテ汗ヤヽハ此三昏用若股痛ニ蜜大老（オホキ）ヲ用ユ病急後重ニ蜜ヲ洗ヲ下剤強ニ（シヒ）ス老（オホキ）

一方　治痢疾胶痛及無虫症者一

薑曽　靈　枹　榛　鉄　蓟　蜜　茴　良　喬

水煎

・神术湯　治四時感寒及中濕露頭痛項強寒熱身痛鼻塞声重咳嗽時行瘧泄下痢此方有効

蓟（五両）宮　薑　小本（厚朴）　師ヲ（付）　水煎

洗（媒ホヽ）師ヲ

・一医王　条下痢病草卩後重不去心肺之陽気ヲ升テ賢肝之陰気ヲ下故良

・老治湯　痢疾手足煩熱頭痛是則毒気上衝攻悪心嘔逆一切不思食色如朱白粉

寧（檸）檬（檬）　黄　雞（鷄）　蘆（蘆）　芒（芒）　宮　鉄　小（ヲヽ）

・大棚湯　条下痢後ニ足弱ク細也膝計膿ヨリトクメ痛ニ

・清昌医王　条下男子婦患泄痢不食ス食ノバエヨレハ皆ニ付テ不食諸医療メ死勿全此方ニテ平愈サセラレタリ食皐ニ付ハ暑熱甚シキ故ノ去程ニ泄痢ニ出ヌメ暑熱ヲヲニヌ様ニシメラハヨカラント用ル人作効有リ

・和湯　延壽院配剤

光（青皮）　榛（枳殻）　老（オホキ）　鉄（檳）　莫中（厚朴）　枹（枳）　薛（縮）　薑（生）　師ヲ

・病病何トメモ脾胃不調草卩如ク酒成物ヲ下スニ此方ヲ用度々治・婦産後之痢猶此方吉得奇功・渋無メ膿血ヒニ・色々手ヲ尽メ脉数盛ニ用テ吉・治曰裡急後重メ鉄湯ヲ

用テ不治何ヒ不成ニモ吉・扱又白朮ハ成テ切ヘ
至簡ニ此方ヨリ白十八倍寒ニト云ヒ得也・シャウ
様ナル物ヲ初中後ニヒリテ下メニ用テ吉・浜
無テ膿血ヲヽルニ胃風一ニテ不勃結匀益中散
之配剤ニテ吾瘧剤裏者紫苓一

・鍼湯（シャウ）　治虚弱人初剤宜清ヘ・傳方分量
有異加之處セヨ初ヒ首下レタイト思ヒ入ナリ
是ハ剤之主方也裏急後重メ膿血下ルニ先ツ
用ル方ソ・此方仕立様ハ初間力命ニ行血則便
膿血自除ル須気則後重自愈トヲヨリ心メ
方ノ蜜洗老気ヲ調ル薬ソ文連ハ湿熱ヲ
去ル薬也先剤病ハ湿熱ヲ滞気メ剤ヲナス故ニ
文連剤之病ヲ去薬ソ扱薛鍼血ヲ行ス薬ソ
故便膿止アリ寒ニ薬計ヒハ脾胃ソコヌル故
ニ薛師ヲハヂ和気血也・此方仕立方ニテ首ヒ思特ハ丹傳之方吉ヒテ
熱甚ヒノ又強下ヒタイト思ヒ

ラハ可用虚ナラハ不可用者也・日久メ不止調和
飲・気血両虚メ五十日ヒ三十日ヒ不止面参飯鼈下
吉・虚症ニテ脾胃弱ク メハカヲカヒ三胃風ニ蚤
ヲ加ヘ可用蚤ハ渋ニテ止ラヌル二吉脾胃虚メ泄瀉
ス ル ニ 吉 或 渋 無 メ 膿 血 不 止 ハ 胃 風 ニ 之 症 ニ 下 血
ニモ吉・又参飯鍼一ニテモ不行ハ者ニ加鍼薛洗
蠲可用又渋ニテノ膿血下ス妻甚ニノ種々療治
メモ不治ハ胃風ニ必ス可用又気血虚メ下血ス
ハ胃風ニ加稽（楷）也　鍼文連仁師ヒ洗蚤薛
老ニテ

・眞人養蔵湯　治下剤膿血胶痛及ヒ酒毒便
血

・圍疡嚢胞薛鍼蚤黎行師一多嬰ニ
・畢竟ハ湿ノ熱シメ茎ソ赤白裏急後重脫
肛林ニ有何トメモ不勃胃気（ヂ）蘇シタト思ヒ止

メテ見ヌキト思ヒ此方ヲ用也他流ニ先此ノ方ヲ用イ次ニ鍼ヲ胃ニ（灸）イレ胃ノ気ヲ補ヒ兼気一杯ニテ下ス也・此方ハ過酒之人病ニ用ル二妙ナル鳥之肝ノ如キ物ヲ下メ種々サマ〳〵療メ不愈此方吉又（木香）塞可也・此方ハ治虚寒気虚等之脱畢竟只補虚浮而月虚ハ此方可用

キクノイレル門

香砂養胃湯（脾）

（古今録）喉嚨門ニ
（未）疾門ニ口内ノ項ニ
霍乱門ニ（中暑ノ）霍乱ニ入ル可見

（傷寒）痞門ノ七味清脾ノ下ニ有黄脾病ノ下ニ有

十八餘リ寒ノ薬ヲ計用ニ依テ胃ノ気ノ下ニ勢ノ後重甚シ此方用テ下陥ノ気ヲ升シ又栄衛之渋ヲ順行スレハ後重自ラ愈薬ヲ名誉ノ方ノ

・香砂養胃湯（飲食）　痢後ヤヤト煩他医色々ニ療メ不治ニ六脈ニ安シ心苦ノ症忡モ有ツメノ

・五積散（傷寒）　条下或人冬ノ月無服痛甚シク痢病ヲ患イ鍼ノ或治痢薬ニテ不効扨寒ノ湿ノ感ノリト思テ此方ヲ用テ効ヲ取リ右脛病症ニ合事有是モ久ノ程ノ手足メノ工ノ及也能々按ニ見ハ方中ノ老棒大ニ能渋リヲ去者ノ

・九味清脾湯（瘧疾）　条下或人大病日夜ニ百七十度行ヲ〻ノ間悪寒大ニ呵渇シ頭痛シ脈弦数先ヲ久ヲ用テ不験ル小死ト思ヘ共殊ノ外甚ト思此方ヲ用全愈メリ是瘧痢兼ル病也又是方モ瘧

メテ見ヌキト思ヒ此方ヲ用也他流ニ先此ノ方ヲ用イ次ニ鍼ノ胃尺ノ抹ニ灸ヲ加テ止テモ不止時ハ兼気ノ抹ニテ下ス也●此方ハ過泄之人痢病ニ用ル二妙ナル鳥之肝ノ如キ物ヲ下メ種々サマ〳〵療メ不愈此方吉又加灸可也●此方ハ治虚寒ニ虚等之脱畢竟只補虚浮田月虚ハ此方可用改ハ噌抱之耳温用テ以テ可補養五臓温養ス可艱臓故ニ用薬行蜜酸者ヲ以テ可収斂改塑黎ヲ用是方也但ヲ用渋ル者ヲ以テ可固脱改塑黎ヲ用是方也但可治虚寒ニ可弱之脱肛若大便燥結膿血メ脱肛ニハ之者ハ扇製若其特用此方病益々可甚ク也只泄浮久メ後脱肛ニ虚寒ニ扇ヲ以テ此方用テ可ヘ

・木香化滞丸内傷 此方ハ痢病裏急後重甚メ結ヲ腸胃ノ亜冷メ鍼ノテイカタニ此方ヲ缶重ク

ト思フ時ニノ用テ宜ニ有リ

有是モアル程ノ手尽メノ上ノ妙也能々按ニ見ハ方中ノ老槍大ニ能渋リヲ去者ヲ

・九味清脾湯瘧疾 条下或人大痢病日夜二百七十度行ヒ〻圊悪寒大熱ス咽渇シ頭痛シ脈弦数先ヲ文ヲ用テ不験ル小茹ト思ヘ尤熱ノ外甚ト思此方ヲ用全愈メリ是瘧痢兼ヌル病也又是方モ瘧

中風 麻木 傷寒 理気 感冒 中暑 中湿 飲食 痰飲 マラリア 痢病 頭痛 咳嗽 喘息 労瘵 腫満 鼓脹 積聚 癪気 脚気 口ヤケ 諸出血 自汗 盗汗 眩暈 耳鳴 小児諸病 胃腸 咳嗽 喘息

劇甚ダシ時ノ方也

・柴苓湯瘧疾　条下瘧ニ劇甚ダシ時之方也瘧ニ劇甚作者ハ分利ハ柴苓ノ二症ノ然ル脾之濕袂ヲ清シ去テ吉此方ニテ治ス

・三十歳男子瘧九度ニ三日ニ一度頭痛メ寒ヘ発熱汗湯甚シク脈弦実也此方ニ加雞舌湯条下癲之症

・疑定

・十六七之女劇後ニムサト煩ニ他医色々療メテモ不愈予見之テ何ヒ合点不行暫ク案メテ云ク内心苦シキ哉ト問ニ何ニモ内心苦キト云ヌ症ヤト思ヒ々々タツネタレハ大怔仲之心ニ有此方ノ症ヤト思ヒ脈症モ叶メリ劇後ナレハ血脱ト思此方用タレハ云ヌ処ニメ愈



・建中湯自製　杓泄感風濕者治

・菊霊行　強抱珊寧師　姜水煎

・六君子湯　去需蜀椒

・不換金感冒　条下治不伏水土者之抓身体虚腫或下劇而不能食煩満気上是也

・算止感冒　条下本方加減

・医王　条下泄瀉劇病瘧抔ニモ元気之虚ト見タル人可用諸ニ此心得有●泄瀉劇病日久メ体草ル結タル二洗泰雛麗ヲ加テ可ル故心肺之陽気下陥也

・養中湯劇疫　条下治ニ泄瀉及腹痛或積聚既ニ欲成劇ニ先用テ切々得効

・胃功散　治劇急後重或大便渋者脾気不行改也

抱霊仁曾　霊強簡ハ多師

姜水煎

・四苓散　大抵之泄瀉初發用從症可加減
　靈枹蒼師　水煎
・五苓散　治汗後中暍煩燥小便不利而渴夏月
　飲水或冷酒多飲泄瀉二
　蒼朮枹靈猪仌茵蔯　姜水煎
・胃風湯病　条下風泄成痢スルヲ治
・八柱散　虛瀉久々大便之出ヲ不覺切々瀉スルニ老人
　小兒ニ多々シ又治腸胃虛寒滑泄不禁脈沈
　細是也
　曾枹行強黎走　粟売師　姜斤
・胃風湯病　条下風泄成痢スルヲ治
・八柱散　虛瀉久々大便之出ヲ不覺切々瀉スルニ老人
　小兒ニ多々シ又治腸胃虛寒滑泄不禁脈沈
　細是也
　曾枹行強黎走　粟売師　姜斤
・抱靈鍵湯純　泄瀉主方
　枹仁靈朮鍵朮靈茵
　苡朮桑皮四苔以前去枹加劍標茵強泄瀉朮
　並及一方二劍標茵強走有リ依症可加減
・理中湯純　寒泄者悠々腹痛瀉無休止色青脈
　沉遲是寒也
　曾強仁茵師枹仜靈　算靈良々嫁ケ
　姜東ニ蔆水煎
・寒極手足冷脈細加定去茵良・腹痛加蜜標
　蜜去鴻目・嘔吐悪心加香汪去良茵・泄瀉不止加劍
　標・瀉々不止加行黎走去良茵・虛汗加長去算
　茵・飽悶加縦蜜去鴻目良
　參苓枹散　純加減朮傷　治氣虛泄瀉飲食入胃即瀉
　水谷不化脈微弱是也・吐悪心加汪嫁・元氣虛
　脫昏倦加長寧大計去蜜算・飽悶加縦蜜去行
　黎・水便短渋加芠・瀉甚不止加劍嫁走大計一
・治加減内傷氣虛之泄瀉ヲ治ト雖々此方ニテ雖止
　キ元由之泄瀉門之參多々枹散ニ扁撰芠去リ算

霧黎行加●想別脾浮ヒ脉細五更ニ多ク行
八是胃虚ノ泄スル者也●又胃虚ノ浮スル者食入
胃ハ即浮飲食スル所之物不化脉微弱ナル是ナリ
●久浮不止多ハ消食利水之劑計用ハ損其陰
源元気不能自持スルナリ遂ニ浮不止也其時ハ宜
王ス君二加強走ニテカ又由之参苓抱散ナリ●亜浮ニ言論偏傷
●香砂六君子湯飲(紙)治脾浮症食後到飽浮去即
寛脉細是也●胸痛加蜜去曽姜●渇加雞媒
●小水赤短ク●呃噦悪心加莫媒汪●夏ハ加連
扁●冬ハ加強去姜
●温脾散　治久浮米谷不化水谷入谷即時直下
元虚冷滑脱
長曽抱霊延(炒)黎行墨(黒)呆走喬
(医一本ニ作ル)(炒)(焦陽ニ作ル)(炒)
茵連蜜霧師(炒)榛(炒)
姜水煎

●治水浮劑疾神方
弗(佛)為末細茶(炒)
●前朴散　治心胸絡気或呃吐泄浮胸腹時痛
或ハ先並宜服
(前胡ニ作ル)
滴抱曽霧(陳)良(蓽)莫師(霍ニ作ル)榛(炒)水煎
●十一味木香散　治善小児胸腹浮渇或能救裏虚
又技陰助陽之薬
蜜富(當)曽抱耗(蓉)光滴黎汪喬師
外姜水煎火
●小児高凧白青気血裏ヌ也更加蜜薛●児大
類青色胃與大腸虚冷也加喬榛●児呃
妳者胃中寒ヘ也加藿香霧
●香砂養胃湯　条下久泄無度数不食ノ泄不
止呵乾故参苓抱一七味抱一ヲ用テ不効向
前ナル故ニ脾胃ヲ可和思此方ニ加莫舒ノ浮

止平安ス

• 胃苓湯 痎瘧 桑不治脾胃不和脹泄浮水谷不化陰陽不分• 此方ハ泄浮之方也傷食泄浮ニ猶吉平胃ト内ニ有リ故ニ食ヲ進ム又食停テイレハ猶吉ノ浮強クハ黎ヲ加テモ吉• 此方ハ四五月比ヨリ八九月迄暑之濕熱ニ感シタル泄浮ニ專用方ノ此方平胃ト五苓ト合シタル方ノ平胃ハ食ノ停ヲ消シ五苓ハ暑之濕熱ヲ小便ヨリ洩ス也• 夏傷食脹下リ咽乾ク尿少用• 此方ノ症七味枹散ト此方トノ皆有實症ニテ脹下リ咽乾ク此之方ノ脾胃虛ヌ

龍ヲ加テ可也

・小續命湯中ノ各下ニ入悪心泄瀉參參桂一胃參一朮ヲ用テモ不効特ニ此方用テ平愈ニ又ノ泄瀉ニ用ヒ古書ニモ出タリ

∴香砂養胃湯飲食 条下久ク泄瀉メ不食餘リ度数モナクメ不止アミソサヘ咽乾ク故參參桂一七味皆一用ヒテモ不効同前ナル故ニ脾胃ヲ可知思此方ニ算舒ヲ加ヘ久ヘ久ヘ泄モ止ミ平安ニメノ算舒ハ開胃口去風濕之邪痰ヲ順シ行衛気ヲ散ノ濕気ヲ抹之邪ヲ汗ヨリ取清ニ潔ス営気ヲ算ハ進食補養胃又温脾胃虚寒ニ調理五臓ニ茶也故ニ加剤スル也

・小汪加強湯 治諸吐吐血呑酸悪心

汪イ強 姜ヲ 水煎一昼夜服ス

●虚寒ノ者加走・脾虚者加噌抱・胃中窄カタ者加蔔・小児吐哯加陳算師ノ案剤・渣滓未尽ノ者當洞加・穀不消者加牙孔因吐吐上気脘運者加定圍煎風火故也

・算汪湯 和劑 治胃虚中寒停痰留飲噦逆吐吐

汪イ陳ヲ 算細 水一盃姜七片煎七分 食前服

・走理中湯 噌抱強走炙 姜水煎

亦汪服ヲ加モヨシ度々得効

・六君子湯 条下 圍走用ル光當洞之類軽々シク取必當圍走下元虚弱而胃開不

中風 麻木 傷寒 瘧 痙 瘧 瘧 瘧

不可用●久虚症之呃吐三用去霍加薑

・加味二陳湯 大抵之嘔吐三並用小兒吐ニモ加走
汪霩莫強ホ多師ヌ 姜水煎

●三日吐メ胃弱久成ト覚ル加橘枹吐メ上逆シ動
気上ル加菌桂●

・加味二陳湯純 治食物又菜吐不止或洞瞞ノ
霩汪ス喬中菌花 胡椒小 姜水煎

・二陳湯飲、 条下風寒、遇テ思心嘔吐スル二吉頭風
之症也●胃虚メ弱呃スル者加莫枹蓽可也

●胃中有痰火者此方ニ加文連ニ妙也●酒後酔眠
問症ノ如キ云又吐血ス先此方ヲ用テ後大黄

メ傷風痰火ノ吐逆ニ笛共正感胃

・生津補血湯 胃 条下本血燥之人食傷呃吐吐血ス
ル二加薊捺吉●三十余婦人不食シ呃吐飲水
不入虚痰指引有之會之時血ヲ出ス二ヨリ
三十吐止テ嘔噦養胃ノ一ニテ諸ノ症愈メリ

・木香湯 病気 条下俄ニ吐逆シ某ヲモ不受結ク吐
逆スル二ハ胃乳尾州一味如煎炭某メ用全ニツカワル
ノ是ニテ久分食ヲ入ヘサヌノ

・順氣和中湯 胃 条下呃吐畢竟脾胃ノ乏シ胸中
ニ湿痰生メ気鬱ト成リ食積ト成リ湿熱有ル
故ニヲサメスメ呃吐スルノ此ホノ症ニ此方可シ●食
停積中脘湿痰生シ匆胃イキレテ呃吐杯スル二
此方用ヒ可也又香砂平胃ノ香砂養胃ノ吉

・香砂平胃散 食傷呃吐二佳也

・黄連竹茹湯 虚煩甚メ燥熱之者ニ用ヒ去茹
成大方胃寒ト心得ヨ

・連朴噦 霩閉 師ホ多 效米ヌ
水煎

・一方 食茶呉ニ不納者ニ用ユ

霜訖汪喬箇ノ分ノ莪ノ分胡椒五粒　姜水煎

・一方　治吐吐不止

汪苡強ノ分一貼六七分之重三拂服尊加于乞隹也

・一方　小兒喰物乳ヲ吞汰治ス又

行蓼ノ分　振ヒ或細末メ口ニヌル三隹

・一方　乳ヲ吐スルヲ治

喬佛石榴ノ分　為末用

・前朴散泄瀉吐吐泄瀉腹脹時痛ニ可也

・不換金胃感　吐吐ニ喬蓼ヲ加用

・天香湯語気　条下ニ婦寒ミ契住未飲水咽ニ下ス即吐ス陰門ヨリ從ヒ于ヒニ此方ニテ治吐後養胃ノニテ諸症ヲ治ス諸病共ニ不食シ有疾噦ス腹痛ニ得効ス多吐噦ニ抱旋炒米ヲ加去渠縁荊ノ寒ミ隹ニ入加蓼若食傷ノ上焦ニ為痰水吐噦本方ヲ用ヒ尊頗而效ス

無時渇スル者喜テ嘔ニ小苑一隹也

・定吐紫金梭　治小兒大人一切吐吐

汪噌抱蜜服　算ノ分　水煎

・香蘇散感冒　条下加高ノ分ノテ兩積ヲ治又悪心吞酸胃虚ツカヘエヌル二五

・蜜流氣飲諸気　条下上氣喘息メ胸ツカヘ嘔吐メロヨリ白キ涎ヲ吐スル之ヲ治ス

二十 鬱冒 並 隔噎

喜七情之氣久非氣結咽喉之間胸膈噎飲食
噎結胸膈飲食留膈不下曰膈々噎ハ猶可治
汪下气走散鬱粥此三味名利膈湯百
發百中妙方也然不早治則無救至鬱冒津
液枯竭則盧扁何得治哉

・利膈湯 玄壽自製
汪ニ(梅)勇イ(甘)走イ(甘)師ナ 姜三片水煎

・安胃湯 大便結ス々ニモ
汪算當(ホ)抱強(ホ)多師ナ 姜三片水煎

●食噎大自然通ス

・六君子湯(補益)老人朴弱ス々ニ用灸治之方 七俞
上巨廉下巨廉五俞 朴三千モニ千モスルカ良
ソ元气ツヒメラン人噌米粳等分ニ煎シテクク
吸セヨ又膻中三里灸メ妙ナリ

・六黄湯 道壽製 治五膈痞气結喉逆痰盛
悪心
房炊雷丈抱靈イ連勇芫 雷丸
汪豈根ナ汪生(ホ)師ナ 姜水煎
久用テ治数人也

・生津補血湯 汪服治酗劑 治年ナ胃脫血燥故塞
薛(彼)的茫(芒)髓靈イ連(陳)當(歸也)杞(枸)蓯(砂仁)蓉(沈)羌(活)遼(竹葉)ホ 水煎
●腸ハ陰虛血虛ヨリ生ス火動ス吾年ナ之人腸
前之症大便結シ自胃痛ミツカユル三腸ハ血乾ス故
改ス大便結ス女年之人之方トスレモ女トハ雅(ホ)能
見合テ老人ニ可用此方ハ薛(彼)根血湯ヨリ強ケレ
ニ度ト思時用也芫林有故ソ●女年三十モ有ト
老年ハ云ヒ有●降火ノ之症ニ痰ハ火之茶方ハ大方
有ル故ニ降火ノ之症ニ痰ヲ能クソロクス又降火ノ

胸痛ミ有テ咳嗽甚シク又ハ不食抔スル二降火ノ一用不治此方吉故ハ痰痰ミ順気之薬方中ニ多キ故ノ又降火ノ之症モ大便結スル也此方能也胸膈抔胃口之痰ミ消下シ穀道ヲメクラス薬ナシ也薬味ノ能可見合胸旦有リ痰ミ嗽有ニ降火ノ二デシ此方ニテ結ク能去痰ミトノ・此方之症ニ食傷故ニ不食嘔吐吐血抔スル之有ル此方ニ加蘭榜曲或食傷魚肉ナラハ加香附剣吉又香附平胃ノ又不換金之類吉・或老僧不食湯茶ヲ食メ不ル病ニ先香蔥ノ類順気和中用ヒ大歇急痰未生最トモ辟養血ノ之症ナル先痰甚シキ故ハ此方用テ全ク急此心ニテ可合点者也・想別腸ハ大便燥結スル物ノ故ニ胃脱之血燥ノ故ニ真陰虚シ潤ヒナキニ依テ也・此方雖年ヲ入血燥故之腸用決定スヘカラス能ク知腑症此方之脈ヲ知テ又病証ニモ見レメラハ雖経十方歳ヲ入ト可用況ヤ百歳之前後ヲヤ

・辟穀血湯・ 年老之人陰血枯槁シ痰火気結并而不干飲食不干者乃成膈噎之病也

辟穀（生地）鍵髄（茯苓）霊仙（西羌活）貝母（二製）枳殻（麩炒）洞鬱（香附）蔓宮（竹茹）孫七（酒洗）多（酒洗）蘇五（酒洗）多（酒洗）連多（酒洗）姜東ノ歴（竹茹）水煎

・血虚ヨリメ痰火上リ飲食不下成膈之症ノ治是モ膈之痛血乾キヲ立キ抔三吉・気ヲクツロケ痰ノ消スル薬味ノ能見テ可合点痰ミ薬ヲメ多ノ加蕾房支有・老人能食シ痩度屑アワキ大便結スル二吉・老人常ニ痰ミ大便燥キ三百モ不行ト云人ニ吉猶加減メモ吉百ニ六年老之人陰血枯槁スル二用トスレ共不可拘老ヤ陰血乾枯スル人ナラハ可用故ハ方中ニ四物湯滋養スル真陰ニ霊ヒ下痰火ヲ去痰ミ洞霤胃

之上下口ノ痰ヲ消散シ進食標ハ痢ニ従上ノ
気ニ薑二切胃中ニ有ノ程ノ物降スノ好ハ補脾
並痰ヲ消ス連ハ病因ノ火ヲ押ヘ鬱ヲ引諸薬ヲ
上ハ至頂下ハ足心ニ至ノ薬ソノ・非臓能食ヘ痩皮
膚燥キ大便結スノ二吉猶随加減セヨ

・順気和中湯・　治嘔吐翻胃噎雑吞酸痞悶

噫気噎膈心腹刺痛悪心吐痰水
藿香（陳）　蓬朮（醋製）　厚朴（姜炙）　半夏（湯洗七次）　茯苓（乾）　白豆蔻（去殻）
陳皮五分　枳実（麸炒）　砂仁　縮砂仁　木香　檳榔　甘草（炙）　生姜三片　大棗一枚

・酒毒故之黄用之除胃中湿熱ヲ消シ胃痛ヲ嘔胸イキレテ上気シ食積杯
ノ類ニ吉・或人常ニ過酒咳嗽半歳不止後水
ヲ吐共ニ不通酒毒ト思此方得治ス六君ニ加減
シテ方ノ・或人常ニ過酒八月比ヨリ咳逆シテ明
ル三四月之内迄下止胸痛シ痰ヲ吐不食ノ人ト
ナメ寒ク切ク引ツリ色々療治ヲ不治後ニ水
ヲ吐共ニ不通予見之酒毒ト思此方ヲ用テ二服ニメ
太験有ヒメ物用ヒレハ其後ニ草即ク之ニ因テ洞ヲ
去リ噌ヲ加全ク愈タリ即チ六君子ニ加減シタル
方也・免角胸痛ト云物ノ八此方ニ吾砂縮胃ノ
二似タリ・吐血之後ニ痰必ス胸ヘツキ上ルモノ陳ス
ート有シ毛降火ノ二テ難治八此方ニ吾ソ・畢竟脾
胃ヲセシテ胸中ニ湿痰生メ気鬱痰ノ鬱ト成
リ食積ト成湿痰有ル故ニ不納メ吐吐スルソ此
等之症ニ吾・此方露霜亜洞ハ順行痰水又薑
ニ吾酸嘔吐気鬱上気噎心気ノ要薬也又胃
中ヲ平和シ湿痰ヲ降スノ薬ソ奥ノ三焦之湿
痰ヲ醒スル八進食醒脾胃之痰右此薬ヲ合
メ用ユレハ前ニ云ゴトキノ症ヲ治スル也・膈噎脾
胃不和メ気痰逆上シ嘔噎胸中ニ痞悶スル

ヲ治ス

・嘉禾散（嘉ニ作ル）治脾胃不和膈噎痞悶気逆ノ生ニ
痰飲食不進（光ニ作ル）党蔘 仲（杜仲ニ作ル）薤 汪（東垣ニ作ル）麹曲 益（陳皮ニ作ル）藥
（泥香ニ作ル）
（桑木ニ作ル）
（白朮ニ作ル）
噌（サケ）霊（ノ）芡（ノ）蜜 多（ノ）枇（ノ）杷（ノ）葉 香（木香ニ作ル）附 枹（白朮ニ作ル）香（ノ）末 各（ノ）
莖（立ツ）洗（ノ）炒（ノ）薏（高）苡（ノ）子 各（ノ）等（ノ）蜜（ノ）丸（ノ）半（ノ）師（ノ）艾
姜（ノ）束（ノ）水（ノ）煎（ノ）

・脾胃調支第一也脾胃不和胸ヲ入不食呑
吐食メ胃ニ滞ル等之症ニ用・半井家ニ膈
二事ヲ用ノ枇富杯ヲ去リ用ノ此快気ノ順気ト
銘ヲ打ノ用ヒヤリ六分ノ参ヲ五分寛中ノ用・此ヤウ
反胃又病後何モ脾胃弱キニ用也・此方分ノ参ヲ
枹散之如ク脾胃之虚冷シメニ用也又腎ニ虚
冷トニリイヤト丹後中古衆云シメシ生至ツテ分虚
冷スル変有ノ理ハ聞ケシ事ハ今世ニ見ニ百ル変ノ証
浮腸病赤白ヲ寒ニ変ニ分ケヲ
ケシ先後ニ胃ヲ温補セヲハナラメ変有ルノ

中凡 麻木 傷寒 理傷琴 感冒 頭痛 中寒 中暑 中濕 マラリア 痢疾 嘔吐 反胃 及胃腸 咳嗽喘息 勞咳 歇食 黄疸 咳嗽喘息 咳嗽喘息 胃腸 咳嗽喘息 咳嗽喘息 咳嗽喘息

## 三　諸氣

・三和散　吉日　三焦ノ氣滞ノ大便渋秘シ或頭痛胷痛
一身痺痛等之実ト見付ケラハ用ヨ乍去今世ニ
至ノ老医ハ用ル子動ハ用ノ今代混乱ノ時ニ
此方ヲ用ル症ハ曽テ无ノ能々見分テ用ヨ
洗師　蜜　露宮　抱冨　勞　鼓瓜　髭
不分　水煎

・三和散・活眼散剤　治七情之氣結五臓脾胃不和心
腹脹急大小便秘シ或腹食俱廢不渇者乃シ
氣秘耳赤可施之芒硝ニ秘ル再加蘿蔔子皂
角子・氣滞腰痛倍飢・浮腫ニ加車前子・
小便閉加閻蒿・門門又治背脊痛妨食及脚氣
攻胃腹満内大便不通
宮仁　勞　鼓瓜　冨　露　洗　蜜　抱

・滞氣ニテモ腹筋ヒツハリヲル二用ノ・順氣之方ノ氣
不順ニテ腰脚痛ニ或ハ腹之筋挛痛ス吉・門
ニ内秘氣秘虚ヲ治スル故ニ号ニ和ニ然共氣秘之方
ノ・此方順氣之方ノ氣不順ニ又腰脚痛或ハ腹筋
挛痛スル吉宮朾有故ニ腎ノ病ノ・或人頸ヒ
キツリ強リ両ノ肩脚ヘモヒキツリ疼痛胜事ニテ
不食脉弦也ナレモ動ハ痛ル処エヨメエテ不能起
此方ニテ大験有即チ方内ニ属勝湿ヲ故ノ・
有一老人胃腹腰背痛ム色々療治メ不愈気
尋ト思ヒ无此方用テ吉壁言ハ筋引挛ス戻用ル
也・三十四五歳之婦人色青々トメ尾痛ニ大便
結シ脉三動メニ切或四動五動十動メニ切氣尋
上達スト思ヒ此方ニテ大ニ効シ有

・七氣湯　本製　老婦抔ノ愁達テ不食シ心痛ニテ
動氣之有ニ用此方ハ心痛之方ト心得ヨ

夏參 桂 甘
汪曰 菌ホ 多 師 艾 水煎

・天香湯 合鼻ヘ通リ入ル 感胃 婦人氣鬱血塊動メ月経不調不食眩暈吐吐或狂火等之症又寒熱往来心胸工指上ル二鼻ニ至ル方ヲ出ス此ヲ字可ス

・蘇子降氣湯 痰飲 氣上リテ不下用元来元氣之弱者多メ氣ノ便ヲ上リメ仆降痰喘咳嗽ニモ・杜 陳 朴 製厚樸 蘇 敗 醋 杏 去 皮 薛師ヲ

・忿氣飲・治男子婦人諸氣不和多メ八因憂愁思慮忿怒傷神或八臨食憂戚シ或事不遂意便抑多也

贅之氣留滯メ不散停於胃脘之間不能流暢致心胸痞悶脇肋脹脹噎塞不通呑酸噫氣吐哉厥悪心頭目昏眩四肢倦怠面色痿黄口苦古乾飲食減ス メ日ニ漸ク羸痩シ或八大腸虚閉シ或八因病之後胸中痞不思飲食並ニ省浴ヘシ

夏陳 香 艾 光 富 製 麹 苗 製 蘇 葉 甘 陳 皮 菊 薑 汁 炙 甘

・師艾 艾葉ヲ用ユ
・氣之煩ニ第一吉・降散劑滞之劑也・逆上シ上氣シ下焦冷ル二可也・此方ノ脈八右之関上実スル方ニ付ソ・或人年三十色白メ大也依思過ス ヲ病漸為大病ス シ成共肢支ス ル方又氣ヲ便八心下ニ結ル膏物功ヲ痛又氣扶ニ遊則ニ氣快メ彼功ヲ者ナシ小便赤ク渋リ痰出色々治スル二不ヲ此方ヲ用ユ

十四郎ニメ ス シ効シ有ニ依テ進ル方ヲ支六十貼ニメ全安ス・十四関脈沉実或八弦数成ル此方ノ是ヲ知ニ有ニ之故也・五積之症之如ク腰モ冷ヘ而々トメ悪寒ス ル五積用不治功々此方ニテ効得メリ・畢竟氣鬱ト ス ル八種々変ゼウトモ此方用ユ・氣ヲ胸ニ因テ ニ病ニ吉・此内ニ支膚郁有ル二用テ功々得効ヲ故ニ氣ヲメクラメ痛風之様ナル二用テ功々得効ヲ哀・或人労瘵之如ク盗汗頭痛五心ニ熱有テ

夜不寐労々トメ心ヨカラス不食咳嗽洒々トメ寒
ノ暮毎ニ虚煩サレ脈況弦数他医降ヤノ用ヒ
不効何モ寄合テ談合ヲ幸ヒ皆何モ色々療治
ナサレテモ同前ナラハ幸存ル旨有気鬱ノ目付テ
此方用ント存ル気ト云何モ吉ト申然ニ依テ此方用
タリ思ニ気鬱メ表ノ衛護セメヨッテ也今此方
表気ノ順行スルニ依テ自汗盗汗此ノ舒々入
ル盗汗モ能ヌリ・穏ナル降気ノ上気メイ下冷スル
ニ用ト力ノ気病トス見タラハ男婦不分此吉・
此方風ニモ中ズ寒ニモ不傷又血気錯乱スル如ナニ
吉・壮男体煩シ口乾キ匂ヒ不食脈五動右之寸
関有力此方用ヒ安全ス右此症ニ此ノ用ル旨ハ脈ノ
弁ゼスメハナルニイノ故ハ数ノ有ニ閏有ロ之乾ニ注
有此常ノ病ニ数有テ口乾セハ下手ハ使ハレニイソ
・正気天香湯・治婦人一切之諸気鬱滞痛刺痛ニ月水自
或ハ攻筑ノ照胸脇中結塊或ハ腹痛往来寒熱胎前産後一切
気不調或ハ胞衣不下悪阻吐住逆寒熱

紫蘇葉 香附子 陳皮 各等分 生姜水煎

・此方ハ婦人気鬱メ産スル諸病ニ能也産之前後
不分用テ吉・悪阻ニ第一吉悪阻トハ食ヲ好ヲトセ・洒々トメ
也・悪阻ニ第一吉悪阻ト云ハ食ヲ好ヲトセ・洒々トメ
寒ク産スルニモ吉方中ニ舒百ノ故也・産後胃
ヲ人悪寒発スルニモ吉・血虚之悪阻ニハ霊補心一
産之前後ニ用ル吉ノ心胸ニ積塊有テ茶気
旬ニヲカヌ特此方ヲ用テ吉・俗医産之前後ニ
四物一之類計用ル旨ヲ知リ正気抔之気茶ヲ用
旨不知胞衣有ヲ猶以血虚ヤヲトテ血ヲ養ス
茶計ヲ用テ気ヲ順スル旨ヲ不知イセニ補血之剤ヲ
用テモ気鬱メ吉道理ハナキノ又血ヲ益スル茶ヲ用

タトテ俄ニ血多ク成ル又不可盲可尸ス・婦人一切之気病ヲ治ス産後不分用ノ・腹毛用気塊ツリ二吾方ソ・此方香ソ之変方也故ニ洒淅寒ミ熱ス有ニ用・是モ分心気ノ之症ノ如ク成ニ用也・陰ノ之症ニテ陰火ノ用テ不治ニ此方カ香ソカ吉也・胸痛ニテモ免角気窮第一ト見タラハ此方ヨシ男婦ニ不分用ル秘傳ニ婦人ノ子ニ不可拘・婦人之病綿延トメ先ニ不行ニ此方用テ切々盲効也・胸サワキレ脹暈シ鬱定ノ之症之如ナル用テ度々得効也・婦人頭サワ〳〵ト人血道気ト云用テ切々得効也・此方ニ閑ヲ加テ五積ノ用ル症ニ似タル用ノ五積ノ用心ノ

洗盆 多多 姜水煮

●七情之气滞结ㇾ生疾气不快之气病用梅核二七●此方之症用之物有テビロ〳〵トメ吐ケ不ㇾ呑ケ不ㇾ下用之皆是七情之气滞同心痞ス也此等之症ハ男ニ希也婦人ハ多ケレ

三味●蜜流氣飲 二十四洲氣飲 調順栄衛流通血脉快利ニ焦ㇾ

安和五藏治ㇾ諸气病滞不通胸膈膨悶口苦ク喉乾吐吐食ナク肩背股腸走注則痛喘急疾歌面目虚浮四肢腫脹大便閉結小便赤ク渋ㇾ又治憂思大過ㇾ症忡劇積ㇾ脚気風湿結聚ㇾ腫痛脹滿喘急水腫等病並ニ皆治ㇾ之

露蜂房 光薑 舒ケ多ケ抱 风疹 圓 鬼ケ多ケ蘿蔔老 紅景 曾紅 菊 萸富 洗蚕 駈 腰ケ多ケ 支 紅 注 師 標ケ多ケ 姜煮ニ

●肩背脇胸注痛ニ吾左リ痛テ右ヘ痛ニ移ト云ニ吾又腎気ヘ痛ニ皆左ニ吾皆気痛也

二三　水腫並脹滿鼓脹

・抱(ホウ)朮(ジュツ)湯　治五種水腫

抱(ホウ)朮(ジュツ)二牧半　附子一枚炮(ホウ)去皮　甘草(カンゾウ)一兩炙　姜(キョウ)一兩　大棗(タイソウ)六枚

・右五味以水三升煮取一升去滓分三温三服覚身痺半日許再服三服都盡小便多其人如狀　胃(イ)氣(キ)勿令即是抱(ホウ)朮(ジュツ)走並走皮中逐水氣未得除水氣故耳按加減最宜按能去水

・五苓散(ゴレイサン)　假令瘦人臍下有悸吐涎沫而癲眩　此水也主　渝(ユ)狀　猪苓(チョレイ)十八銖　茯苓(ブクリョウ)　朮(ジュツ)　桂(ケイ)枝(シ)各十八銖　澤瀉(タクシャ)一兩六銖

・五苓散(ゴレイサン)　方寸匕　右五味為末白飲服方寸匕三服多飲煖水汗出愈　如法將息

八不用

抱(ホウ)木(ボク)瓜(カ)走(ソウ)　菌(キン)桂(ケイ)　中(チュウ)師(シ)　薑(キョウ)三斤　水(スイ)煞(セツ)

・道意加減平方之五苓散(ゴレイサン)　治卒(ソツ)急(キュウ)暴(ボウ)病(ビョウ)　小便(ショウベン)不(フ)利(リ)　或(アルイハ)大便(ダイベン)不(フ)通(ツウ)　或(アルイハ)嘔(オウ)吐(ト)　或(アルイハ)渇(カツ)欲(ホッス)飲(インヲ)水(スイ)　或(アルイハ)水(スイ)入(ニレバ)口(コウ)即(スナワチ)吐(トス)　或(アルイハ)頭(ズ)痛(ツウ)　或(アルイハ)発(ホッ)熱(ネツ)　或(アルイハ)身(シン)痛(ツウ)　或(アルイハ)腹(フク)痛(ツウ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)急(キュウ)痛(ツウ)　或(アルイハ)泄(セツ)瀉(シャ)　或(アルイハ)痢(リ)疾(シツ)　或(アルイハ)霍(カク)乱(ラン)　或(アルイハ)煩(ハン)満(マン)　或(アルイハ)水(スイ)腫(シュ)　或(アルイハ)痰(タン)飲(イン)　或(アルイハ)消(ショウ)渇(カツ)　或(アルイハ)黄(オウ)疸(タン)　或(アルイハ)小(ショウ)便(ベン)不(フ)利(リ)　或(アルイハ)淋(リン)病(ビョウ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)満(マン)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)痛(ツウ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)堅(ケン)硬(コウ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)重(ジュウ)墜(ツイ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)塊(カイ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)形(ケイ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)気(キ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)水(スイ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)血(ケツ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)熱(ネツ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)寒(カン)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)虫(チュウ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)石(セキ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)砂(サ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)毒(ドク)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)病(ビョウ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)痛(ツウ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)脹(チョウ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)滿(マン)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)堅(ケン)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル)硬(コウ)　或(アルイハ)小(ショウ)腹(フク)有(アル

・五淋散 痲疹症 治大小人種気

・如神燈一名師一名木香散

・薫劇張茶

六月末耳皮ヲ粉又蚯ヲ去土気鍋黒ヲ茶令二合ソクイ
二テ煉膠内ニ入上ヨリトテ灸ヲメ火焚入内ヲ
度トス

・保元湯 主 水腫脾胃弱ニ

袍霊大強走 閑 噌中 水蠱

・山牛房之根 閑又如五冬ノ条下之

・補中治湿湯 避 脾胃草叩テ胃之気不升中焦ニ
積気滞脹痛ス之用・治腫脹之大方ハ宜補中
行湿利小便・又曽為君剤霊ヲ為臣文蛤
多佐便以制肝木一標ヲ加テ消脹気不運蚕
支加テ順気下陥ス之ハ寧茯ヲ加テ提ク血虚ニ
ハ補血之薬加ヘ於盛ヒヲハ利窓、薬加減之証加
減メ用ク血不宜勿者也・是亦脾胃虚メ湿
感メ腫脹肺脹ヲ生ス之ニ云ヒ・立産後之腫気ニ用
サノミ不虚モ腫気之類ニ云ヒ・一男過酒之人初
春業肢堅満項ロ面肢浮腫ス大便泥シ小便
短ク脈沉細此方ニ麻猪加平安ス・二十余歳女子
六月之時分胎三月メ小産メ後肺気脹満是用
テ効ヲ得ク・又或婦立産後六月ニ血是下朝々
痰カ咽エリテ死ス之血是下ス之跡改ニ此方用テ
治ス之・或人旬余咳嗽黄痰ヘ吐ニ羸痩メ不知ニ
食味四肢浮腫ス之ニ此方五貼用テ大験有リ

・参苓袍散 痘内症 条下脾虚メ水腫抔ス之ニ此之方用補
中治湿ト兼用テ切々得効也・脾胃虚メ水
腫抔ニ此方粉ニメ用レハ小便ヨリ過メ腫退ク補
中治湿ト倶ニ兼用テ切々水腫ヲ治ス之脾胃
虚メ泻ス之ニ

・七味清脾湯瘧疾　虫故尿閉事有又脹滿モ虫故之ヲ
有此方ヲ・平余男水腫地図五倍拿在且ノ諸
医救メ穴射語某不受付時此方ニ猪苓支ヲ
加テ神効有
・胃苓湯痢疾　余下夏之水腫ニ感温ノ三此方ニ芸菌
鍛加冨曲朮且甚至氏洗鍼治ス・予治入八歳
之男子百日計水腫ス諸医不効求治脉沉細
小便サシ大便或溏シ或ハ泄シ身重ノ如氷
中坐食無味用導正大半愈後此方ニメ先
飯旧哉其後治数十人ニ先不験・何病ニモ
腫气脹滿ニ小便渋ハ導正ニ猪苓ヲ加ヨ妙ニ
・鼻正鼽感　余下又气痿ノ胃ノメ胃肢塞リ脹暈ニモ吉
・此ヲト七味清脾ニヲ合メ腫气虫積气有ニ能也
産後风症ヤリ久腫气ニモ感温气ニ久ル
水穀ニ不欲用ヨ効ヨ食シ不可勝計・三十余之
婦人産後一腸微猶入不食シ四肢浮腫此方用
テ治ス
・分心氣飲諸气　余下怒气々脳ニ依之腫气脹滿
ニ用テ細々得効・水腫脹滿抔ニモ气肚ニテ能
茂又ハ用ヨメ此方之脉ハ右之関上実又物
也
・分气補心湯諸气　余下腫气腫滿ノ主方也実鑑ニ气
痿腫脹ニト百シ先其ヲニカキラス諸薬用メ
跡ナシ此方用テ十ニ人如此面治タリ・温气之
腫气ニ補中治湿ノ佳然共腫气ニ治温ノ用テ
不効メ却テ此方ニ事一切々有リ此方ニテ吉ヨ又ハ
温ハ滞气ニラスル物ソ今温ヲ以テ煩ハ气滞ヨ
名リ・足モ腫气ニ用事有・三十余ノ男子气
積塊ニ身浮腫股堅咳疾ヤニテ脉細濇也
此方ニ加貫ハ八十服ニメ安全ス・一婦ニ十歳气痿

メ面浮腫シ大便泻シ脯時ニ煩燥ス此方ニ加
用ヒ五十余貼ヲ平安ス・一男久患咳嗽二項ヨ
感冒メ面目浮腫シ四肢腫ル泻スル事日久
ク尿ヌ此方用ヒ三十貼ニメ安・一男遅瘧ノ
煩服輕粉メ後便泻数十日不止然後一身腫
滿シ二便渋滞ス補中治湿ト用同前按テ此方
ヲ与ヘ八連ニ得効孫養生ニ此方ニ嚢抱ノ如ヘ
用ヒ又三十余貼ニメ安

・三和散 詩ニ乱 気不順又腰脇痛ミ用テ吉或ハ脇ヨリ痛
ニモ用ニ畢竟ツリ痛ヲ治ス用テ吉ノ宮大ニ入故
ニ其尊ノ拂也・按腫ニ気脹滿メ気上テ喘急
又ニ秋泻ヲ加テ気下メ吉肺ヘ水気入故也・熬
メ小便利ハ湿熱ヌ小便不利ハ燥熬也

・蜜流氣飲 諸気条下脹ニ積塊有ル者之水腫・惣
別ニ気塞リテ滞リ匂ヒ腹不食シ或喘吹メ手足面浮腫シ渕ヲ水腫
ト成カリニ便モ泻ルニ用テ吉・此方ハ水腫脹
滿ノニ便不通討ニモ用或ハ熬少テ用乾ニモ用・
脚気或物思メ胸ツカヘ忡シ脹腹イキヌハシク
スメリニ・西ニ水腫脹滿ニ吾ト有去泻算加虎芒ニ
也耳龍耳ナト二此方其捉ニ吉二便渋ハ面之吉又其捉

用テ吉ソ

・廣茂潰堅湯・治中滿脹有積聚如石ノ
硬令人坐卧不安二便渋滞上気喘足或通
身虛腫

汪ニ 連 文 老 檳 益 草蔻五分 露光 汪
汪ニ 曲 蒿 茆 宇 離 呉茱 師ニ

姜水煎

・此方ハ東垣之脾胃之方ソ・忌酢酒湿熱・
此方ハ内ニ積塊有テ腫脹ヲ生シ大小便渋ルヲ

治真円三丁ニ此方ハ挾熱腹ニ吾冷脹ハ七気湯ヲ

乾ハ加雞

・実脾飲 嘔吐 条下虫腫ヲ治ス

・温脾飲 脹ヲ治ス

抱木 強ク走 蜜 菌 噌 疝 霊ハ師ヲ

・去師粉 名如豆大三丸五十丸送下若脾気

赤虚甚一大便不調者加蒼朮

・六君子 益補 条下加縮走不治症ニ用

・大建中湯 治心気耗而腹大

抱ニ 鮫 長木 師ノ 姜 薤 噌ノ走

汪ニノ 柬ニ枚 加茯霊

・蠃禾散 胃 条下水腫或ハ腹泄下スルニ用シカレトモ

ヤヽ余リ沢山ニ難用方ノ・水腫脹満面赤ク下ヘ

サカリテアルニ此方主ヲ之



・大七気湯 又号琴指迷七気湯 積塊偏寒治積

六聚状如漉瘕随気上下発作ス有時心

腹痰痛上気塞塞小腹脹満大小便不

利

茯苓 光 霜 箕 将 菌 益 薑 紅 師

艾 姜水煮

・或強積ニ老鮫加・或勿引痛ニ速老鮫

茴 鼈加・気虚抱霊如・血虚ニハ薤宮如・

此方ハ積聚之方也・積聚有テ腹痛シ大

小便不通腹脹リ不食スルニ用・雖積聚

之方挾積ニハ心シ挾積ニハ柴平湯用ノ免

角此方ハ元挾ノ者之積聚ニモ・腹ニ積有ル

故ニ喘急ス又有ニ此方吉也・廣茂潰収ニ

ハ腹ニ積塊有テ挾脹スルヲ治・元挾ノ塊有

内積

六箇ヲ加ヘ三杯五ク其六箇ヲ入テ良熟血ヲ破ラ
也・匆月ツヘ虫ヲカノメ瘦不食杯メ色悪キ杯
三吾又洗ヲカテモ猶吾ノ・一方ニ加鬼汚一治諸之
痞積面黄ニ瘦衰エ四肢ヤヤヲ頽ハ皆内ニ
虫積有ル故也・好生米壁土茶炭醎辣等
物ヲ妙方ノ・

・紫平湯　屬蜀漆者ニ
芫文汪嚕雷師　搽蒴ホ薑ニ
水煎火

・七氣湯主酗劑　五積共痛是用
汪嚕強抱蜜枝ホ師大走　姜水煎
加減匡王丸　五積之六聚六癥瘕堰元気虚弱
肌体瘦怯飲食不進四支沉困
長ス嚕師中雷　抱薜芫寧蓼茂
光薑僅蓂益　水煎火

・三稜湯　治小児積気肚痛
孙師益蓼茂光ホ　水煎

・一方純　主治大小人積聚痛及五痔
喬老洗光雷蜜仁　茂蓼蜜仁
薑二両曲仁　水煎

・一方純　治虫積匆月虫及瘧疾
茄艸　秋株収二夜浸来海水香色妙
五ホ

・一方純　軽キ虫積酒後二匆月苦シキ二妙ヲ
椒妙洗妙茂ニホ蜜細喬ホ師大　水煎

・香蘇散感冒条下酒積悪心呑酸匆胃ノ大ク
虚也

・七味清脾湯瘧疾　積有テ肢張ニ痒病下ニ
紅圓子清服　小児之肢ニ堰有ル虫也專堰ヲク
ク久ノ光茂蓼抹有故ノ堰ヲ産後瘀肢痛ニ用テ吾瘀血ヲ
下ス神術ニ治効

露光茂徃 胡椒八枚 強仆 右茶又ハ
水煎

・人參散 血堀胶痛二吉酒二升酔程其人之
分量次第一日二三度用
參朮 芎藭 甘草 陳皮 當歸 芍藥 桂心 薑 露徃 師艾 枳殻
各半兩 右細末ス為散

・理中湯 正吐 条下物モ無ニ中脘胸塞ル様ニ
覚工滿ル者ヲ必ス吐スヘシ茶ハ悪ノ本ナレハ加
汪佳也・又六君子加強用モ佳・一女子痞シ
悸惕シ胠暈甚ス不知久小便赤ク渋リ
・此方用ル十貼ス安・男子腎虚上焚シ
下冷常頭痛悪心吐吐心下痞滿ス汪抱
定湯八貼ヲ安・按ス痛ムヲ云痞
・五苓白湯煮製 婦人諸症痞滿血道ト云ニ
悸惕シ胠暈甚ス不知久小便赤ク渋リ
用ル妙也或ハ皮物ヲ頭ニ痛或ハ屋症ノ如ニ大腹脹
有ル人ニハ七ノ喰ニ灸ス後用テ可也

噌抱ス霊ス蜜等分ニ膏ニ薫陸
中師ナ 振ル ヒ市ハ水煎

・一方 多月虫之茶

梅皮両 辛夷一両 胡椒一両 右茶ハ為散ス
喬両 湯雄雌各百一両

・肥氣右 此五方玄厥劑 治肝積一肝積左ノ脇ニ有
ル頭足有様ナル物カ手ニサワルヘシ起時ハ寒ヘ
カヘス有ル

椿皮 連仁 芫仁 胡椒各一両 右ハ為細末ス
強仁 皂角子煨 霊粉半兩 茶粉半兩 灸仁 鳥各一
仁半 昆布粉

・右除霊皂角鳥霜別ニ末シ外ノ極テ為細末シ
勺ヘ煉蜜ニテ丸シ如梧桐子之大一杓服ニ丸一
日ニ丸漸々ニ加テ至大便微溏再從ニ丸加服

メ周而復始メ積テ減ズ大半勿服

・伏梁ハ　心之積ヲ治ス心積ハ臍之上三百テ臂之大サ程ナルヲ必起ル時煩心スルモノヲ

連翹　檳榔　噌仁各文仁　枝仁　鴈炮ス乞　強茴　陳皮　昆布　甘草　各等分

右除咳霜外之薬ヲ細末メ煉蜜ニテ梧子之大サニ丸メ右之如法メ取下テカラ積ヲ見シハ半分スキ減シタラハ不可服未減ハ再服スヘシ渋通湯ニテ送下ス

・痞気ハ　脾ノ積ヲ治ス脾積ハ中脘ニ在テヘツメリトヒラタキノ黄ハ痘ノ如ク色黄ハミテ痩スルヲ

檳榔　連翹　文仁　呉仁各文仁　霊蓊　噌仁各文仁　鴈炮ス乞　辣效ニ各文仁　茵蔯酒炒　強炮ス乞　砂仁各文仁　炮ニ乞咳霜　茵

・右厚朴如前渋キ姜湯ニテ送下　師湯ニテ送下

・息賁ハ　肺積ヲ治ス肺積ハ右ノ脇下ニヨカツキヲクツブセタルヲ如ニメ有ノ心寒ク欬喘咳アルノ

檳仁各文仁　連翹各文仁　強炮霊脾效　紫苑　茵

鴈炮　檳多各文仁　霜桑葉　琴茵　仁各文仁　噌仁　光紅咳霜

・奔豚ハ　腎之積ヲ治ス腎積ハ臍下三百テ心ヨリ三ツヲキ上ルノ起シ心下ヘヨレコムノ喘逆メ脊痞ヌ気也

檳仁各文仁　連翹各文仁　霊蓊　菖蒲酒煮各文仁　延胡索各文仁　走僂

・右ハ猪用ヲ如前渋姜湯ニテ送下

不茵仁咳霜

・右如前法渋塩湯ニテ送下ス

・治大気湯　積聚随気上升心胸痛小腹脹滿ホノ症ヲマク

益霜葉　芹葉　堂各半　檳茵等分　師光各三

## 八三五 補益並諸虛

・署子湯　治氣虛一此方ハ氣虛休倦シ不食等之症ニ便フノ又胃中虛痞ト云テ物モソヌル風ニ紙ヲ浮ル如ク虛空ニフル食味ヒ死ヰニ吉

・氣虛之疼症ニ此方ニ加房艾蓼用ニ效・女勞病十余日他医茶ヲ用不有効指ニ他医依用ニ寒ニ寒ニ退ノ又ト思ヒ此方ニ加ヘ大ニ合メ用故ヘ奘悉ク退ク・此方ニ霊脂注加ヘ六君子湯ト名ク脾胃虛弱飲食セシノ思ヒニ或ハ久瘧々劑ヲ用ヒ或ハ難ニ飲食化シ作酸ノ患若久内攻火ヲ不覺或ハ難ニ飲食化シ作酸ノ虛火扁ル之治又ル霊用テ効シ速也・正傳ニ如シ自汗或ハ小水利ル者ハ霊ヲ去長ル加方考ニ法命首

・六君子湯　治脾胃虛ニ又脾胃虛弱ニ

・八珍ノ湯　治氣血両虛一血補之功多ル四君四物合物ノ薛宮的髓噌泡霊狩師

・十全大補湯　治有氣血両虛自汗盜汗ニ産後金瘡血脫之者佳也

薛宮的髓噌泡霊師長狩蒭

艾訂　水製

・六味丸　若輩ナル時腎水ノ損シ萎弱燥症ニ用常服メ腎益之无利髓ハ両致茱四両渝霊枸三両

・參ノ附湯　俄ニ虛メ欲絶ニ又久用ユブラツキ久ニ八元効

・茂附湯　治表虛発散後汗多ノ止

・班龍丸　老人之燥甚メ大便燥実シ難通小便頻数ニメ不覺遺ニ用ユヤニテ七脾胃弱ニ悪ノ只水欠ケ小便不林示ニ

鹿膠　鹿角霜　兎絲酒浸　髓柏仁各半升

靈 破胡子油四補骨脂ト云

・右細末ヌ為ス五十粒空心ニ鹽湯テ下

・人參湯 老人平生痿生ニ服レヌキト云ニ何ノ无症只弱キ許ニ用

曾抱 趣辭長 走ス 水葵

・他症ヌ支ハ加減ヌ佳也

・長建中湯 傷寒 治男婦諸虛不足小腹急痛眠腹脅滿驚悸面黃唇乾口燥腰痛骨痠行步喘ス短氣ヌ食或困勞倦或病後不復最宜服ス如虛甚ス無ヌ

・長湯 人過勞倦辛苦用力過多即服三服免生內傷羣之病補氣

・長鞋 鳥骨 抱 雷 肉一斤 免ス 師ス 莖 粳 姜棗ヌ葵服

・補血 人過勞心思虛傷損精神心血ヲ短少

・脾煩挾火宜服

曾鞋 莖 麩薛 肉 鍼 免酸 茂仁 粵 師 雷 玄 宮 ス 姜棗ヌ葵服

・舒中益 治氣虛中滿肚大青筋 曾抱 箇仁 蘿子 槟 蒿 訝 水葵

・諸病朝寬ク暮ハ急ナル血虛暮寬朝ハ急ハ氣虛旦夕急ハ氣血共ニ虛ス

・生津補血湯 陰虛火動ヌ身痛ニ吾

・降火湯

・医王・平傳 冒春兩月異也 治中氣不足或誤テ服発代茶ス肢倦息口乾發熱飲食無味或飲食失節勞倦身熱脈洪大空ニヌ無力或頭痛惡寒自汗ヌ或氣高ヌ喘シ身熱ヌ煩ン脈細數弱自汗休倦ス食或中氣

虚弱ニシテ不能猥ニ血或ハ飲食労倦ニシテ患痛ノ
剤等症因脾胃虚而不能合思者或元気
虚弱感冒ニ寒不勝發表宜用此代之或ハ
入房後労役感冒或労役感冒ニシテ入房者
急ニ発ス是思按ニ諸人之一身以脾胃為主脾胃
気実スル則ハ得肺其取養肺気既盛水自シ
生ス焉治飲神労役饑飽労役（内症門据之方有
（曾祖父薛新書所録長往寧武孫師ニシテ善ク永歎内門ノ人
此医王ト公東垣之医中之王道ト云心ニテ名リ此方ニテ名高キノ・自汗盗汗
脾胃ノ補ノ故ニ東垣方名高キノ・自汗盗汗
發熱小便赤ク眼精之見様此方ト降火ノ二見
様肝要也此方之症ハウツヤリトメ精ナシ降火
之症ハスサミシクキヨツ〳〵ト物悲シキテイソ・心肺
元陽ヲ升テ内傷之不足ヲ補フ又心肺之虚
ヲ補元気之虚ヲ補方也・脈ハ虚大ニメ無力此
大法也或微細或ハ弦大ニメ無力ノ脈モ有之ト雖モ気

虚此方又四君子ノ一ニモ吾・眞気草ノ字ノ見ル
弱ウツカリト河房之様ナニ吾或自汗盗汗内
傷發熱ニ吾・是元気之虚ニメ気虚也陰火ニ
陽気下陥スル故ニ發熱ス陽気此方ニテ升ル
吾トノ或ハ物ニ跡ヒクニ終リモシキ類ニ吾只
眼精ノ見事肝要也・小便黄ナラハ房ヲヤメテ陰
火ヲ可降也・免角諸病ニ気虚元気草ノ字ノ
見ル人用テ吾此方心肺ノ気ヲ補方其効不可
勝計也・産後林ニ血ヲ下リ過ル二ヲ服ノ一物
之類ニテ不止ニ此方ニ加ヘ芎ヲ切々効ノ得也脈モ大
分細数ニ成モノノ理ハ元気引上ヤハ吾心ノ又諸病
血下ハ此心持ノ崩漏帯下ニモ此心有リ大方ハ
芎飯一ニテ吾又解毒一ニモ吾見合テ能也・婦人
三月ニヲ下テ後血甚ノ不止他医先解毒一
或ハ四物ノ或ハ涼脚ノ之類ニテ不止脈細ニメ数ナル

故ヒタモノ寒ミ薬ヲ用最早気絶シ死入ル時ニ
至ル此方大貼三メ用一貼三メ立前二合ヲ煎タリ気脇ニ
血ノ下モ止ル此二宮ヲ加ヒハセテ飯一回中ニ有・子落
テ血是不止六連解毒一涼薬一此三テ不止二ハセテ
飯一回物一扱ハ医王ニ皆ヒ用ル此方用ヰカヌ時ハ厳
氏抱一ニテ能ク有又四君ニ薛ヲ加ヘモ吾・医王之脈
火肺ハ主気火克金肺ヲ克ヘル也或微細ナル有
ハ虚大ニメ微細数也虚大ハ陽気陰分ニ下陥ル故
ニ大ニメ元方々々ト八元気虚故ニ弱ル成也数ハ熱ノ
脈也今気虚火計高也・降ル一之脈細数ハ陽
虚メウルヲイ乾ク故也数ハ火動ル故也・洪大ハ
火肺ハ主気火克金肺ヲ克ヘル也或微細ナル有
ハ虚大ニメ微細数也虚大ハ陽気陰分ニ下陥ル故
ニ大ニメ元方々々ト八元気虚故ニ弱ル成也数ハ熱ノ
脈也今気虚火計高也・降ル一之脈細数ハ陽
虚メウルヲイ乾ク故也数ハ火動ル故也・洪大ハ
火肺ハ主気火克金肺ヲ克ヘル也或微細ナル有
ハ虚大ニメ微細数也虚大ハ陽気陰分ニ下陥ル故
ニ大ニメ元方々々ト八元気虚故ニ弱ル成也数ハ熱ノ
脈也今気虚火計高也・降ル一之脈細数ハ陽
虚メウルヲイ乾ク故也数ハ火動ル故也・洪大ハ
・医王ニ寧苑ヲ用又霊脂ヲ用ハ称二味之薬味ヲ助ケ
切ニ能正シキ也霊ハ消痰ニ逆気ニ依テ也四正傳ニ
加減之方有・崩漏帯下小産林ニ血多下ル之ニ吾
或男子林ニモ下血ル之ニ他医連解毒一依用不
叶ニ此方吾リ皆気脇血中ニ改引上テ吾リ・産後
玉門不閉ニ此方ニ茎ヲ加ヘ治スルノ回婦人門ニ見メ
リ・婦人崩漏面黄ニ或赤ク間ニ覚腰之間腸下
痛四肢困倦煩熱不安其経行先後両脈如乗
此脾胃虧損元気下陥シ与相火湿熱下迫取ニ
致也此方加珊瑚炒黒房百日ノ間飲解一ヲ兼用テ
平安ス・五十歳男子頸神思慮之後茨熱頭
痛全ク不食尿赤ク脈五動余ニメ有方尊正
ヲ用テ頭痛熱退テ後益不食不リ々々ト尿
黄脈濡ニメ五動此方ニ房雷ヲ加テ全安・立方本指
正傳并惑論方考之文有予畧此可考見

・四物湯・治血虚

薤(蝦地芍)髄・杞(芍)・宮(芎)・芎

・諸病血虚ノ煩ニハ此方・傳之労療門ニ冊渓曰
陰虚之極リ々ル疾ト与血病久ク有看ハ其傳

水腫

屍之一症不可有無一大法云云物二加薑棗蒸粉粥ノ婦人經閉メ後ノ
調理ニ用テ吉・安產後衆血留テ不通腹虫咬ヒ
如クナル公敗血ノ一ツナリ也此方加乖離延ニ用妙ノ
得効ト勝テ不可計ス・此方二加房蒯テ血虛之痰
症吉・二十歲之婦人六月中旬安產之後十二日面肢
浮腫シ二便不通咽乾キ脈弦數此方加芰猶豐
乖沒離茯苓用テ腫ノ退キ四肢無力不能起ニ
此方ニ膝離仏袍茹テ安シ・又壯婦隨胎之後ニ下
痛ミ面目四肢浮腫又此方二加乳沒薗芰當歸
鴛洗海金用ル竟ヒ七服ニメ安全ス

・歸脾湯 治脾經失血ノ諸症 思慮傷脾不能攝血血妄行或下血或
吐衄者心虛而怔仲驚悸喜忘者皆此方主之
嚼長抱靈服圀酸仁遠仁蜜辭
師伝 水煎

・本方二加芃粉粟ノ名加味歸脾湯心脾虛耗メ
而有怔仲驚悸健忘蕊ノ遺不寢等症而
挾虛熱ノ者用焉

・賢功圓

・大補元湯 長行噌行霧薗薛髓延圀
師紙房蒿杜仁泡靈茱十六ヵ
莖十夂 右散茱或蜜煉或煎湯

二六 諸血症 吐血咳血咯血衄血便血

・衄血大陽經風熱火將解之時必有之不治自愈
女壯時女月事來必衄又當以犀角文等之
涼上

・犀角地黄湯 治一切上出血
犀角 髓枳 鍼粹 薛連文 水煎
・衄血鼻ノ不止者幷吐血加閻
・神効散 大黄之吐血衄血又久血枯能止之ソ
鍮粟ノ粉 細末メ白湯下ス

・保元湯 久労嗽シ吐血ソノ後ニ大血泄シ又ハ
此用ヒ扱降火ノ之類ヲ用ヨ吐血後ニ大血泄シ又ハ
ロズ先ツ此ツリト大分二通スル者ハ頻テ死ト心
得テ療治ヲスル也

・勤行不止ノ上ノ吐不止ニ等ノ箇大加保元ニ或箇
或走ヲ見合ニ加テ咯血ヲ治スル吐血ノ崩ト心
真白ナル糸ヲニロメタル者ヲ治咯血ハカクノ
子リヌキノ糸之如ニ白ケシ朱ニ染テホトイテ
見血ト成ソ命門ヨリ出ル二周テ治ル者ハ
無ソカニヘテ不可療

・一方 痰ニ帯血咳出ヲ治スル吐血ノ崩ト心
得ヨ女也先ツ有ト見タラハ早ク療
ロヨリ咳ニナルソ

・人参ノ飲子 虚症之者咳血唾血衄血ヲ治ス
圀薛仁 曾長粹 鍼師仁 水煎
一方ニ幷 水煎

・清唾湯 唾血ヲ治スルソ唾血ハ咳ニ由ク咽ナリ
サクメ唾ニテ又テ鮮血カニタト出リ腎間ノ無

血ナル三因ヲ死症三テ八无ノ婦人ニ多キ者ノ
雷貝楨柘蒴遠関関紆強黒
水煎
・清腸湯　溺血ヲ治スルノ溺血ノ大方ナリ痲病成
程ニ痲門ニテ考テ療セヨ
薜蒴粵連鼓房鼈根支蒼雷
関ニ師紅嫫ニテ燈水煎
・栢葉湯　腸風下血之薬前ニ有ルヲ治名近血
栢薜髄連老槐花黄雷紆ノ師ナ
姜水煎
・槐花散　下血之薬無後ニ有ヲ名遠血此ヲ臓
毒ト云テ難治熨実之者ニ此方ヲ用テ良
虚ニ悪ノ寒涼之剤ハ忌ヲ
薜卯仁髄鼓文寧竹老槐井ノ
棚栢紅　水煎
・一医王倹ノ虚症之臓毒之酒ヲ過メ湿多ク物ニ加煞
并用湿熨成程ニ走ヲ恐ル、者有リ共必ナ
モ大事无ノ金黄ニ要略之黄土湯ニ走有ヲ
以テ知シ酒毒ニテ湿アリ先咽乾キ燥症甚
ノ走ヲ用ルヲ又成ハ加并卯ヲ入ヘシ併ヲ燥症
モ湿カ多メ津液カ不行程ニ燥モノ成シ能
々見分テ用走カ能ノ大抵痔下血之薬ハ槐
実槐花卯栢ノ類ト心得テ加減セヨ
・虚人下血ニ臓水不絶ニ長ヲ信シ走ヲ加テ良
又沈槐花ノモ加ヨ・一婦久ク口辺鼻中ニ生
瘡痛テ特ニ耳中ヨリ血出脏暈ス八ニ棚過
・下血ニモ崩漏ニモ或何ノ病ニモ血多ク下テ弱ク身久ラク
聖一用テ治メリ（ス八ニ此方ヲ脳ニモ用ル事シ
敗毒散　冒感　条下下血腸风ニ吉必薬前ニ見血
他之療治ヲ多跡ナラハ此方弥佳也・风熨大
腸ニ入テ下血不止ニ加強荒雲鱉甲小過酒

ノ下血六加連・下血腸风二吉此他医不知也人之療治ニメ蹈ナラハ此方ヲ久ク用ヒ下血痊血近血ト云事有近血ニ吉由云腸风下血ニ尖ス在漢書前ニ是近血也・一男平素過酒人一日吐血数日ニ三升也為酒毒或ハ為熱或為虚諸医チラ東ヌ用ヒ嚊ク文ニ鬼ニ立止

・小茂湯傷寒 条下婦人経行之時多ク怒リ月事俄ニ止ミ口禁ミ筋引ツリ衄血出テ頭痛ミ疾ク有テ猫掴シ膞子上視シ脉弦滑濇ナル故ニ此方ニ加髄奥ノ鈎勝手安ス

・東垣浮白散咳嗽 条下肺気草叶吐血ニ可シ吐血ニテモ何ナリ此方ト心得可有肺気ノ草叶ク人ニ吉

・胃風湯痢疾 条下気血両虚之下血ニ加減能也

・順気和中湯嘔噦胃 条下吐血後ニ疾尖ク胃エノ半エノモノ降火ノ下有シ此雖治時此方用テ吉

・降火湯虚労 条下先血ヲ吐メ後見疾者是陰虚也此方可用

・清肺湯 条下咳疾而後吐血者是積熱也此方合用ル加減メモ自然不治其時ハ由反胃門之食シ難メモ自然不治其時ハ由反胃門之順気和中ノ結白食也

・霊補心湯虚労 条下咳メ後吐血ヌニ用ユ

・清肺湯・先吐疾而後見血者ハ是積熱也霊露薛菀鍼閑門文粛紫菀井冀尓師艾婢東ミ水煞

・此薬ハ降火ノ表裏之方也・此方ハ畢竟ハ肺気ノ補益気ノ薬ニ肺労ニモ用或ハ吐白ノ杯モ用然モ吐白ハ肺気裏ヲ血杯出ミ吉・先疾ノ吐ス後吐血ヌルニ用也是積熱故ノ

・清咳湯・咳血者出於肺咳嗽疾ミ中帯血也

薛的森貝不抱文粳杉光揮
独師艾　水煎

・潮熨加茈文咳數吐血之方也肺気ヲ清涼シ
艱血降ス大方ノ若此方不治時ハ二方選用
スヘシ

・一方　諸血道婦人産後崩血長血白血鼻
血吐血下血気虚ニ加減
茈文連翁汪師　水煎

・七味清脾湯癚疫　条下老婦素ヨリ怯弱人也ト
血下事経年月又虫動シ而々トメ悪寒ス之
二降火一杯ヲ不治此方用ニ治ス

・天香湯諸　条下六十余之婦人六七年患血赤
白帯下今ヤ三年以来血赤白帯下止左リ脇
小腹ヨリ上腕ノ左リノ辺ヨリ筋強ク攻ル時ハ
腹大ニ痛ム故ニ塩炒ヲ腹ヲ温ムレハ其痛ミ
止ム或聞高声或ハ行動スレハ胸燗食首熱
頭暈足心熱シ脈ヲ有方図又沉細此方用
ス此病ヲ治スル者ハ必ス安全
・心勝散　方ハ散之部ニ入

## 三　自汗盜汗

・長健中湯（傷寒）　自汗盜汗共ニ用

・元気虚弱ニ加減シ気血虚ニ

・薛髄湯・　治盜汗気血之虚ヲ治也・此方最気血

薛髄　髄鉄　茯苓　遠志　白芍　陳皮　半夏　熟地　黄連　黄芩　黄柏　亦傷寒　自汗盜汗ヲ治

・方後ニ盜汗気血之虚ヲ治也・此方最気血

兩虚シ又ハ盜汗ニモ吾畢竟ハ盜汗陰虚

之症ニ吾因テ降火之変方ヲ加ケシ方ニ

合メ用ユキ処ヘ其侭此方ニ右之二方之即ニ

方也又咳嗽ニモ・十全ニ似メ方ヲ免角盜汗

有テモ元テモ気血共ニ虚スルニ吾

・參苓茵陳湯　自汗ヲ治

薛髄仁　抱　霊　薏　參　茯　苓　茵　陳　加減　駿　骨　牡　蛎　仁　雷　丸　陳　皮　水　煎

・白龍湯　腎虚メ盜汗ヲ治

汗共ニ有ヲ治又心虚シ自汗盜汗憂遺

怔仲又ハ者ニハ加減ヲ以テ用ユ

箇鉄　龍骨　煅　蛎　仁　炙　仁　水　煎

・頭ニ汗多出ハ固王ニ加減亦湿ヲ中テ出ハ

五苓散加茵蔯・

・薛氏黄湯・　治盜汗之聖薬也

薛　長　仁　茯　髄　連　文　房　芪　水　煎

・方考ニ曰醒テ出ルヲ自汗睡ヲ出ルヲ盜

・方考ニ曰醒テ出ルヲ自汗睡ヲ出ルヲ盜

汗者自汗陽虚盜汗陰虚也曰実者謂

其症有ニ口乾キ唇燥キ便赤ノ色音重ノ病

未タ数也然ル陰虚ハ来ル以テ盜汗者陰虚之

人睡リ去ルトキハ衛外之陽乗虚陥入テ陰中ニ

表液失其固ヲ衛故ニ令ス滅然トメ汗ヲ出ス人

覚ルニ則チ陽用事衛気復ヲ出テ表々実而

汗即止矣和曰昼ハ近ク云盗汗之ヲ故也・陰火ノ一症二焚ル用也長ク手表ヲ賢ル汗ヌ連ク下ヌ便忘肾既済方也辞ク盗汗ニ忘血調ル也陰火ノ二テ盗汗不止時ハ医王或ハ長建中一杯吉・六

・黄湯ニテ盗汗不止ニ方考ノ盗汗門正気散房炊雷炊粉師ヌ此治陰虚有ヌ令ル人盗汗ノ陰火ノ一ニテ焚ル雅吉ニ方ハ吉切々用事多シ・此方ハ盗汗之聖薬也・立方之旨同昏ニ曰辞髄

狼陰之品也文連去ヌ之品也茫房ヲ可以養陰亦可以去欤而長者所以補虚気也於盗汗餘ニ也是盗汗ヲ傷寒盗汗ハ不同ク傷汗之盗汗ハ陰火ノ一ニテ焚ル雅吉ニ方ハ吉切々用事多シ・此方ハ盗汗之聖薬也・立方之旨同昏ニ曰辞髄

半表半裏之邪未ヌ〻ル雅盗汗者陰虚而已

假以和表為主此以補陰為主明者弁ク

・曽狼胃湯傷寒 条下潮热ヌ有盗汗自汗用テ切ク得効意ヌ〻ル

・順気和中飲鬱 条下盗汗之症三吾陰虚煩熱吉シ陰火ノ一医王二方合ル用度ト思時其捉此方佳ク・又右医王陰火ノ助ケ之方ノ又労熱ル陰火ノ一ノ症之如ク之ニ此方吾十全二似ル方ノ自汗盗汗有テ気不順而逆上シ血虚シ又ル二好方ノ

・陰火湯 虚労五三 条下此方ノ症ハ用捉ト八別也腎耗リテ相火亢ブリ心ヲ汗ニ可シ・十九歳男七月上旬ヨリ午後煩熱不食シ腹雷鳴盗汗如洛大便結シ或ハ渥ス小便赤ク不時悪寒食則愛熱脈数此方ニテ治ス〻リ・丈此方之盗汗ハ長ケ用ト八別也腎水耗リテ相丈亢リテ心ヲ汗也

・分心気飲諸気 条下専労療之如ニメ種々療メ後此方ヲ用盗汗止ス〻リ

・医王陰内三六傷 条下自汗盗汗共発小便赤眼精之見様肝要ノ此方ウツカリトメ精ナシ陰火ノ

之症ハ久スレハシクヨツ〳〵ト物悲シキ体也

・蹉経治血湯痛風　条下一婦夏盗汗有テ脈細数也是陰火ノ之症也故ニ陰火ノ用テ諸症退イテ後肩足注口ニ痛テ不定此方ニテ治ス

懐姙之内左故ニ膝痛ノ桃仁ヲ去用



・桂枝湯　諸暈ヲ治

枝仁　鍼仁師伝　姜棗ニ水煎

・加汪定一匙也

・一医王内傷三六　治虚暈ヲ

・補肝湯　治血虚頭暈

芍　鍼辞内経　菌粉天麻定　宮仁　嚼冬　師サ

姜二片水煎

・参附湯補益　治脱陽眩暈

・滋陰降火湯労虚　条下治陰虚火動之眩暈

・六君子補益　条下大抵之眩暈ハ気虚ノ不足ニ因テ各門ニテ考療セヨ

故ノ各症ニ因テ各門ニテ考療セヨ

・瑚逼聖散中風　条下一婦久口辺リ鼻中ニ数挙生瘡痛テ時耳中ヨリ血ヲ〻眩暈上気胸塵リ脈弦大而必動ク病甚則脈洪数此方用テ

大半愈後清心導寸疾ノ用耳中ヨリ出ル血止ル

・清心導寸疾湯 疾飲 糸下病人振舞ノ中ニ俄ニ眩暈脉弦ニシテ吐逆ス又ニ用テ治ス疾飲之脉ハ進ム又眩暈吉内ニ有疾火故ノ

・加味四君子湯 去眼 治気虚濕疾頭眩ト昏メノ由之眩暈門之加減也惣別肥ル人之頭眩ハ気虚ノ濕疾生ス又故ノ必ス眩暈ニ四君子用テ可也此方ト汪枹定湯ト似タ方ノ然レ共定ハ二牙有牙ハ脾胃之気消ス又故久數難用ノ

噌枹霊長薛宮靄汪楫驀定

・又按ニ驀ハ頭眩ニ吾楫ハ気ヲ補ヒ諸薬ノ乗テ上行スルノ眩暈ヲ抹ス上部ニ有ル者故ニ用下部ヘハ行ヌ薬ノ此病人小瘡便毒ニテ気虚シタル上ニ怒テ人ヲ不知休草ハ久故此方噌枹霊師テ気ヲ補薛宮テ血ヲ補也ヲット怒リ四肢抹冷ル二湿疾故靄汪ニテ吉定ハ気虚之眩暈気ヲ主戦慄ニ用髭定ハ汪枹定ト抹ニモハシレヌノ定ハ諸々之眩暈ニ吾ト也

・髭定湯癇病 糸下一男患小瘡餘毒深メ發莖疾痛甚瘡便毒也外科是ヲ療メ入按茶疾痛甚メ難治ス特ニ国婦有怒怨ヲ忤メ悪ム人四肢冷テ戦慄ス須更ヲ醒脉沉細遅也数ニ見ヘ主予此方ヲ与ヘ二貼ニテ愈タリ・又一男不時ニ眩暈上気面赤ク心悸メ盗汗心腹両之ホトリ筋引ス此方ハ貼ヲ安

・汪枹定湯頭痛 糸下女子疝ヲ病シ悸惕シ眩暈甚シク又メ不知人虫衝上メ不食シ悪心耳鳴小便赤ク渋ス此方用ヨト十余貼ニテ安全也・男子腎虚上

熨シ下冷常ニ頭痛悪阻吐心下痞滿スル此方十貼メ愈・気ツキテ脹暈スルニ脹暈四君ヨリ多ク分ル此方ヨケシモ曲牙ハ脾胃之気ヲ消スル故ニ久ク雖用キ故ノ・気虚脹暈シ其脹暈ハ気雲之中ニ如居フラ〳〵トメ目雖開胸ヲヌキシ上熨足冷ル此類也此方用胃ノ気下陷スル故ニ身気虚シ到ヘ疾有故鉄キノ

・参ノ苓抱散 内症 条下一婦不食シ胸ヲヌキメ胸ヤ〳〵トメ脹暈足冷髄定ニテ先ニ不行也

按ニ不食ト胸冷〳〵ト二目付テ脾胃虚冷スルヨリ与ヘテ立処ニ愈タリ

・霊補心湯 内傷 条下女中患脹暈事如空舟車之上眠ル特恐懼メ敬慕キ心中痛ミ足冷俄ニ目胞 如蒙物此方ニ入妻用良ク余脹メ安也

・紅麦洞湯 飲 条下痰火ニ因リ脹暈スルニモ随症加減メ妙方ノ

・又髄定湯 ジンテイトウ 類症 条下三十余之男不時ニ脹暈上気メ面赤ク心悸メ盗汗心腹両ノ辺筋ヌル此方用良ク貼ニメ而安・五十余高位女傅持病ニ頭旋シ痛ム食后ニ厥逆メ脹暈シ四肢冷心中惕動スル此方用ル良ク十五貼ニメ女シ愈後加減メ安シ

## 二九　淋症

・必効湯　治諸淋

茅根一斤　海金砂一斤　水煎

・若楊梅瘡將發之先已出後有遺毒一有之
濃血淋瀝者加穿傴嚕抱不或臣三本方
之加二味主猶可也・淋濃之由下疳楊梅瘡
杵二成豆大有ノ此精ノ漏サントシ不止滯テ淋
卜成三本方久數用ヲ大方ハ此方ノ症多ノ

・五苓散　泄瀉　下部冷テ淋病ニ感ニ此方ヲ効
百ノ中ニ五淋ハ正散之類ノ不可用ニ而ノ

・霊調血湯　治酒毒過度房室労傷小便ヲ盗
稂鍼宮　汪粹　瀉　芫光　楫　箕師
皇帚根　蘆蔍　姜水煎　水煎

・生蒲黄湯　治血淋尿血
菀霊　師紆　乱髪霜ノ如テ良

・髪灰散　治血淋男婦俱能主也
乱髪霜　广大許　細末ニ送下

・五淋散　治肺気不足ニ而膀胱光有熱水道不通
淋瀝不ヲ之或尿如豆汁或如沙石或冷淋
如膏或淋尿血皆効
稂鍼　粤　粤寸　師　甘
稂　鍼　粤寸　師　甘　水煎

・或茯苓支　液車ノ如テ可也

・治血淋　治莖中痛不可忍者
井ニ猪苓霊而車缶　水煎

・二未散　治冷淋気滞餘瀝渋身涼
支蜜辟鍼　光回　洗　猪霊師ニ多

・或血淋犀角鼈湯或四物加霊色如豆汁ハ
雫光火也五淋敗

・清心蓮子飲　淋症渇證

佛噌仁 長仁 圀 籙車 文 各ノ 禊師

艾 水煎

・治肋ホトンリ 咽乾 小便白濁或遺精シ小便後渋 小便赤如盃 男子五種痲婦人赤白帶下 産也

・木香湯

蜜 芠 洗 茴 鍼 的 光 蒿 露 師 伝

・裏気凝滞小便淋瀝身冷者名ク痲

・八正散 治心経蘊熱 藏府閉結小便赤ク渋 隆閉不通及熱痲血淋

厄 贄 芠 液 蓄 粤 車 師 ホ ノ

・壮年之男淋症有ニ不用室自愈而後眠脚膿脉濡ナル二武市三子吉淋病ニ脚ニ膿ノ苦シム用テナリ八膿ノ久ク先淋病ノ処ニアラズイハ有ニシテ先自ラ心ヲ ヲトス云カ目付ソ

・龍胆瀉肝湯 治肝経湿熱 或蒙ノ灘便毒下疳懸心痛膿ヲ成ク痛ミ燃作シ小便渋滞或婦人癰癌痒ク痛ミ或男子陽挫膿脹シ或

八虫膿水

陸 蒲 蔡 車 芠 茭 粤 文 厩 伝 師

艾 水煎

・淋病用テ効シ有リ小腸膀胱之湿熱ニテ淋有ニ五淋一ニ正一ニ杯用テ吉ノ肝経之湿熱ニテ淋有ニ八此方ノ用テ吉ノ

・一方 治諸淋遠久者ヲ佳也

芠稲中紐 芠仁 圀ヲ 房ニ 師仁 ホ

・一方

麻葉行 師仁 ホ 芦根ナホ 水煎

・一方

佛茅霜一味 白湯送下神方也

・麻病效方　治數十人諸麻皆也

篤稜中行　蒼朮　菌　象牙引　師行　縮五行

大麦五合皮共二夕

・右三貼二分ヶ水八合入六合二煎湯茶之替ニ用

于是效也

・小茯湯　傷寒ノ条下苴中痛ミ白津ヲ出小便

閉特ノ為痒ナリ此方ニ限リ加百二貼之安シ

・五積散　感冒　条下ニ婦人麻病ニ支車加テ佳也

此疾血敗也切々有効

・一方

大劑　五月之節之中ニ取土気ト戸頭ヲ洗去テ

炙シ灸リ師ナカ　水煎　帯下佳



・厲方湯　治神寒ノ湿遍身骨節痛上

厲劑　文蛤　鍼　菊微行　師ナカ水煎

厲便龍薢走　鍼霊　汪臺朩蜜當

・在上加在下加膝房虚甚者ハ物ー加走便

類

・羌活湯　軽実症之痛風

厲劑　文蛤　鍼霊　汪臺朩蜜當

ナリ師　姜水煎

・局方大防湯中風　治虚症ニ用或実症ニ用モ

久強痛カ或下部膝痛テ风毒ニ成ル必用生

小児ニモ早用テ可也此方数之茶久敷用生

辨・上痛加仙下痛加蘭・瘀血痛加乳薯・

面痛手足之痛加薯蕷寧・湿寒者去沈加

蒼朮・寒邪甚ハ加蘭龍瘍

・清湿化痰湯　治周身四肢骨節走注疼痛

牽引匀背ヒ又作寒ヽ熱喘咳煩悶或作腹
堤痛難轉側或四肢麻痺不仁或ハ背心一
黙聚冷ヽ脉滑ナリ乃是濕痰流注経絡
関節不利故也・骨体痛甚及有腫塊
作痛名曰痰塊
星汪 露霊 剪屡 汝 蔓 皎ホ 夕師ヤ

・渥姜水煎・加味四湯症状先ヘ行ガ二結ヌ此方ヲ
用ヒ吉痰気ニツカヘ梅核ニヨキヌ又咳数ニモ吉膜痛ニ能用ル ・没芒乳海名如ニ頸痛宮薑・手臂痛加ニ
引テ行膈ノ気ヲ利シ痰ヲメクラス・肩痛ニ効月痛ニモ
薄荷 ・花筒・脚痛加膝房防陸ル・卅痰之濕痰
故之百節之痛ミニ此方用ノ又依濕痰、遍
身疼痛ル者ハ除濕化痰ト云フヨリ此方
ヲ建立ヒタノ・痛ル不ル寒ミヨルハ五積ノ風濕
ハ九ヌ濕痰ニハ此方吉痛ニ不限用ル宜モ有
・龍鰍湯 中濕 治濕痰ヌ流注支節腫痛
・干姜加湯・婦人加羅・腫多加芫薬・腫痛

・大朔湯中風 痛風濕痰、挽ヌ経絡ニ傳テ腰脚
痛又鶴膝風ニ吉
・香蘇散 感冒 条下痛ル風毒ヲノ如ニ九茶ト
ナシテ三十粒程ヲテ沽メノ下焦故ニ九トス
・九ヌ感冒 条下手足走痛ス ル ニ虜僂老ノ大ニ
倍シ用ユ・手足此彼走痛ス ル ニ吾大男ノ風濕ノ
故也 ・ニハ身難ニ動ヌ可用ト有此ル毒之心ニ
テ云カ然シ共後リ痛ル吉ヲノ・痛風百節痛ニ
吉此方ノ症ハシテ見ニ痛処カ挽ヌルノ
・五積散 感冒 条下一男三年百節痛足ヒツカミ別
痛骨ト皮ト計ニ瘦メリ此方ニ加走強膝鶴
膝風ニ加松節枌ヌ佳也

・胃苓湯 病条下夏之痛ル風ニ用夏濕ニ依テ身

節拘シ痛故用テ治ス・痛風脚気ニモ元気
・医王諸湯 ニ加減仲氏不防独活可シ猶由之方後ニモ可見
・疎経活血湯 荊芥 活 独活 統ニ六疎経治筋湯ノ下有絡ヲ吾ヲ
治ス遍身走痛ス劇在足痛ミ亡先是レヲ左ハ屈ス
血久久因酒色損傷筋脈虚空ニテ被ル風寒ヘ
湿熱感於内熱包於寒ヘ則痛傷筋絡ヲ是以
血虚ス感ル風寒ヘ久久ニ吾ニ成ス久ハ
非白虎歴節ト也・忌生冷湿物
・疏鑿飲 羌活 防風 蒼朮 猪苓 沢瀉 仙人掌 茯苓 陳皮 桃仁 薏苡仁 薤白 秦艽 羚羊角 独活 細辛 生姜 大棗
姜水煎

・此方八実ニ无シ通風ニ此方ヲ用ユ・痛ニ
二傷テ経絡虚ニ成ス久ニ吾ニ実ハ
血虚ニ感ル風ニ成ニ依テ虚ヨリモ
夜甚シク痛ニ吾此彼ノ痛ニ吾・中風ニテモ或
ハ脚気ニテモ諸病皆ニ此方ヲ用テ治ス・痛風脚気ニモ元気
先此方ヲ用テ痛ヲ久久ニ吾ニ実ハ
合之茶ヲ能可宝又随其症加減セヨ・頸ノ痛
ハテ実ニ虚症也左リ痛ト右シ也右リノ痛ミ
用ル・痛夜計ニモ不限用テ佳・血虚ニ痛ミ
之有ニ物湯ニ當房ヲ加テ用シト思ヘ此方ニ
ソ但シ降火ノ症ニテ胸甚ニ痛テ疾ツヘ
久久ニ此方用痛ム口キ久久也是ハ血虚ニ経絡
虚ニ風湿ニ感シ筋之痛強キニ專ラ用ル方
也・心痛ニモ肩膊之痛ミモ夜モ重キニ必用ユ
洒好ミ色欲ヲ過ニ虚シ久久人身之節痛ニ
用也

・三痺湯 治男婦血気疑滞手足拘攣
リ風痺気痺等此方ハ細々前ヤトヨリ用ユ

市ノ

續仲（杜仲）防（防風）風（風邪）痺 秦（秦艽）艽（羌活）羌（羌活）活 独（独活）活 威（威霊）霊 薤（薤白）白 薤（薤白）白 半（半夏）夏 茯（茯苓）苓 牡（牡蛎）蛎 蒼（蒼朮）朮 姜（生姜）生 水煮

宮（宮桂）桂 薤（薤白）白 長（長生）生 膝（膝下）下 仁（杏仁）杏 師（師子）子 姜（生姜）生 水煮

・此市痺痺ニ用テ吉故ハ痺痺ハ血虚也中風テモ又何之病ニテモ足ヒダルノ重クシビレテ不仁スルニ良・中風抔ニモ痺痺スルハ用ル事有

・艱栄湯（艱栄）虚 条下腰ノヌケダルニ吉ル風テモ用テ吉ノ当抔ノヌケダルノ不知工ハカヌニ方一吉本血虚故ニ右之症見タリ

・痛風中風之付薬・

走（走馬）馬 柿実霜ホ分 糊ニ酒ヲ合付ケ別メ中風行歩不叶付テ妙シ 道ニ製

・加味八仙湯 麻木 条下清湿化痰ノト此市ト二方ハ痙ニ用又気道不順ニメ中風メニシ痛ニハ順気ノ佳也・物心別気ヨリ順ス其為ニ皆酒製シメ市ノ

〇三一 背痛 並辟肘痛

大陽経受中風寒之気而不行也

・羌活湯

厚朴 蔺草 官桂 龍師 紅 水煎

・加鳥去蔺・青円龍ノ小續命ノ・虚者保元ノ

羌活湯 痛風門ニ 輕ク又症上有

・遍身骨節疼痛者皆是血気凡湿疾丈也

・大羌活湯 治風湿相搏支節疼痛

厚朴 官桂 龍師 紅 水煎

・参合湯 背筋之痛用ノ気滞風邪之症ニ

此方用ノ若脾胃虚ノ精気弱ノ又痛ニ受百ノ其ニハ医王良ノ

厚朴 官桂 宮薑 龍師 得強辣師 紅 水煎

・一医王益補 加走厚朴

・流気飲子 治気攻背脇助走注疼痛及

痞脹呃噦気閉浮腫脚気

舒鬱光猶弘 霜霊薛 鍼宮長

洞汪珊師粉 富仁蜜粽

〇一方二百老洗弘 姜棗ニ水煎ス

・面首散 頭項強痛者風邪所干也治頭項

強急筋痛或挫頭轉項不得者ニ

即鬱煩気ニ加厚朴痛ニ加厚朴

・加味逍遥散 治辟肘痛冷起手甚限或一辟肘

痛或両辟肘痛ニ用

薛鍼袍霊蔺 拘猪蔺粤師ス

・支加散 即五積ノ丸ス ノ合加ル膝東ニ姜

・臂痛湯　治疼攻双臂痛又手臂痛是上焦濕
疼横行経絡中侵痛也
菊花　星汪　抱　又　薑仁　靈脂
仙杉　師夕　薬　姜水煎
・舒筋湯　治風寒傷肩臂侵痛又名肩
湯
横一　師　薬　抱　海同皮　薛　薛　泡　雙汪
技　師汪　姜水煎食後臨卧服
・滋栄調中湯　治臂痛及腰酸或肩時侵痛
雙半師姜水煎入酒艾治気血凝滞経絡以致
臂痛不挙及諸痛仍灸針不効
・秘方　治臂痛
薛　宮　薑　星　汪　珊　薬　又　連　揾　劍
技　師汪　姜水煎食後臨卧服
・蠲痺湯　治臂痛肩於濕香煮治風濕相
搏身体煩疼手足冷痺四支沉重
薛　雙　長　薬　横　珊汪　師　又　姜水煎
・同方　薛　雙　菌　薬　珊　珊汪　師　又　姜水煎
・虚加袍走揾一・実加劍仙鳥仁一或加薑仁一
・活絡湯　治濕臂痛諸藥不効
薬　僊　宮　薛　抱汪　師　姜水煎
・肩膊背抔麻痺不仁しびり〳〵ト痛テセヒナ
脚気ノ上ニ
・小續命湯中ノ風症三ノ肩背痛ハ九又薬勝濕
一ツ用不効二此方合或八肩二ヤシワス脚気手抔
之痛ニモ用ヘ
・五積散　感冒　条下臂痛痩ホリ又ハ用治ス
・勝濕湯中濕　条下項脊引ツリ痛ノ項痛ヲ治ス

・三和散（諸気）　条下或入頭引ツリ強而之有脈引ツリ疾痛脇肩掌〻不食脈弦也其動ハ痛ム処ニヨメヘ雖忽此方ニテ治ス

・蜜煎導飲（諸痛）　条下肩背脈胸注痛ニ吉左リ痛テ右ヘ痛ミ移ルト云ニ吉又寄気ヘ痛ムヤリト云ニ吉

・二朮湯　湿痰ノ兼ニ用

・蠲痹湯　条下肩背抔麻痺シビリ〳〵ト痛臂脚気ト云ニ曷勞　珊菌　薊舒　茹テ吉・又婦人児ニ手枕ヲサセテ尺ヲ引中尺之如ク不仁シ酸痛又ハ二隹也又五積ノ之症ニモ可有

・香蘇散（感冒）　条下婦人気滞テ痛ニ度ヲ用テ得効

・鬱金散　条下肩背抔麻痺シビリ〳〵ト痛臂脚気ト云ニ曷勞　珊菌　薊舒　茹テ吉・又婦人児ニ手枕ヲサセテ尺ヲ引中尺之如ク不仁シ酸痛又ハ二隹也又五積ノ之症ニモ可有

・香蘇散（感冒）　条下婦人気滞テ痛ニ度ヲ用テ得効

・三和散（諸気）　条下或入頭引ツリ強而之有脈引ツリ疾痛脇肩掌〻不食脈弦也其動ハ痛ム処ニヨメヘ雖忽此方ニテ治ス

・蜜煎導飲（諸痛）　条下肩背脈胸注痛ニ吉左リ痛テ右ヘ痛ミ移ルト云ニ吉又寄気ヘ痛ムヤリト云ニ吉



・凡心痛疾痛及ヒ胃脘痛惣テ寒ヘ冷也又一種動気築然トメ痛是レ亦胞中之客寒也不可為九種之心腹痛治ス

為生

・赤石脂丸　治心痛徹背之痛徹心

（椒一合烏頭一ツ炮）走ヲ多強ヒ赤石脂ニ

・右末ス蜜丸如梧子大ニ先食服一丸日三服

・九痛丸　治九種心痛

走烏（生狼牙一両炙香）　附（二両去皮心熬研如脂）　曾（強呉）

・右六味末之煉蜜丸如梧子大ニ酒下強人初一両・右六味末之煉蜜丸如梧子大ニ酒下強人初服三丸日三服又弱者二丸・治暴卒中悪服脹痛口不能言又治連年積冷流注心胸痛並冷腫上気落馬墜車血疾ホ皆主之

・七気湯　積聚　大抵之心痛ヲ治ス精気之疲テ痛

二良ソ・甚痛加ス・若虫痛ニ芎棟根皮ヲ
・加・気痛ニ芎薑金加・瘀血之痛ニ延胡
・加味七氣湯・治七気病ヲ發心腹刺シ痛欲死
汪糸延 蔺糸鬱金 師ヲ姜水煎
・婦人ニ加辞宮ヲ・治心痛欲死・小女ノ陰腫ヲ痛
ツラレテ血甚シク俄ニ下心痛甚メ不能言語
欲死此方一貼メ安・是心気痛之方ノ婦人抔
瘀血有ヲ心痛欲死先此方吉・七気相干ヲ陽
陰不得ニ升降ヲ作痛者ハ此方主之
・神効湯 腎ニ痛ニ用稀ニ支ノ
粛ノ楫 師狐 水煎
・檀御散 実症之胃脘痛ヲ治
沈香 檳榔 蔺 洞師鴻 姜水煎
・烏茶散 治血気雍滞心腹作痛
鰾茂 他薜 桃仁 茶 光 蜜仲

・右各未ダ每服二錢ヲ漿酒調下
・没茶散 治血気不行心腹作痛或行注疾痛
或月経不調及脹満胸膈並用ヒ
離没薜延狐 ヲ
・香薷散 感冒 条下 何トメモ胃膜腹痛ノ有乾ヲ
服痛腹痛之藥ヲモ不驗ニ 北投樊ヌ
氏方又不換金三ヲ行気表解メ吾又切々有ヌ
他毛如此事ヲ不知此意ハ風濕抔ノ滞膝理ヲ服ヲ順ヲ気命ヲ
・小茴湯 傷寒 条下 腹痛ニ吾又加疑妙ヒ
・加味逍遙散 治腎痛ニ婦壮生小腹日夜痛ヌ
甚シ他毛療メ不治予思ニ是腎痛ナリト此方
ニ貼ヲ安

芫薜 鼈霊 枹 蘇 師花狗(ハツカ) 菌 海金
ノ 姜煎・水煎
・算正感冒 条下内傷生冷外傷風寒濕之為ニ腹
痛吐没ス久ニ不食ニ・心痛腹痛氣痛ニ種々

中風 傷寒 雜病 婦人 小兒 眼病 口齒咽喉 耳鼻 頭痛 感冒 中寒 中暑 中濕 中毒 痙病 マラリア 飲食 痰飲 咳嗽喘息 勞傷 諸出血 自汗盜汗 脚氣 及腹脹 嘔吐 反胃噎膈 痞滿 霍亂 瀉痢 腸癰 疝氣 積聚 痃癖 癪瘕 諸蟲 諸毒 諸藥 諸風 諸氣 諸病 諸虛 諸痛 諸瘡

## 三三 腰腸痛

・補腎湯　治諸腰痛

虜僞不仲膝八多煩菌八多桓七多師矮

・有桓蘭昏夏　姜不水煎

・腎腸痛者如辞的吳不・腎気虚甚有勝下

築動者的髄不倍菌

・僞寄生湯中湿　条下治腎気虚弱冷山湿地

腰腿狗急筋骨攣痛上

一方二用続断三西

・防風湯　治傷寒後腰痛或皮肉瘴痺腿

膝疼痛行復艱不可挽仰

珊而龍菌仲桜七不膝五加皮丹参ノ半両

宮走而辞鉄虜　綾一両　姜水煎

右咬咀毎服五寺水一盞半姜二寺同前服

・芎葛湯　治腎下疼痛不可忍兼治脚気

宮雞菌小老　鵜鉄龍珊仁師仁

姜水煎

・賢著湯　帯湿腰痛二用ノ従症可加減

強霊師抱多　水煎

・加虜僞尤枝下乞可也・虚人六髄紙仲

之九

・医王益補　労役ノ腰背之痛二用

・加虜僞走下可し

・柴胡湯　腎之痛二用感風寒ニ良

茂宮鉄小老菌煨灸　姜水煎

・令気舒飲　腎痛喘急ス之二用気滞之症ニ可

也

・変揖舒箕景露富霊狂師丈

姜水煎

・一方　医学綱目　治腎下風気作瑰寒症変則

中風　麻木　傷寒　班猫蝮　中暑　中毒　中悪　飲食　痰飲　マラリア　諸淋　腫瘤　皰瘡　膿瘍　癰疽　瘰癧　瘡瘍　瘍科　外科　婦人　小児　眼科　耳鼻咽喉　口内　歯科　皮膚　梅毒　花柳病　尿病　諸出血　胃腸　咳嗽　喘息　感冒　頭痛　中寒　労咳　驚悸　癇症　癲狂　健忘　神経　不眠　肩凝　眩暈　耳鳴　歯痛　口内炎　舌疾患　婦人病　産婦人　小児病　疱瘡　麻疹　水痘　百日咳　疳症　夜尿症　虚弱体質　強壮剤　諸出血　胃腸病　及胃腸虚弱　腫瘤皰瘡　膿瘍　癰疽　瘰癧　瘡瘍

連艾服痛揉心其積爲肝在脇下故病
茂則右邊手足頭面皆痛不思飲食正頭
疼上
雞一兩龍衣側皇心宮珊薛鬱鬱
師仙 姜水煎又洞九
人參煩氣散 治氣滯腰疼及感風寒頭疼
鬼疰或諸凡蹉痺痓暈嘔鈍
魯宮揖抱 鷺露老龍鱉蛩師
水煎
調肝散 治腎怒傷肝發爲腰痛
汪氏 菌仌薛宮膝小仁 酢酸仌
姜棗水煎
異香散 治沉腎不和腰痛傴僂股脛膨脹
飲食難化噎氣吞酸一切冷氣結聚股
中刺痛
佛師茂 蓂益狂光露一粁 猱仁塩乙

姜棗水煎
僂(ひきつ)湯 治勞役腰痛如新沉重如山
僂虜珊菌虎蒿幼森乾粁師仌
防房衣 水兩各半煎服
五積散 脳条下冬月腰痛大小共二先用
清濕化疾湯 中濕条下脵痛二能用ノ

## 三四　疝氣

疝小痛也小腹引睾丸痛之名也雖有七疝癪疝及小腸之气膀胱之气腎气等之名皆足厥陰経濕熱為寒气腎結而為痛為腫故治療惣宇除寒散肾為主

・薛四逆湯

薛紅走蒿　茴紅鍼細　延胡川楝　當歸　芫荽　水煎

・一方　丹溪　治疝作急痛

走馬　茴香　青鹽　茴香　湯炒　光五　延胡　桃仁　各等分　師　右水煎服一貼再不作矣

・神効湯　癪疝陰囊之堅腫宇痛用

烏師製　粳米　鹽　姜　水煎

・川練湯　以月座之証用

川楝　茴香　鹽紙　茱萸　茯苓　師　水煎

・茴香丸　疝気之腹痛

茴香　茴香　吳川楝　炒

右為末如梧桐子大丸

・蜜散　治心疝小腹痛冏絶不已

蜜　當歸　茯苓　黍　椒　桂心　烏師　水煎

・良霊通気湯　治一切疝無冏遠近寒熱

風濕寒気

艾葉　薛　鍼　薑　煎　霊仙　通草　水煎

・一方　治疝気右睾丸縮宇痛

當歸　洗　芍藥　抱　巴戟　舒　鍼　霊仙　洗　延胡　師　水煎

齎紅蜜師艾　水煎

・如悪寒ス脉沉細ナル者ハ冥

・内疝散　治内疝内崩

皁皮紅　老鼠糞　苦楝根　桃仁　薤白　烏梅肉　荔支核　川烏

・右細末酒送

・須気散　内疝症ニ用

官桂ニ抱　當歸　汪吳　茴香　青皮　桃仁　艾葉　靈脂　荔支核　師ノ尿

・秦艽　離　蓽茇　茴仁　枝紅　蜜　髭　鼠婦　紅宮仁　臺ニ作

・右為散又為丸

・七味清脾湯　瘧疾　条下磨曰私気虫強ニ川膝加用

又積有テ腹脹ニ用ユ俗ニ黄胖病ト云是ノ又ナリ

・小茯湯　傷寒ニ　条下血ノ気之脉弦数寒ノ發ス者ハ此方佳也或陰嚢腫

小便赤而脹引痛者ニ加ユ

腫寒ノ發ス者ハ此方佳也或陰嚢腫

清脾ノ或此方用佳シ

・香蘇散　感冒　条下七十余人過而持ス白此方ニ茂

曲如良ノ加ヘ用テ治ス

・五積散　傷寒　条下寒ノ病ニ加ユ

脇又ハ背ヨリ臍ヘ引ツリ痛ミ可シ

腰ヨリ引ツリ痛ミ可シ

・三和散　諸気　条下気滞之痛ニ此方大方ハ筋骨ニ

引ツリ又ハ引ツリテ痛ノ又特ニ可依此テ丸ス也

八五積ニ各ヨリ・第一血気之方也・血気之症ハキ

腫レ痛ミ小腹ヨリ章門ヘ引ツル也・血気之

四症ト八経ニ厥陰肝経脉ハ弦急外ニ東寒ノ

内ハ湿熱ヲ是レ・婦人ニ此症有ツテ此方用テ治

タリ・此方之症悪寒ス又ハ外寒ニツカヲラレ内

積熱有ニ依テ寒ノ熱ノ争フ故也・小腹章門之筋
引ツル ハ欬唾也咽乾ク ハ温熱小便黄ニ又或ハ
洪ル モ温熱也・痎気之症ニ此方用テ不効ト有
是ヨリ下思テ七味清脾ノ二ヲ用テ過半吉ト有後ハ
寒熱往来不定故ニ小柴ノ二ヲ加テ平愈ス
今按ニ九味清脾ノ二モ可然ト云・又胸ニテ咳共ニ発ノ
筋張引ツリ痛急寒ノ甚ク熱スルト云ニ此方之
症ノ必ス痎気ト可知惣別何症ニテモ筋張ト云
ハ吉ノ・痎気之症ニ此方用ヒ不治ハ七味清ノ不治ハ
九味清ノ又ハ胃気ノ門神効ノ吉内外ノ義ノ
・回神効湯 治ニ一切疝気ニ

蜜呉茱萸 枳殻師ニ 荊芥 延胡索 蒼朮
粟ノ殻 烏薬 姜 燈心水煎

・脹悶痛者加乳香・有瘀血脹痛加蒲黄去益母
腎気虚ニ心痛胃欠絞痛者加疑洞去益母



・香蘇散 感冒ノ五 加蜜鱉宮ニ
・正気天香湯 婦人之気実ノ時ニ或寒熱往
来シ或月経不順ニシテ胸脇刺痛頸痛肩背痛
メ咀咬林有ニ必ス用ノ虚弱成人ニハ不用

薛治血湯 寒冷ニ感メ血崩ノ(古版)
血ヲ下シ胸脇痛下血林ス ル ニ
薛 鼈 蒸 棲 楊 蓋 嫁 光 枝 強 師

・香砂平胃散 治飲食(古版) 食傷ニ用テ尤ノ治ス・気鬱ニ鬱金 蜜 枳殻 舒強 砂仁 湿尤ニ
生ス ル ノ治ス・気尤ニ蒼朮 厚朴 陳皮 甘草 生姜 大棗 烏梅 加減ノ法ノ如シ
・二陳湯 痰ニ去 飲ニ加薑ノ仁 (血ヲ破排膿ニ桃仁 滅ノ法ノ如シ)
・升陽散火湯 火鬱ニ用ル火鬱ト ハ火ヲ内ニ鬱メ
表ヘ不浮四肢困倦メ身ノ手ニ手掬ハ手始
カ如キノ元来血虚カラノ悪冷之剤ノ用

八弥悪ソ
寧雞鍉屢僂噌紅蔫ソ珊瑚災
往舊ノ加　姜水煎
・忌寒凉生冷之物月餘
・滲濕湯去　濕痺閉シテ諸症ノ生スルヲ治ス
或一身腫痛小便渋リ抹ス更ソ
薊抱靈粭露蓊猪仁薑宮蠆
榛ヤ師ミ多　姜燈二圍入水煎
・六痺湯去　六痺ソ治
薑薊曲　乾舊露貝宮老舒靈
師ヤ　水煎
・蜜調気飲　治気痺之症
薊榛露宮薑鱉光老仁蜜蠆
紐箇師ミ多　姜水煎
此方痺第一之方也男女婦共ニ用・気痺ト八
腹脹腹滿刺痛ミテ不快不舒暢ヲ云・又血
痺能食メ俄ニ吐藥血痛処不移脈數濇
或物ノ曲痺証門種々痺証ヲ互ケタリ考見ヨ
月痛ト云ニ先此方ソ可用・二十余之女気積方
右二有餘不食此方用ヒ則二貼ニシテヨリ後
加洞為ス三百九二ヶ全ク安傳ニ悪メ胸之痛
持病三テヒ何之病三テモ胸すへ痛ニ此方ヲ
・萬病養胃散・食傷腹痛疾飲胸塞リ
泄瀉其外不食何ニテモ
霽榛蜜　薑　蓊曲　滷宮　薑　蠆
炒　薊仁　汪師ミ
・越鞠丸　治諸痺気痺胸腹痛遇陰寒ニ則
周身走痛或關節痛遇陰寒ニ則
疾痺者動則喘ス口脈沈滑熱痺者聲悶小便
赤脈沈数・血痺者四肢無力能食便紅脈沈・食痺
者噯酸腹飽不能食人迎脈平和気口脈緊盛是之

## 三六 内傷

・一名 補中益気湯（弁惑論）
医王湯　内傷ト小労役三ツ様々ノ症之生ズル妄ノ

此方加減ヲ用ル事加減有可考

薜（服）霧（陳）枹（柴）芫（五）寧（三）多（参）噌（参）師（甘）不（芫）長（朮）

姜水煎

・如盛乾者加雞（鶏）・若身刺痛乃血渋不足加倍

薜（服）・如精神短小者加噌（参）茎（五味）・痛甚（本）加（桐木）芎小・有痰、加（生姜）・如咳嗽（乾）夏ハ

痛脳痛加芎小・有痰、加（生姜）・如咳嗽（乾）夏ハ

茎（五味）・周（秦艽）・秋（乾）・冬（地黄）・加龍（竜）歯（骨）・久嗽肺中伏火有ル

噌（参）・如食不下乃チ胸中有寒或気渋滞加（陳）

蜜（本）霧（陳）・寒月更加盛（縮）・夏更加連（支連）文（支子）・秋

加沈（乾）・心下痞（枳仁）加鍼（支連）・如脇腹痛加髄（枳）不止乃寒（由柱）

疳（甘）楝（苦）・冬加汪（生姜）盛（縮）・如臍（由柱）腹痛加（桐木）

也加菌（陳皮）・如脚（枳）数（乾）之方或痛加房（子朮）不已更加防（防風）

・伴陽補気湯　治周（枳）数（乾）食労役胃気不足

シ脾気ヲ下陥シ気短メ無力不能寒ヲ発ス早ク

飲後昏冒倦怠五心煩熱ス二吾是脾胃弱キ故

寧（甘）屢（陳）僂（陳）的（芍）珊（芍）蒿（五）楝（苦）三（参）芫（芫）茂（芍）

師（甘）ヲ姜（生姜）棗水煎

・明鑑内傷脾胃命ヨリ出ル而内傷ニ労茂

湯亦此病ヲ治ス・此方ハ後ニ吾ノ脈リ少シ一身

ヨメルノ殊ニ尚手足ダルキニ吾是脾胃ヲ以テ陽ヲ補

ク・脾胃ヲ和スル方ノ又脾胃ヲ上セテ陽ヲ引上ル

状脳ダルシ是則東垣脾胃命之方ノ芫有故

ニテシ寒熱往来有ル又頭痛ニモ吾屢僂有

故ノ芫ハ労熱五心煩熱ス二吾手足ホトルル故ニ

ダルクナル者ノ寧（甘）屢（陳）ヲ以テ表ヲ向陽ヲ引上ルノ

・方後ニ腹脹乃窄（サク）ハ六撲ノ倍ス腹ヒキハ硬

ニ加ト有・寧者脾胃之気自若ナレ脾熱ヲ

サス故ニ食後之脈盛ニ吾・婦人三十余歳胎

乃子九月食後悶乱五心煩熱口乾色セカク
トメ痩老ヒヘ小便赤ク渋リ大便或ハ結シ或泄
メ如鴨糞ノ脉浮大弦数ノ医用其正営服
二腫気出ミスヲ用此方病平安メ後安産ス
・参ノ冬白朮散・治脾胃虚弱ニメ飲食不進シ
或ハ吐泄スルヲ又後補助脾胃
曾抱霊延ニ茯佛薑 得師ノ命
粳

・脾胃ヲ調方シ扨何モ病後ニ脾胃ノ調ノニ
慾メテ勿シ・又曰之泄瀉門之参ノ参抱散ニ此方
ニ命得茯ヲ去算霊黎行藤加ノ気虚泄
瀉ヲ治スト看タリ此方用ヒ止リ難ニ曲之方吉
ソ・想別脾ヲ瀉シ脉細又五更ニ多メク行ク物ノ
又胃脾虚メ泄スル者食入胃即下瀉シ所ニ
飲食ヲ之物不化脉微弱ナル是ハ田舎ノ参抱

散ニ病後ニ食不進身体懶倦四肢無力ニ此
方用キカヌニ古方命ニ有也
・薤白白酒湯 胸痺 奈不老人能食メ痩皮膚燥大
便結スルニ用テ治ス
・木香化滞丸・治憂食温麪結中脘心痞不
食シ或ハ胃脘痛
蜜強蚕 洗曾 蠶砂ノ 蒿連五抱霊老
楡鍼六

∴一方・

汪訥齋師半 茆六ノ蜜蠶砂半 洞薛三ノ瀉
ノ 姜水製
・腹中冷テ下腹ト云ニ細々用テ吉メイ丸茶ク
・此方第一憂思ノ過メ気悪ク口食美味ヲ
ソテ中焦痞滿腹中時々刀之尖ニテ如刺痛
ミ大小便不快治スル也

三六

・参ノ参枹丸・治病後元気虚弱武方補助脾胃進
飲食肥身躰充実西服清文化痰解鬱元
気ヲ養
曾 蔘 霊 苓 陳 皮 汪 連 曲 扁 豆 師 薑 辞
長 遠 志 枹 精 佛 手 荷 苡 仁 蒼 朮

三七 驚悸

・温膽湯 物ニ驚キ不眠ヲ治ス
曾 枹 元 竹 茹 夏 枳 実 陳 皮 甘 草 茯 苓
粤 師 生 辰 砂
・蘇子降気湯 疾飲気カ上ノ有故ニ物驚キ不眠ヲ治
扁腹満ノ人小便メタメタ驚キ小便淋瀝色々療メ不効思
ニ経中ニ湿痰有カト思扁勝湿ノ二苡蒿ヲ
加テ治メノ
・天香湯 諸気 怔忡甚人肚暈ス如癇症ノ
此方ニテ治ス

・涙忘湯　當以柱枝湯汲心湯加減治之

連仁　守口師　狂　鉄　簡て　曾　狂　水煮

・温膽湯　驚悸　大病之後三虚ノ心中カ煩熱ノ不

寐二

曾　抱　去神　吸　免　辞　髄　酸　肉　汪　洞　連　名

粤　師　狂　辰　狂

・温膽湯　治病後虚煩不得ノ及心膽虚怯觸

事易驚息短気悸之ヽ或自汗

酸　竹茹　如仁　師　狂　雷　陳　茯　棗　霊　汪　洞　粳　姜　水煎

・心膽虚怯觸事易驚　肉　曾　芎　栄　棗　茹　揖　加

・噌養栄湯　虚労　糸下気血虚煩休草ノ煩熱汗

有ツテ肉ヲヤセ不能寝誅等ノ症ニ用也

## 三九 遺尿失禁示

経曰膀胱不約為遺溺腎気虚陽衰不
気脱膀胱不約故二専ラ補腎益陽可
為主

・参附湯　治年老虚寒遺弱並小児遺溺
　増　枹　長　行　疲膨　数　箇伍　辞参

・滋降火湯　去　糸下仁年失遺者治ス
　髄　茫　雷　房狂　師　文　閑　閇仁　鍵　辞伍
　枹　仁　一方三百濃煮ツメ不可加　姜水煎

・若輩及壮人者頻数成ル二此方ヲ用ユ害ナシ
　タテ先ツ

・左飯飲　水虚火動遺者
　茫　麺　茱　粉子　霊　師　姜水煎

・右飯飲　治元陽虚遺者

・左飯飲　右飯ノ虚労ニ出

・桑螵蛸散　男女共ニ小便頻数ニメ失禁スル
　用小児之疾ハリニ良

・飯脾湯　補　治志虚神悴ケ遺者
　桑螵　塩水浸　遠　菖　龍骨　増　免　鼈甲
　辞

・家韭子丸　老人腎水虚寒之症ニ用ユ壮人ニモ
　此症ニ用ユハ間違出

・右為細末毎服二銭塩増湯服ス

・参芪湯　大抵老人虚人飲茶ノ水ニ此ノ
　用テ右之丸茶ノ子ヨ
　増　長　辞　髄　枹　霊　益　箇　疾　走　師　文
　束ニ牧水煎ス

## 小便閉

小便閉者寒約膀光気閉不通或虚或ハ実或寒ノ入小腸大便不通故ニ小便亦不通也各擇衆方可也

・三和散（諸気）俄ニ気カ滞リ小便ヲ不通用ノ脾胃虚小便ヲ主ドル不通ハ大患ノ風寒抹サレ有テ気結メ不通用ノ

・七気湯　元来虚弱之人気滞テ其上寒気ニモ中ラレ不通ニ用

・汪噌（肉醤）圊師（カンスウ）　水煎

・駈（沈香）降気湯　元来気強キ人気ヲ上テ不降メ小便スキト不通ニ用

・蓽茇（香附子）駈（沈香）虫（カルカン）　師（甘）　水煎

・五皮（ゴカヒサレ）散　皮層ニ湿有テ気ヲ閉テ不通ニ用ノ今ノ人脾胃虚極之ル水腫ニ小便ヲキトテ固王五皮散トヲ薬与ル者多メソヲケモ元（キモト）

・一方　張茶

石猫干百　煉膊ニ入ル

・一方　小便不通

滑石　液往（ゆおう）　塩仁　米酢ニテ煉テ臍ニ付ヨ・或田螺

麝スリ和メ付ヨ

・八正散（痲病）小便不通ニ何モ可用アナカテ淋病テナクモ腫気有テモ小便不通ニ可用大小便共ニ不通ニ用ノ通薬トハ誰モ知ル所ナレヤ通薬トハ他医不知故ニ得用ノ和日見症ヲテ要ス

## 四一 大便閉

大便結者雖有仲景脾約丸（麻仁丸）一方仁辛熟実ヲ
是若者ヲ用可シ久病高年者雖不大便
二十日已上ニ先吾必不可動ク久病久不食故
大便ヲシ食進則潤高年者血乾気渋故ニ
大便秘而不結秘者気渋難過也大便雖
大便秘而不結秘者気渋難過也大便雖
潤口雖有已結者大便堅如羊矢是元害
宜元意以大便秋結為扁者下工也風
痰久不食者高年血乾者裏弱津液燥ヲ
大便乾結是佳也其潤滑者脾気弱ク而
瀕死故血乾者不可用薛苑翹只用増
抱ヲ如薛強脾気一盛而食多則大便
自然潤又用蜜道ヲ良

・麻仁丸　赤脾約丸
麻仁　杓　鍼厄　杓　檳　杓　枳実　杏仁　大黄

・右六味為末煉蜜為梧十大一

・医王　補益　条下　治老人産後及久病後津
液乾燥結者秘而不結者如洞蜜丸六味丸
去茯苓加鍼薛治壮年陰虚者・秘結三離
林加用吾ノ元気下陥ヲ八此方理ハ清気在下
濁気不得下下ニ清気ヲ引上セハ濁気自下
此方ニテ下焦ニテ清気ヲ引上セハ濁気ヲ引上セハ濁気自下
ル二依テ大便通ルノ其ヒモ物通某ヲ用不通ニ
用吾必灼メヲ此方ヲ可用

・潤腸湯　中風ヤ傷寒ニ林之後二天食メ大便
硬メ不通用ノ不通先大便ヤハラカナラ多
勿用又大便硬メ不通先食ヤ勿用又他
方モ不用食ヤ進メハ大便自然ニ潤ノ

血燥ヌルニ吾　桃仁　級
薛髄　麻仁　杏　老　檳　文虎　杓　師

水炎

• 小蒜湯 傷寒 傷 傷寒 傷 傷寒 傷

## 四二 脚氣

・大𣏌湯中風　大抱脚気二六此方佳也

・薜𣏌痛湯　發毒三于痛二用ユ

・雚薜　猪苓　猪膏　雷抱　曾青　寧雞

・𣏌薜　細辛　文蛤　師仍　水煎

・三妙丸　濕熱之症三用

・蒼朮　生漆　煎膠　酒　湯

・石煉蜜三于丸五十粒宛空心三用

・陶氏明統論　脚気脩三寒ニ濕之蒸于是発則類傷寒ニ症頭疼身熱支節大便秘或吐但初病時起于脚膝尽ク弱不能移動為異耳感寒取患必冷越婢小続命湯主之汗家妙ク感昔取患是發小続命主之減筒一半脚腫大代ノ拘攣ノ大便秘脚約之

・拘攣散　治脚気风腫痛

楊葉　秫米各一握童便酒各半盃煎少熱掃去渣洗未ク入調服

・越婢湯　治風痺脚弱

・膏行　抱ニ　走ニ　杏　龍ニ行　師仍

・千金続命湯　治脚気外症全類傷寒

・𣏌　桂　水　抱ニ行　宮防　枝　龍　雚ク　薑

・師仍　姜東ニ蔫入水煎

・但初起脚膝尽ク弱軟痛ク之呕吐喘急宜此救之ニ・如暑中三陽所患必熱脈洪数者去枝龍加文連・寒中三陰取患必冷脈是洪者加ク・起於風者則脈浮注膝或拘細加ク洗倍・起於濕者則行起忽住足脛或腫无汗加儷・気虚加参・便閉龍抱去皃加

・紫蘇散　治风毒脚気脚重虚腫

・舒支　蘇葉　大腹皮　箕茴　效ク半　老行　雚　儷　貫仍

光師（大服位）　右分二貼姜三片灸一莖
水煎

・香蘇散（感冒）脚気不腫不痩（痛）気ニ此方ヲ用ユ
　先防ノ加工方ナリ（生病不手当ニ痛ム処ニ脚気ノ有ハ先此方ヲ用ユ引ク而跟ノ痛ニ用ユ有是尺毒ノ気ノ上ル）
・久文（感冒）痛ム二効アリ有ハ此方

・寧雞湯（傷寒）風毒腫ニ度々用テ治ス痛ム揩加上蒲黄又ハ加麦

・僵寄生湯（中湿）腫ルヲ脚気ト云ヒ痛ムヲ脚気ト云ヒ不腫ヲ乾脚気ト云ヒ不腫ヲ乾脚気ト云ヒ用ユ更乾方ハ大瓢一ニ似タル物ニ入テ煎用ユ乾脚気ト云ヒ宜シク潤血清燥ス筋脈蹉縮メ攣痛脚気ト云ヒ不腫ヲ云乾ハ枯細ニメ不腫ヲ乾脚気ト云ヒ宜シク潤血清燥ス仲ハ下焦ノ風湿ヲ拂物ヒ腰足有ヒ痛ニハ屢僵有ルヲ

・三和散（諸気）枚脚気ニ方ニ此方良ヲ物ヒメ滞気メ然ル脚腫痛ハ湿ヒ葬ル痛ハ脚気ニ有氏腹ニ間又背ニテ挙キ痛ハ大暑吾脚気ハ風毒ト命シタルニ因テ九文モ佳ソ・或人コレラノ内ニ魚包タルヲテ此方用治タリ用ユ心ハ気経筋ニ滞ヲ故ニ若思ニ用ユハ加葉ヨロシメノ内コレラグワリ〳〵トシタノ畢竟此ハ筋牽リ痛ム故也・脚腫痛ハ湿也粘痛ハ粘痛ノ

・五積散（傷寒）感寒湿脚気痛ニモ用ユ走痛臂痛ニモ

・蜜流気飲（諸気）或ハ物思イメ胸ツカヘ怔忡シ腹脹イキダウシテ久クニ吉

## 四三　咽喉　並結核　梅核気　喉痺

・汪湯（ヲウトウ）（名）　咽風ニテ咽腫痛ニ用ユ湯水モ不通ト雖モ吾
　汪楫（裏）（校）　儻（俗語）（掻）（白花）　珊（名）　砲（炙）　姜水煎
・又粳寒ニテ未勿用
・汪湯　治　治梅核ニ吞不下
　汪大楫（半裏）（校）　中（カ）師文（桃）　粳（名）中　姜水煎
・内消散　結核　咽喉頸項之間結核ヲ生ズル者ニ用ユ
　癧之類ニモ皆用ユ
　薤（俗語）（俗物用荏、黒花）　竟（名）　儻（花）　菌（細菜）　驚（鼠）（苗）　鍼（一）　珊（名）　瑚（苔）　丸（カ）
　小（ヲ）　本（草）　宮（カ）　師（六ヲ）　水煎
・有汪楫・若脾胃虚寒之者ハ加噂（名）　砲（炙）　強（一）
・九味芫湯　治結核
・蛮流気飲（諸気）　治気鬱梅核
・加味四七湯（諸気）　胎七ケ月之婦梅核ヲ患他医凡ソ
　見シ改ニ（ヲ）　ケ（ヲ）　類不治予召見テ曰何ヲ服ス曰ク
　ヲ文先ヲトヲ云ヒシハヲヒシ思ヒ文ニモ有シニ風呂ニ入メシハ其
　於（如）　ヒ（ヲ）　ト云改ニ此方ニテ治生加楫舒（ノ）十八貼ヲ文安
　服（ス）　ニ此方ヲ以テ秘蔵（セラレシ）　ケ（ヲ）　ヲ

・一方　咽喉痛ヲ治
　黎（ス）　師ヲ　噙化
・痰気ヲ以テ梅核ニ清温化痰ノ可也

四四 口舌 牙齒

・寧湯 口中之腫痛二用ニ口中之書ヲ考可療
口之耳酸苦醎キト云ニ六其々之病ヲ治スレハ治從
寧珊藁長雞鳰師 姜水煎
・此方ニ加椒ニ牙齒ノ久ク
八腎虛ノ平生補腎劑ヲ与ヘ清火ス

・固齒丹 動搖スル二常ニ齒ヲ
・口乾加雞大便結加瓜蔞
・凉膈散 口舌生瘡咽喉腫痛煩渴便閉此
三焦炎熱也・

・右細末ノ水カ湯ニテ漱スルソ
・珊湯 口中總司之菜特齒草乞效也・
魯宮薑蒻薛荳支連老乳蓂霍
粤枇師ヲ 水煎

・医王益補 口舌生瘡發熱煩渴 乾粧師ヲ 虎杖
思飲此中焦虛熱也
・人參理中湯ニ吐 口舌生瘡飲食ヲ思大便不実中
気虛又手足逆冷胶痛中気虛寒ニ也堅・
・四物湯 口舌生瘡糜爛或脯熱内熱脉数
勞此血虛而有火也加袍霊岡茎狗肩雪・
・八味丸 口舌生瘡食ヲ便滑面黄胶冷火衰
土虛也・
・六味丸 口臭牙齦赤爛腿膝疼軟或口醎此
腎経虛熱・
・導赤湯 治小兒口舌生瘡糜爛痛・
茯苓 車前 生地黄 木通 甘草 灯心
水煎
・一方 治重舌大小共
師老 槿大雪 牧竜 生地黄 連翹 甘草 灯心 粟中

姜燈入水煎

・虫蠹治
細辛 芍藥 桂枝 等
小鍼 乡 奥 宮薑 粉
炙看 髭 喬一 両
文師 李 甘 楊亮 李 一両 老 乡 曾



面病 鼻病 耳病 髭須髪

・寧湯 ヨシヨウヨウ 傷寒 面ニ瘡ヲ瘢ヲ生スルヲ治

・虚症ニ曾抱 加或ハ酒煮鼻物刺抓ニ角ノ薫 抱 白芷
ル・此方ニ加龍 鼻中ニ堅物生メ痛苦スルヲ
治ス水ヲ洗ハ愈痛物也大抱軽ニハ薬ヲ塗
カ能ノ

・祛風湯 耳病之腫ヲ治ス又鳴ニ
珊 瑚 宮 龍 菊 寧 樽 苑 炙 玆ホ多
水煎 (云参用)

・久鳴テ不聾ニハ去龍苗曾定ヲ加洗ヲ
毛加テ佳・若耳久シク多少ニテ鳴難聾ニ
方鍼灸ヲ加去龍・腎虚メ不聴ニハ補腎
之剤ヲ用ヨ此症ハ稀之皆尺寒ヵ絡ニ在
故ノ楊梅瘡ニテ龍聾又久キ者ハ難治ノ・

・医貫云耳痛ハ将葱搽猫臭其

自ゝ滴内耳ゟ即出

・一渓方　耳鳴ヲ治
　菖蒲　芎藭　蒼朮　細辛　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス

・桂香散　治風虚耳聾耳
　菌宮薬　小蒼朮　宮桂　蜜丸
　星薑ヲ舒ク煎ス　葱一茎　水煮

・芎芷湯　治風入耳虚鳴
　芎藭　白芷　蔓荊子　細辛　川烏　各等分
　右為末ニシ毎服三銭　汪機　水煮

・清神散　治気上頭目不清常重不聴
　蚕女而黄　蒼朮　支宮　菖蒲　細辛　各等分
　為末毎服三銭

・九味芎湯　治肝膽経熱毒瘡瘙或耳内耳下生瘡疼痛
　羌活　防風　芎藭　細辛　川烏　白芷　蔓荊子　甘草　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・清肝散　治肝膽経熱毒瘡瘙或耳内耳下生瘡疼痛或肝経湿熱或小腸腫痛或便毒腫瘍或小腹脇股結核或肝経一切瘡瘍疼痛
　芎藭　当帰　川芎　白芍薬　山梔子　黄芩　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・梔子清肝散　感冒
　梔子　芎藭　当帰　川芎　白芍薬　山梔子　黄芩　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・一方　耳腫症痛牙緊急飲食不下寒熱作痙死在須臾
　芫花　文蛤　粉草　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・神授射干散　感冒
　射干　麻黄　細辛　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・珊瑚聖散　感冒
　珊瑚　川芎　白芷　羌活　防風　細辛　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・一方　耳中芒々トメ気悪ノ頭痛眩冒
　香蘇散　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・香蘇散　感冒　耳中芒々トメ気悪ノ頭痛眩冒
　香蘇散　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・一方　耳鳴ヲ治
　菖蒲　芎藭　蒼朮　細辛　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・桂香散　治風虚耳聾耳
　菌宮薬　小蒼朮　宮桂　蜜丸
　星薑ヲ舒ク煎ス　葱一茎　水煮

・芎芷湯　治風入耳虚鳴
　芎藭　白芷　蔓荊子　細辛　川烏　各等分
　右為末ニシ毎服三銭　汪機　水煮

・清神散　治気上頭目不清常重不聴
　蚕女而黄　蒼朮　支宮　菖蒲　細辛　各等分
　為末毎服三銭

・九味芎湯　治肝膽経熱毒瘡瘙或耳内耳下生瘡疼痛或肝経湿熱或小腸腫痛或便毒腫瘍或小腹脇股結核或肝経一切瘡瘍疼痛
　羌活　防風　芎藭　細辛　川烏　白芷　蔓荊子　甘草　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・梔子清肝散　感冒
　梔子　芎藭　当帰　川芎　白芍薬　山梔子　黄芩　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・一方　耳腫症痛牙緊急飲食不下寒熱作痙死在須臾
　芫花　文蛤　粉草　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・神授射干散　感冒
　射干　麻黄　細辛　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・珊瑚聖散　感冒
　珊瑚　川芎　白芷　羌活　防風　細辛　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・一方　耳中芒々トメ気悪ノ頭痛眩冒
　香蘇散　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・香蘇散　感冒　耳中芒々トメ気悪ノ頭痛眩冒
　香蘇散　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・一方　耳鳴ヲ治
　菖蒲　芎藭　蒼朮　細辛　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・桂香散　治風虚耳聾耳
　菌宮薬　小蒼朮　宮桂　蜜丸
　星薑ヲ舒ク煎ス　葱一茎　水煮

・芎芷湯　治風入耳虚鳴
　芎藭　白芷　蔓荊子　細辛　川烏　各等分
　右為末ニシ毎服三銭　汪機　水煮

・清神散　治気上頭目不清常重不聴
　蚕女而黄　蒼朮　支宮　菖蒲　細辛　各等分
　為末毎服三銭

・九味芎湯　治肝膽経熱毒瘡瘙或耳内耳下生瘡疼痛或肝経湿熱或小腸腫痛或便毒腫瘍或小腹脇股結核或肝経一切瘡瘍疼痛
　羌活　防風　芎藭　細辛　川烏　白芷　蔓荊子　甘草　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・梔子清肝散　感冒
　梔子　芎藭　当帰　川芎　白芍薬　山梔子　黄芩　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・一方　耳腫症痛牙緊急飲食不下寒熱作痙死在須臾
　芫花　文蛤　粉草　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・神授射干散　感冒
　射干　麻黄　細辛　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・珊瑚聖散　感冒
　珊瑚　川芎　白芷　羌活　防風　細辛　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・一方　耳中芒々トメ気悪ノ頭痛眩冒
　香蘇散　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・香蘇散　感冒　耳中芒々トメ気悪ノ頭痛眩冒
　香蘇散　各等分
　右為末ニシ毎服一銭ヲ水煎ス　葱水煮

・牽雞湯 傷寒 条下ノ婦皇之中種物有リ外科茶付テ後甚痛増シ又大腹文連 虎カ加三貼ニメ平愈スカ如シ味ハ下ス薬也李方ハ飛ノ散スル茶也飛ノ散メノイテ内ノ熱毒ノ下ス諸病此心得エ肝要也

・蜜流氣飲 諸氣 条下ノ厥聾ト云テ下ヨリ気逆上メ不聞事有此症ハ脏暈ノ物ノ是ニ必此二箕菖杯有テ別メ耳之方ヘ通ルカ故ノ菖ハ二サニ能明目耳通九竅物サレハ明鑑ニハ去髭老虎加茂菖箕下有

・通明利气湯 治虚火并リ上テ痰気爵於田者ニ横紋有痛ハ耳中ニ或閉或ハ鳴痰火熾盛ニメ憂爵痛満メ咽喉不利煩燥メ不寧

蒼朮 菊花 枸杞 薄荷 連翹 文仁 宮ハ 鬱金 梔子 黄芩 貝母 赤芍藥 防風 姜汁 蜜 水煎

・滋腎通耳湯

滑石 雷丸 薤白 辛夷 菖蒲 蘆薈 麝香 鉄粉 磁石 木通 甘草 細辛 蔥白 生地黄 当帰 川芎 白芍藥 黄柏 知母 水煎

・痰气壅メ耳不聞ニ頭ヲシクトメ痰ツカヘル二・腎虚メ耳不聞二

・聤耳通聖散

滑石 雷丸 薤白 辛夷 菖蒲 蘆薈 麝香 鉄粉 磁石 木通 甘草 細辛 蔥白 生地黄 当帰 川芎 白芍藥 黄柏 知母 水煎

莬絲子 鹿膠ノ炒 各
茯苓 蓯蓉 枸杞子 各
右煉蜜ニテ丸シ塩湯ニテ送下
・十全大補湯 産後髪抜ル上傷寒麻疹之後抜ニ用ユ



・薛立齋 痔漏並諸痔脱肛
薛氏 還定 薛氏 還定 薛氏 還定
薛氏還定湯 大抵壮実之燥熱之症ニ用ユ
忌房事 服ニ 去声 芍ノ 菊水 白芷 芎ノ
薛氏還定湯 文蛤 黄蓍 鹿髄 枸杞 粳米
地榆 甘草 水煎
・曾井仰斎 師 減半
曾氏 補脾 養 和胃 降 陽 升 清 陰 固 精 止 瀉 調 営 衛 生 血 益 気 除 煩 熱 補 中 益 気 湯
曾氏補脾益気湯 産後 労
・曾氏 補脾 養 和胃 降 陽 升 清 陰 固 精 止 瀉 調 営 衛 生 血 益 気 除 煩 熱 補 中 益 気 湯
曾氏補脾益気湯 産後ノ虚労ニ用ユ
糸下婦人痔ノ頗膿血多ク気甚草ノ肥ヘタルヲ不宜ヘキヲ多ク要ノ見ル夜
ノ不寝脈モ虚弱ニ有ル故予此方ヲ用テ治ス凡ソ法服モ如様ナル証有ル人用
ユレヌ先師渓翁主前抹モ此方ノ信セラレ用ヒヌ面皮焚方考虚損ヌ全諸虚
門ニ出ヌ
・医王 補 益 糸下脱肛ニ加ヘ走 ビシ 亦仰油ヲヌリ
妙ク・剃後気血脱シ産後老人小児或泄瀉後ニ多シ

・榛蘆 榛實五錢 同搗爛炊黃柏曲
牙茎一兩 同炒黃為末糊丸梧子大
疾者症時空心米飲下百丸平時只
服五十丸治諸下血五痔盖脾胃弃
無緣氣虛腸薄自栄衛滲入而
下服多取奇効

・苓連湯 高松 痔脫肛ヲ治
文連 内種 陳 香附 連 洗 黃蓍 老蜜 黃喬
苓 白朮 井薑 榛 辭師 水煎

・五積散 傷寒 条下患痔疾痛秘結ヲ治
二種々療治ノ止ヌル三此方ニテ治シテ
ヌリ



・秘方 痔 臌脹
鬱二兩 疔腦仁 右細末メスリヌル也

・医王 補益 条下虛倍長 健 ・痛加薑 生

・理中湯 匹吐 条下諸虫大小人共ニ蚘虫ヲ吐シ
或ハ大便ニ虫下ニ用ヒ・加法良史薫仁
余リ多服不可用

・実脾飲 治盛脹下煩渇大便溏小便ヤ
不法一切腫脹・忌塩惟四一
洗枹 強 杲仁 蜜 靈 榛 薊 半

水煎空心服

・一治 或小児吐虫又下ス亦多シ他医不治ヲ
脾痒之茶三盃ヲ加ニ粘ニヌ虫下亦大令ニ
メ止後補テ治スリ

・光散

光蓋（青皮ナシ）抱（ホウ）榛（ハシバミ）霊（レイ）仙（セン）茂（モ）蓼（リョウ）
汪（オウ）節（セツ）伍（ゴ）術（ジュツ）艾（ガイ）姜（キョウ）

・蓋散

蓋（木附子）蓼（淡香）榛（ハシバミ）冨（大腹皮）茂（蘇葉）
枹（ホウ）蓼（蓼）汪（蘇葉）梗（ニクヅク）二（各）分（ブン）術（ジュツ）

・此二方八通仙之配剤也諸之虫積諸菜不効二妙之・虫積有テ服脹ヲ自付トス・又虫積之人咳嗽朾ニテ積聚又腹脹何共知又二吉・俄ニ耳不聞匆月ツカヘ不食スル八積ノ此方佳也



・飯匙湯（補益）　条下僧尼儒者朾思相不叶用陰虚火動劇不可用　加蓼　姜棗水煎

・奇効丸　師傳多取効改予名之

牡蛎一味　煅為末糊丸小豆大

・小建中湯（傷寒）　条下加霊（ホウ）　治風寒客于陰（下文）

遺者（上）

・養心湯　常ニ精ヲ尽シ心腎ノ志カ疲シ常ニ精之漏ヲ治ス

辰（ホウ）遠（遠志）酸（酸棗）連（茨実）　蓮蕊　閉（天門冬）梗（桔梗）
車（車前）蘚（龍骨）　師半減　右燈心三十寸水煎

・固腎湯　房室過テ常ニ精之漏ヲ治ス

菟（菟絲）茱（山茱）萸（同）　杜（杜）仲（同）　蓯（蓯）蓉（同）
鹿（鹿）角（同）膠（同）　右水煎

・清心湯　屡々遺ヲ治ス又僧尼儒者ニ多有

り餘補某之不合ノ
連髄薢噌遠免酸蓮汁師半減



消渇之症有三曰上消曰中消曰下消腎
腎々水虚メ津液不生太雅治仲景八
味丸后世不承其意以方中有附子肉桂非
燥熱所宜六味丸易之非也其説詳具
方考故今略之中消胃熱脾陰虚参
冬白木散加鼈或人参白虎湯主之上
消膀胱有邪熱津液不潤肺故只湯不
消五苓散木附湯主之

・五苓散　治上消渇多飲水
茵蔯蒿抱朴猪半減　水煎

・人参白虎湯　治中消多食多飲兼虚
知母石膏多白米一升　水煎

・調胃養気湯　治中消実熱者
芒硝半升　甘草二両　虎杖四両



癲狂　黄疸　虚労　産婦人　座　小児痘　消渇之飲　腎臓　眼病　瘡疥　健忘　小便　中風　孔竅　口舌　歯　咽喉　痔疾　婦人　陰門　大小便不通　遺尿　小便不禁　遺精　精気　咽喉梅核　労咳　嘔吐　心胸　胃脘　痰飲　中風　中気　中悪　卒倒　中暑　霍乱　吐血　衄血　下血　大便秘結

右三味以水三升煮取二升去滓内芒硝更
煮両沸頓服

・八味丸　治下消多食飲水小便・亦虚症腎水
乾干食ヲ消シ水抹ヲ飲ス必用
髄八両　薯蕷　茱萸両　蒴藋雷丸各一両
右煉蜜丸服

・補陰湯　治腎水虚常多飲食
肉纵　枸杞　鍼半夏　右水煎

・五苓散　水腫　余下二首酔抹ニテ咽之湯ニ必用ソ
葛花　芎　杯ハ悪ソ

・文湯　脾胃強メ上焦之熱実シ渇シ食ヲ
文蛤　大分喰ニ用
文　栝蔞　枯　瓜蒂　鼓　葛根　芎　藭　茯苓　葛　雪　粉　右
娠ニ多　水煮食後服

・銭氏白术散　泄瀉　余下脾胃虚メ消渇ニ用ソ
参　苓　抱　散　痢　疾　余下脾胃虚メ消渇ニ用ソ

## 〇五十眼目

・龍湯　眼目赤腫テ痛不開用寒涼劑作用又ヤミメニ佳也

龍宇　菌　薑　女　蘭　薛　宮　弥　師　サ

姜水煎

・菊花湯　内障外障共ニ加減メ用久敷難治目ニ用ヨ又眼目之書ヲ考可療

女　宮　髓　鍼　連　揖　万

師　減　水煎

・陽気衰工虚ナル八髄走長噌　抱　加テ云連

・陰虚之症ニ抱　抱子　粤　加ユ名症ニ因テ可ニ加減

・一治小児疳目之茶方五ヶ斑之下ニ出ス猫家傳目之書ヲ考見可治

・滋腎明目湯　治労神腎虚血ス眼痛

・右劉齊細茶一撮　薛　宮　疏　髄　鍼　大　揖　薑　万　女　中　師　小

燈心一團水煎食後服又ハ細末メ或茶清或湯下・狹ル時ハ加陵　茆　腎虚加房　雷　風狹ル薑ニ盛加　珊　薑　五・一

加走ル・眼病之後微有上狹ル白睛紅多胞淚無疼痛而瘡瘢開此苦寒茶不過而真気不能通九竅也故眼目昏花不明

・医王　補　益　条下去薑　曽　抱加　珊　薑　五・一

眼目昏暗用六味丸加枸　薛　ル・一儒曰補両目

紫淡不能瞻視此元気下陥用医王倍曽長数齊愈・目赤不明眠祛風散茶狹ル

畏明重聽脈大而虚此目労心過度飲食失節以医王加免酸狹茶頻愈

・瑚通聖散中風　条下男婦実症ニメ目病或ヤス

三或八外障ヤリ別ニ余症ナク実症ト見ヘラ
八此方可与数貼
・敗毒散 感冒 条下風眼三ヲ内ニ赤筋多ク吉是膿
痛ニ加ニ黄ヲ吉或八文連計モ加ヘ用ソ・一婦
風眼身壮熱頭痛自汗甚シク臍上有塊
不進食諸医止汗ト云不止日々ニ痩ル加芠治
メリ・凡眼身壮熱頭痛自汗甚臍上塊ア
リ上下左右如伏梁食不進諸医止汗ヲ汗
不止日々ツカレヌ全ク此方ニ加花文用ヲ平復
又是秘中ノ秘ニ・或人之曰世間之内障ト云目
ニ妙ニ其時八霊ヲ去ク・四十余歳之男六月
下旬眼赤ク無余色両眉之間如割脉浮
大弦数ヲ此方ニ加蕎麦三貼ニメ平安ス・眼目膿
痛ニ因テ風寒ニ所感者也加防黄勉銭或
霊噌珊之

・芫宮湯
芫 前胡 枳殻 芎 芍薬 特薬 麻 苓 桂 甘 芍 当帰 地黄 芎 麻 苓 甘
芫 瀬 楫 曽 文 虜 仁 薛 銭 仁 寧
芫 三 黄 宮 三 師 艾
・此方八凡眼頭痛ニ吉又九文ニ三黄合テモ
良・眼ニ血多メヨリテカスミ膣痛ニ良・ウワ
ヒカヘリメ久ニモ常ノ頭風ニモ
・龍膽瀉肝湯 麻症 条下一男患風眼血大ニヨミ痛
不可忍ニ加芫小黄兼用テ大ニ有効
・一方 治風眼血目何之目ニ妙ノ
薛宮 鍼 髄 文連 虎 雞 芫 仁 髭
喬 寧 六 長 師 二 多
・洗薬竹 何之目ニモ佳也
文連 房 仁 礎 膏 五 樟 脳 ニ 多
水一盃入七分ニ煎洗
・洗薬 何之目モ

連文房黄芩 梔子 黄連 大黄 各等分 細末 蜜丸 梧子大 三十丸 白湯 或煎湯 食後 服之

・一方 ヤミ目 蠐螬 杏仁 荷葉 花ホト葱一寸 入 搗ヒ、汁又煎ス 三三沸 熨洗

・掛茶 血目ヌミ目ヤリ肩目或ヤリ物 蠐螬 杏仁 荷葉 花ホト葱一寸 入 搗ヒ、汁又煎ス 三三沸 熨洗

・掛茶 血目ヤミメ息目星目メシメ何目ニモ 爐石 各焼ホト分 童便ニヒタシ 煉 蠐螬 杏仁 液細 爐石 各焼 辰砂 各等分 細末 蜜丸 梧子大 三十丸 白湯 或煎湯 食後 服之

・薑散 目痛ヤメウツクニ 荻黄 薄荷葉 前胡 女 鉄屑 老 小文蛤三連 甘草 炙 茂ト 師ナ 水煎

・宮湯 血ヨリ目瞳痛ニ 宮寧 薄荷 鉄嚢 為末 雞各二両 髄二両 霊ト 分 末 蜜丸 梧子大 三十丸 白湯 或煎湯 食後 服之



・降気寧神丸 治狂病初発久不寛進退 言語不正 汪ト 連糕 滕ト 辰砂 師ナ 三分 水煎

・養血清心湯 諸病人此方与之 嚢 枹 霊遠 酸棗 宮 髄 磁石 萬 昆布 薄荷 糕 滕ト 師ナ 水煎

・加味逍遙散 主 婦人産後或離別之後乱気言語不正 用不治連浮心湯ヲ与ヨ 薄荷 鉄嚢 枹 霊 芫 髄 遠志 去心 桃仁 泰ト 方 離ト 師ナ 水煎

・連浮心湯 狂ノ治言乱万事之乱ノ時早用之 連 汪 滕ト 師ナ 水煎

・朱砂安神丸・安神丸・天王補心丹 同餘ノ三方 男子ヲ 之

・珊通聖散 中風 条下狂病多ハ皆風痰ニ可用

・解毒湯 三焦ノ宿火痰ニ可用

連翹 麦門冬 柏子

・髭定湯・治肉恐懼茂痼病癇癎痰涎有竜肉多ハ白睛強項背ニ時許脉況微ニメ急ニ醒テ後莫見阜衣人即チ茂スタタク服犀角脳ノ鎮墜之茶已ニ年餘リ此ノ証尚ヲ有リ又添行歩動作ニ神思如常先灸両蹻各三七壮次ニ服此茶

羚羊角 沈香 髭 益智 宮仁 李仁 鴻珊 汪走 天麻 附子 白蒺藜

定狂 薛蚕 粉師 艾

・此方ハ癇痼之壊症之方ノ壊症トハ癇痼ハ痰ヨリ生ル物ノ安神先用ル之証ノ東垣以来用ル心・此方ハ温補温陽之剤ニ・灸脹ニ不勃



真ニハ人参 吉先吉・痼ニハ清心道寸痰湯吉此方ハ癇痼之ニセ用痰火崩火ヲ退クカ・此方之症ハ足カラ冷上ル上ト思時小腹ヨリ物カ匆ヘコミ上ル其ヨリ胸カタクくトシトリ胸カツキ或胸塞リ苦ク心況ミ気遠ク成イカニモ心ボソノ成今知死カト思也深井ヘ陥入様ニ心遠ク気況ミ心胸キヤくトメ内心苦クシヒ立様ニナル又ホット狭気指ノ頃大陽之経強リ肩ラサス物ノ奴頭重ノ項ヨリ頭ヲ目之上ヘヒキカケ物ヲオモヒキスル様ニメ目ノ上重クナルく奴上重ノ下軽クフラくトス毎車ニ乗カ如シ奴此症ニ宗ラビヘ有物ノヤイラントスル件ヒツクリト驚クく是肝要ノ奴此ノ頃バタ分食ヲソケシハ胸キヤくトメ弥服ニ無労食

急又ル物ノ又食急ニセサルモ有奴疾ル時ハ小便清ク醒々ル時ハ結白濁ル之理ハ下之氣悉ク上ル故ク奴宝鑑ニ脈沉強數ニ用ト有然ル種々療治メ不治ハ動數有ル時ニ用ヒ難シ此方ニテ動數モ退ノ愈ル時ハ動數有ニ用ヒ難シ然ル時ハ結勻吉ノ理ニ厥逆ス又故ク・奴此方ノ症之脈ハ多分ハ右之寸関耗テ左ノ寸関弦ニ成物ノ此理ハ風火之類ト火ト心肝之病ナレハ心肝之風ハ肝火ハ心之今火克金木克土ト苑又故ニ金土ノ部右之寸関滅ス心肝火木ノ部左リ寸関弦実ク奴夜之不寐ノ補時ニ虚焚指香ノ大暑石之症有俄ニ腎水杯ヲツカイ過シタル人煩物ノ・奴大暑此症ハ男ハ下血下ル妻多ク女ハ産後ニ能此症有物ノ畢竟ハ血脫之跡ニ右ノ様ナル症並ス又物ノ此方吉若三四貼モ用ヒ不治ニハ十五味用テ可シ女ノ血之道ト云ニ此症大暑有ルノ能可尋ヒ・奴此方之症ニテ脈浮メ無力虚シタル二ハ汪抱定湯脈モ強実ニテ宍症有ハ満心導痰トヨキノ・此方用同汪抱定湯ノ用ル吉又養症茶ト云ハ汪抱定湯吉ノ此方ハヒツツケ久ハ難用假ハ三日此方用ハ二日汪抱定湯ヲ用ル右記ス処之症アラハシタル病人何之病ト問ハ心腎ノ虚又ハ風疾々火之煩ト云カ吉ノ・此症ニ能虫充物ノ故ニ楝根洗ナト加テ用又疝気之症ニ似タル事モ有又本ヤ病気ト思ヒ用テ吉又此方ニ六味之配ヲ合メ用テモ吉又六味計モ吉又針治吉右之如ク此方之症備テ疝気之如ク成ニ右云ル此ノ方之症ヲ見メ余リ出サルモ有・此症面加味四君子湯之症ト云ルニ似タリ

キニメ匊ンヤト心カ月付ン・此方之病人十之物ハ
七八能メ少ク残ル者ノ其ニハ射香丸ノ三丸朝
コト用テ吉ノ残ル三虫ニ心ソイメカル者ノ其症ハ
虫胶ニ動ク之ヌ有或ハ両脇ニ虫動ク之ヲ覚ヱ
ル人ノ惣メニ三年モ蹉定一之症ハナシラスハキ
ル元キ物ノ右之丸薬ノ用モ軽クナル物ノ
・婦人月水十ケ月不来常ニ悪寒、脚膝痺メ
食ヌメ易浮心サワキメ時匊痛ム香砂羹
胃湯加薜宮鍼髄節後心中悸動茂メ即
悪寒シ皮膚毛立テ欠伸ス此方ノ用安シ・
二十歳女中中気不知之手足冷食ス之頃ク之メ
醒上気、目赤ク脊拘急拘痛逼迫ス此方ニテ
治メリ・十六歳男子風発之症三十日今俄ニ昏
冒メ不知人暫ク醒心中苦悶痛ヌ有脉伏ル
此方ニ貼ニメ安シ

・汪袍定湯頭痛脈モ弦ヌヌ大ヌ症十九ニ又此症ニ大復
燥ヲ結ス之事モ清心導水痰湯吉故ハ火元ノ子細
也又此方ニ鼻ノ文ヲ加テモ吉・婦人中毒吐血之後一
身ニ斑出ニテ発則急寒茂発メ不知人此方用
コト十貼ニメ安・婦人気労肯膵痛ミ労弦頭
痛必ス心悸茂ス牛ハ則手足痿弱ヒ憊如解
虫積多年心胶ニ有之此方ノ用右脇堅積悪
心亦心悸是ク悪寒内煩此方加害光安シ
・清心柳胆湯・心ノ清シ胆ノサスルト云名儀ニ平
肝解労附清次化痰除脇暈諸痾之痰一
辟洞茹菖連薑仁閉宮噌遠
卵姿師ナ 姜水煎
・此方ハ気血虚メ羨痰火脇暈又痾症ニ吉
又痰ノ実症ニハ白脇暈門之清暈化痰湯吉
・此方症少胶浮又事有ル二ハ汪袍定湯佳之

## 一五三 黄疸

・四苓散　太祇之黄疸用
枹(木)　瀉(沢)　白朮(甘)　茵蔯(苦)　水煎
・加減可之或枝液(滑)　粳(稍)　師(日)　瀉

・大黄湯　大宗之症二用
虎杖(大黄)　茵蔯(蒿)　梔(梔)　粳(粳)　滑石(滑)　師(日)　瀉
右灯心一團入水煎

・走理中湯
加走(減)　茵蔯(蒿)　大(大)　水煎

・六君子湯(補益)　虚症者用

・清熱除湿湯　治發黄疸身口俱黄如金色小便如濃煮房汁(醤汁)　諸菜不効
連翹(連翹)　梔(梔子)　茵蔯(蒿)　猪苓(猪苓)　澤瀉(沢瀉)　蒼朮(蒼朮)　黄連(黄連)　光(青皮)　陵(枳殻)　処加味
茂琴(陳皮)　當歸(当帰)　蚕砂(蚕砂)　曲(神麹)　水煎



・茵蔯五令散　治黄疸專屬湿熱
茵蔯(蒿)　枹(梔)　粳(粳)　猪苓(猪苓)　瀉(沢)　蒼朮(蒼朮)　猪(猪苓)　苓(茯苓)　滑石(滑)　師(日)　薑(生姜)　湯水煎

・便実加寛(ジンカウホカンヲクハフ)　月睛黄倍(陰)虚弱如(ジョ)曽(カツ)

・茵蔯連翹(連翹)　支(梔子)　房(醤汁)　粳(粳)　師(日)　薑(生姜)　湯水煎

左五三　虚労

・滋陰降火湯・治陰虚火動シ發咳嗽吐痰喘急盗汗口乾亦陰虚火動ノ發咳嗽ニ苦ミ動キ攻上リ口乾盗汗モ少ミ素痩実之者脾胃強ニ用ノ症ニテ曲ノ如減ノ考テ可用若ヤニテモ大便硬ノ乾カサル亦少不用ノ大便ユルシハ早死ルソ

薛（方）鍼（一）齋（八）髄（黄）丸（一）芎（川）歸（一）芍（藥）茯（苓）苓（一）貝（母）雷（丸）師（曰）參（一）姜（水煎）

・此方ハ陰虚火動労癆之主方ノ此方之脈八洪大或細数ノ細ト大ト八陰虚火動ノ充証之脈之又数ニメ充方筋ヒツ八ル八脈弦ノ・医王之脈ノ内ニテ八大ハ發之脈ノ替以前ニ記ノ医王之脈ノ内ニテ八数カ發ノ・陰虚火動ノ此方之症八午後ニ潮發又盗汗咳嗽大便結シ小便赤ノ大方也濁ル者ノ委ハ面ニ有・此方之症ハ初ハ咳嗽ニ似タル故ニ他人不知浮白散林ノ茶ヲ用ルノ又ハ初感冒咳ノ症ニテソノマヽ此症ニ成行此方之症ニテルノ大敵咳嗽トニキルノ又此方之症ニ多ク藪飲用テ吾妻有ハ叔割トテヨヒヤウス茶ノ匁林苦クハ猶以ノ妻ノ・此方之症ハ秋冬ノ之冷ト同事ナル二依テ顔色イヤニモ物凄クセリクトシメル眼ツキアサマシク物悲キ体也医王ノ眼付ハ皆タリ医王ノハイヤニモウツカリトメ眼ニ充精能見分テ可合点ノ・此方之症ト医王ノ症ト症見レタラハ二方合メ可用・此方之症ニ似テ咳嗽ル二東垣浮白散亦ハ参ノ木調中湯林用ルモ又有能見分テ用ルノ私ニ思ニ此方久々咳嗽ニ佳ナラント思ソ

金曰茎林ハ非気有ル内ニハ悪ト能毒ニモ有

ト云リ然ル間ニ参朮調中湯内噛ハ手大陰
肺経ニ入テ火ト土ノ二ニ依テ噛ヲ去リ汝ヲ加テ
肺ヲ滑メ燥サセニジキ為ニ委ハ参ノ鼓飲之
下ニモ載メリ此ノ義可見・此方之症ニ漿強
有ハ六黄湯吉六黄湯ハ降火湯ヨリ切々用
ル支ダシ但茶味ヲ能見テ可合点六黄ノ
ニテモ雅云ハ降火ノ解毒湯ヲ合メ用支有
リ・此方之症ニ結匀返テ胶下事有其特ハ此
清閑滋坎湯之次ニ有ル清離滋坎湯佳ニ則方、
薛鍠(ス)髄(中)沈(中)関(中)枹(中)房(小)師(中)霊(中)
玻茶(山茶)栝蒌(甘草)薤(汝)

姜水煎

平用テ切々得効此方ト六味丸ト合メル者ノ
・又泄瀉強ハ参苓枹蔵之症ニ・疼嗽喘熱
メ泄瀉スルハ脾肺之煩ニ参ノ朮調中湯之症ニ
・此方ノ症ニ虫上リ匆ツカヘ咳嗽有ハ七味湯加

脾湯ニテ切々吉吉又有脉ノ数動ヲ引者ニ
・積有テ此方之症ヲ見サハ面積聚門大七
気湯ノ茶味不残此方ニ加テ可用或ハ医王
之症与積混メ見ルニハ医王ニ大七気湯ヲ加モ可
ニ・降火湯之脉ハ細数力月付ニ・脾弱ニハ肾之
虚ト見メリ先此方ヲ不可用寒剤故ニ脾ヲ傷
リ脹満スル心ニ真シハ医王ニ合メ可用又清狄
湯ノ用支モ有・白濁此方痩人赤白濁ハ是
虚火ニ加枹草膝(ヒツ)奥(ノ)蓄(シテ)去鍼吉・此方ニ加茯奥(ノ)
痩スル人肥スル人男女共ニ虚熱薫漆尿サニ
吉・素弱之人陰虚火動メ小便不通用利水
茶不効者積痰、在肺々ハ為上膀胱ハ為下ス
蓋シ上焦閉ル則下焦塞ル誠ニ如滴水ノ器上
竅通メ下竅之水ヲニル之其時ハ升提ス(ル)可ニ
医王ノ類是也

・補肺湯　労咳二テ脾胃弱メ補薬ノ剤カ不
虚　用ニ与ソ喘甘二テ咳カ少ミト思ニジキソ
　枸杞　参門去味　曾肉　茎酸　強師　遠　水煎
・右百症ハ他医ハ固王異幼散ニテ六味ヲ下ソ此
　モ悪ソ
虚
・十全味建中湯　血気不足ニ羸痩短気嗜卧飲食労
　瘵　薛鍼　芍　枸肉長師　曾宮　菌走霊
　汪　茯苓　姜棗ニ水煎
虚
・洞飲子　治婦人手足五心熱ク夜卧多ク汗肌
　肉黄痩経候不調四支煩倦心胸悶状
　如労気　洞汪汪　鍼　芍　茯苓　姜棗水煎
・左右脇筋挛急久シク愈ス用ル可シ
虚
・七味清脾湯　癆労瘵之候ニ病ニ必用ル歟然有
　テ瘧ニ似ニテ咳シ出ヒ有ト見メハ此方佳
　ク

虚
・小建中湯　菌桂　菌ニ炙ニ大棗ニ十二枚　鍼六両　膠飴伴
　石六味以水七升煮テ取三升去滓内膠飴更
　上微火消温服一升日三服・加長痛テ長
　建中湯ト云・主虚労裏急諸不足・気短
　胸満者加蓽・脇満者去棗ニ加霊一両半・補気　汪
　ニ両ヲ加
・人参養栄湯・治積労虚損四支倦怠肌肉
虚　消痩メ而女シ顔色没々短気飲食無味
　噌　薛鬱　長　菌　枸仁　鍼仁　髄霊
　茎鞕　遠　紅　師　姜三片棗三枚水煎
・此方ハ固王之裏也固王ハ気虚衰奪メ有汗
　二佳ク此方ハ血虚メ衰奪人有汗二佳ク虚損
　二事ヲ用ク・気血虚損体草卧煩熱汗

有テ胸サワキシ不能寝等之症ニ用ス・此
方十全大補湯ニ去宮加黄芩遠志大棗ヲ加ヘ
方シ鍼大ニシメルハ表ヲ収斂メ汗ヲ止シメメシ表
ヲ収斂メ汗止ル方ニ・畢竟虚損ニ専ラ用シ
死竟ヲ茶ニテ便ノ虚損ニ専ラ用シ

虚
・霊補心湯・由婦之虚労門ニ治婦人以血肚ニ気
衰多ク心主忘肝ニ藏血今血衰テ気盛ナル
者由忘気虚耗不能生血又不能制乎肺金便
肺気得以乗乎母木肝木之虧損則不能藏血
漸至枯涸不栄経絡故ニ月信不調矣此菜専
補心元之虚抑其肺気之盛ニ調和栄衛滋養良
血脉其疾自ヲ愈ス治ル盛過ノ邪ヲ攻テ治ル虚
労ニ攻及ニ吐血衄血咳嗽痰涎上盛胸膈不利
辞宮鍼髄霧汪霊楫老前明上林校
雞舒紅蜜噌伍師艾

・是ハ咳嗽潮熱火無汗之方ニシテ虚労ノ脱々ニサス熱
ニ吾ノ大成命之気門耗散真気ニ調其経ト云ヨ
リ建立之方ノ専ラ婦人ニ用・不分男婦心気不
足メ血ヲ生ス化ス不成黄色ニ痩テ五心ニ熱有
テ或咳嗽之有ル二用時々発カサイテ口乾キ
抔ス之ニ用逍遥散ト表裏之剤ノ總メ胸ソト
ル二吾補心ト銘ヲ打テ有・参蘇ト四物ト合メ
ル方ノ内ニ血物有ル故ニ吐血潮発胃サワキ二吾
参蘇有ル故ニ咳嗽吐血無汗潮発有ルノ方
ニ咳ノ後ニ必有者ノ・血虚メ胃之ヲトル二吾補
心故ノ久嗽メ後必ス有ル者ソ又血虚メ白ノカ
クニモ吾又血虚メ婦人ツワリスル二吾・逍遥散
ハ補心湯裏也気血共ニ虚シ汗有ニ用ニ・婦人
胎乃子又ハ胎乃子ニ非ス共不食吐逆抔スル二吾・
劉尚書寵夫人有乃子患悪阻嘔吐不止飲食

不下心中煩悶メ頭目眩暈諸医以和解胃之薬或二陳或胃正俾生散之類ヲ以テ遍投無驗予診脈左微三メ気口猶数此血虚シ気ハ盛ニメ火ヲ乞ク若不艱血則火不降火不降則呃吐不止以此湯加入姜汁ヲ以連茹三貼ニメ而安

・私曰先師用此方ニ去髄加薑是秘意也

虚
・滋陰至宝湯・治婦人諸虚百損シ五労七傷経脈不調肢体羸瘦ヲ此薬專調経水滋血脈補虚労扶元気健脾胃艱心肺潤咽喉清頭目定心慌安神魄退潮熱除骨蒸止喘嗽化痰涎収盗汗住泄浮開胃気利胸膈療肢痛解煩渇散寒熱ノ社体疾大三有奇効不能尽述

薤白（ニラ）　枸杞（クコ）　鍼霊雷貝（ハマグリ）　蓍籤（メドギ）　芍薬　五加　茯苓　菟絲子（ネナシカヅラ）　姜二片水煎

・此方八逍遥散ノ加減方ニ逍遥散抔用テ不効寒熱抔有ニ逍遥散ニ加減用度ト思時此方ヲ用ユ・神労シ腎虚血ヲ乞ク腰痛ニ佳

虚
・逍遥散・治肝脾血虚労熱ヲ或自汗盗汗或頭痛目渋或ハ怔忡不寧顔赤ク口乾キ或ハ月経不調或肚腹作痛或小腹（ホカミ）重墜水道渋痛ニ或腫痛ニ臍内熱ヲ作

薄荷（ハッカ）　薤（ラッキョウ）　鍼霊（又名イ）　師（サトウ）　姜

・気血両虚労熱有汗ニ此方吉・驚悸尋常ニ疾火ニ熱ニ気虚者宜清疾火ニ虚補之方ニ虚労熱有汗者此方吉此方ニ加沈離泰方遠加味逍遥散ト名ク婦人癲疾歌唱無時垣ヲコヘ屋ニ上ル物ヲ乃栄血迷乎心包乖致此方可シ・二十歳婦産後二十余日之後微

發汗性未咀乾キ汗多クメク大便ヤヽシク泥ヽ小
便黄ミ脉五動皆此方用テ佳ク・中年婦
人頭痛微發腹亦痛此方ニ加薑安治日
此配劑專ラ逍遙散之症ノ若此症ニ脉カアラ
ハ靈補心湯天香湯五積散四物調經湯之類
ノ此証ハ房方ニ云發入血室之症ノ方中之芫
血發ツヨシ又小芫湯ニ加茵蔯テモ用然モ小芫
湯ハアミリ早シ故ニ先此方ヲ用次ニ小芫湯吉
也



・參朮養榮湯　治一切痓病又痓ノ後保養之
茶良
良　噌　薛　宮　鍵　茎　枹　靈　靈　狩　師
姜水煎
・剛痓無汗身發面赤脉緊加珊屬芫文葛去泡
・柔痓有汗身不發手足冷脉沈細加走屬・
身發煩渇脉數加陶雷芫文葛去宮泡・身
發飽悶氣急生痰加秋治洞文得芫矾簸姜
汁去噌泡髓宮・身發煩渇口禁咬牙手足攣
急大便不通加洞鬼芫文棒去噌泡宮靈・風痓
痓加屬珊治洞楨文簸姜汁去噌泡髓・破傷
風痓蚕全珊屬星治洞文得簸姜汁加噌泡
髓去・汗吐涎多發痓者倍噌泡薛髓加黄屬
・汗多ノ加文去宮

## 五五　健忘怔忡

・治生飯腥湯　治思慮過制労傷心脾一健忘征忡上・怔忡去龍肉加菌桂　枕神　抱霊龍肉　遠志　茯神　師紅　姜棗ニ水煎ス

・浮心湯　治心火尅上逆不眠健忘怔忡驚悸　茯神　広木　麦冬　遠志　菖蒲　連翹　汪師五銖　菌桂　多曽多　水煎

・妙香散　治男婦心気不足精神恍惚虚煩　広木　麦冬　遠志　菖蒲　連翹　汪師五銖　菌桂　多曽多　水煎

・養血清火湯　治心火躁動ス怔忡　広木　麦冬　遠志　菖蒲　連翹　汪師五銖　菌桂　多曽多　水煎

・右為末白蜜ニ丸温酒ニ三十丸時送下

・治思慮過制労傷心脾一健忘征忡驚悸　広木　麦冬　遠志　菖蒲　連翹　汪師五銖　菌桂　多曽多　水煎　婦人怒火之起ル症加竜骨　酸棗仁　曽五銖　木香　蜜丸

・右為末白蜜ニ丸温酒ニ三十丸時送下

・治生飯腥湯　治思慮過制労傷心脾一健忘征忡　茯神　広木　遠志　菖蒲　連翹　汪師五銖　姜三片　水煎

五六 非宗

・飯脚湯 虚勞 孤悪ノ症ヲ兼ル人ニ用ユ

ソ

・茯神散 此方ハ治婦人ノ妄リニ百ノ鬼言語雑乱セ或ハ孤ト数度會合メ其後乱心大キニ右之方ヲ用テ忽チ有効

靈曾菖仁 兎絲子 小豆 五ノ

・脉ヲ心見ハ中関ノミナキヲ以可知



・加味五香湯 沈香 木香 乳香 麩蜜 乳香 蕾香 木香 外諸 葛根 陳麹 大棗 雞 乾一 支 虎

疘

・此方ハ本五香湯ト升麻雞湯ト合メ乾支虎加ヘ用ル事モ有又五香乾湯之軽キ者ノ故ニ瘡腫物ニ吉ノ小児ニ專ラ用ノ・小児瘡深キトハ云ニ吉或甲瘡或ハ一身ニ瘡沢山ニ有テ痛痒スル子ニ灸メモ振テモ用・故此加味五香湯ニ方ハ何ノ昏ニ有ルモ不知今私ニ按ニ麩ハ気ヲ養ヒ温湿ヲ祛ス升麻痺スルヲ治蜜ハ冷ノ虫積ヲ治メ而脾胃ヲ之気ヲ盛ニシ敬ニ滞気気鬱メ不達達ヌレハ右ノ二味ヲ以腫物府之中ハ気不行故ニ気メ経ニ有風湿順気ノ故ニ散スルノ乳ハ子ブト瘡腫物

ヲ能除キ気ヲ下メ痛止活死血消瘡毒ヲ
先吐逆ヲモ止ノ高ハ能虫ヲ治メ脾胃之気ヲ盛
ニシ風痰ヲ去テ吐逆ヲ止ル物ノ等ハ解表敵ニ
風湿脾胃之気ヲ解メ吐吐ヲ止テ食ヲ進ム
ル物ノ脾胃之気ヲ醒ス醒ト云ハ熱気ヲ醒ス醒ト云ハ不
有脾胃ヲスヤヤカニスル意ノ寧ハ入陽明之経ニ
解肌肉之門風熱ヲ散ス化者ノ
雞ハ解肌発表醒熱消シ酒毒胸膈煩熱
汁胃気故ニ肉ノ間之解瘡毒痘瘡雖ヤ、
ヲ能クヤスンヲ以テ可知竟ハ痘疱瘡癘
瘡悪瘡ノ拂膿止痛心疾客熱五淋小便
不通鉄ハ和血脈瘡瞳痘瘡血熱ヲ去用ヒ
吉茶ノ右之血熱ヲ醒清メ身十二経
雑ハ解肌発表醒熱消シ酒毒胸膈煩熱
汁胃気故ニ肉ノ間之解瘡毒痘瘡雖ヤ、
ヲ能クヤスンヲ以テ可知竟ハ痘疱瘡癘
瘡悪瘡ノ拂膿止痛心疾客熱五淋小便
不通鉄ハ和血脈瘡瞳痘瘡血熱ヲ去用ヒ
吉茶ノ右之血熱ヲ醒清メ身十二経
（イタキヨクル）
ヲ潔ノ和血気故ニ瘡外ニ出ル毒ヲ内ヨリ消
スル茶ノ奴支ハ通利九竅血脈関節瘡

痛ニ胸中之熱ヲ物ヲ焦熱ヲ下レ下ハ小
腸膀胱ニテ之火熱ヲ小便ヨリ通ルノ虎
ハ諸ノ実熱ヲ下シ血ヲ行メヤセ杯メ滞リ風
湿客肌肉ニ滞テ不散熱ヲ遂ニ為瘡節已ニ
成リ近辺之為膿熱毒愈彩メル因有ヲ
下シ彼之実熱下スニ依テ尤早余之血モ又
彼シ半行ル血肉モ清潔ニナルノ右之二味ハ
又熱毒ヲ下利スル茶ノ・需安ハ此方連光
師ヲ加テ遺ルヽ之連ハ心火ヲ清メ熱ノ虫ヲ
治ス常ニ用シハ瘡腫物ト痘疫之難ヲニヌ
カルトシ光ハ痒ノ虫積ヲ治メ驚風ニ吉シ肝
之大過ヲ平クルノ師和諸茶補胃気ニ茶モ
瘡腫物ト有ハ食ニ無味痩裏ヲ香ノ師ヲ
以食ヲ進メ気ヲ強クスルノ・升麻雞湯之
方中ニ有故ニ表気ヲメクラメ瘡ニ吉ノ・此

・方ハ瘡瘡杯ノ餘毒ヲ治スルノ瘡後之
アレウシト云テ此假ヨノ節々之腫痛之杯用
方ノ畢竟五香煎湯之輕劑ノ小兒計テモ
ナノ猶大人三ヶ子ブト無名瘡又瘡深ニ用
吉又蔡此方ニ當ヲ加吉ソ

・十六味流気飲

薤白 芎 芍 芷 香附子 枳殻 桂 朴 陳 木香 檳榔 槟榔 丁香 烏薬 甘草 生姜 大棗

・治乳岩乳癌如光又治瘡疫餘毒癌瘤
気腫之方ヒ・扱気腫トハ三四年モ有テサノミ
膿不出、黄汁計出ル之ヲ云ヒ是気之滞也
血腫トハウミツブレ膿血ニ成テ多血出ルヲ云
ニ切之無名之腫毒ヲ治スルノ・婦人乳核トモ
テ乳房之内ニ碁石様成者有ニ吉是痛キ
者ノ乳岩ナラハ難治・瘡之餘教文余毒作

腫痛ヲ治ス瘡愈後必スアレウシトモテ手足
杯ニ腫物デクルノ此方吉或消毒飲加釜用
テ可ヒ傳ニ瘡疫余毒之恐ニ軽キハ消毒飲又
重ハ此方酒炒之虎杖用ルト有消毒飲方ハ
粳仁黄芩師翅狂是也・或人杓咽痛後ハ頸
筋工上リ寒熱往来ス曲之方色々用ヒ先不
効此方ニテ治タリ・此方瘰癧ニ吉ソ瘰癧ニ
ハ必寒熱有香ノ・或人久ノ胸痛テ後ヤシ
腫上リテ此假ヨ走注シ痛ミ他方種々用テ
不治是気痛ト思テ此方ヲ手ヘ治メリ・或人
目ヲ久ク煩イ疼痛シ日星ヤメル二用テ治タリ
免角気ノ煩シタラハ可然ト思ニ用タノ丈目
ノ煩ト云者ハ逆気有テ血モ隨テ煩ノ故ニ気
ヲ入煩シタラハ能ハスノ気煩スレハ血モ煩スルノ・
或人目腫痛ミ膿ヲタル二用テ治メリ畢竟

八須気之方也・乳岩乳癌ニ光ヲ加工便ノ婦
人ニ有香ノ症ハ乳房ノ内ニ碁石之様成ル
物有テ甚々痛ム者ノ此方ニ光ヲ加ヘ用十全
之有効余方ニハ難治ノ後ニ甘ヲメ乳岩ト
云者ニ成ノ光ヲ加ヘ用ル支ハ光ハ入厥陰経ニ
疎厥陰之滞ル也乳ハ属ニ厥陰之支故ニ以光入厥
陰経諸薬治スルノ次ニ乳岩乳癌ニ成故ヲ云
ン平傳ニ曰因ニ乳毋不ニ調養ニ而致也蓋乳
毋ハ陽明属ス乳頭ヲハ厥陰ニ取属ス厥陰之気不行
営衛閉シ遇ニ厚味ニ而醸ス以取致ニ厥陰之支ニ故ニ以光入厥
故ニ窒閉メ不通陽明之血沸騰故ニ热ヲ甚ク
メ化メ膿トナル或ハ因テ取乳之子腸胃疾滞
リ含乳而腫リ口気燃热ヲ甚メ取致成結核ノ
杓メ便忍疾、令寝軟吃ス令ニ汗透ニ可敢不ニ治ヲ
則結成矣ニ以ニ艾而後或為ニ乳癌ニ

・五香煮湯・治ニ悪毒瘡癤瘰癧ニ痘疽瘰癧等病一
十二味
乳蜜粽 煮寧寄
豚虎ノ 不用 師ノ
・傳之諸瘡門ニ各等分ト有又鑑瘡瘍ニ而
目甚々異也・小児草或ハ甲瘡乳癌ナト虫
気杯ニ専ラ用ノ热ヲ与ル者ニ吉一貼ヲ二ツニ分
テ振茶ニメ飲スルニ热ヲ甚ナクシ虫計ニモ
此方吉ノ热有ハ不可用トノ・腫物ニ専ラ用ル
方ニ或人目ニ星ヲ来ス全日是ニ腫物之タ
クイ九程ニ此方可煞トテ用テ効有ツメノ
加様ノコトハ医者之作意也

・寧和気飲・鑰ニ治瘡腫癤疥痒痛
寧 樗 劍雞 師不可用 陳 雷丸 薤 薛 汪 靈
蠶 于 瞭 虎 老狐 鍵 朴 氷 簀

・俗ニ云風ボロセニ吉ノ

## 五八 金瘡瘡

・三五味湯・

枹霊(木苓)長薛(茯苓)鮭(胡麻)髓宮(芎藭)蔓(木香)薯蕷(沈香)蔓(木香)師艾

・異本ニ去薯蕷加鹿此方ハ手好殿之秘方也重長弾正殿之秘方也・血脱之跡ニ用ル吉・此方血脱脇肩ス仏ニ吉或手負産後之気付ニ吉下血之跡ニ用ル吉・此方七疑定湯之症血多ク脱(ヌケ)タル仏ニ何トメモ疑定湯用ニ治セサル仏ニ此方吉・弔治二人二十歳室女去年九月産メ而後チ有憂怨之気俄ニ脇肩メ倒臥(フシ)ス仏ヲ不知食ス仏討ヲメ甦ル仏全ク胴身冷腹青ク脉沉伏疑定湯用身冷鼻冷ス仏気甚シク成ル則チ心遠シ用ル此方七貼メ治メソ安栄湯養血湯抔餘ヲ打テ遣ル仏・此方根本産後手負血脱ス仏気多タメ振ニ山ミニ血ソレソレ仏茶ソ血多クノ〳〵トタリ止煎目舞抔スル仏ニ妙ソ・ツキ疵ハ各別也瘀血アル仏ニハ乗離虎之瘀血ヲ破ル茶ヲ加也切疵ハ此方之類ノ補薬吉口開ル故ニ突疵トハ相違ソ・散茶ニメ産後手負之気付ニ用也産後抔ニ瘀血有テ眩痛ミ或ハ熨気ヒニハ此方ニ乗抔入又ハ離魂ナト加用ルソ手負ニ血筒ヘ入奨ニ有トニ云ハ虎ノ尿ヲ乗離加テ吉

・寛中圓・治撲損服之痛立所ニ止

咽(心加常)十粒去皮青(黒)礬一銭虎文連弦洗四ツ　已上●此程ノ三四千丸温酒ニテ送下

・蒲黄散・産後手負之気付ク

蒲黄一ヲ　曾一ヲ

・金黄計ニモ用ラレタリ

・保母湯　家秘
噌 枹 宮 薤 蜜 連
胥 ニ不 師 艾 加味 洗 文 喬

・一方病血道ニ身ノビキ白血長血産前後血暈後之物下サル二食腸振寒ヘ一切気付之惣司也

・人参蹉散　産後産前金瘡ニ打身切疵妙剤也
噌 仁 鼈 菌 宮 髄 薑 薤 樽 枹 仁
虎 蒲黄 仁 蹉 麝 茈 仁 紫 苞 仁 俎
洗 不 師 之

・疵六去薑 薤 宮 半減・打身ニ虎去髄半減
・腫物ニ蒲黄半減・禁物餅酒茹子里芋アラメ・二十 麪類小麦川魚辛物香物一切油気

・白朝散
噌 薤 宮 霊 蜜 鮫 髄 薑 虎 紫 胆
麝 師 仁

・頭痛大支之千貫ニ八蹉仁 算 薑 ニ之如・四季之加減春ニ八倍薤・葵ニ倍鮫・秋倍髄・冬ニ八倍宮・泄下ニ虎・契ニ八長文蜜粤如・血ヲ〻ニリ痛ニ八倍宮薤・膿百ニ八虎膝文連如・疵腫物ニ也煩ニ連乳竟僂仁ヲ如・サシ血ヲ止ニ八尉嫄ヲ如

雑病　産婦人　小児痘

# 五九 雜病

・分氣散・

蓍(香附)艾 茂(木香)艾 蜜 耳松 各二錢 又五分 師(甘草)三分

・此神効円之医書大全云、治一切気逆心胸
蒲悶胸膈虛脹乇甚多有神効也

・瘡毒主方竹

宮(甘草)薬 仲(杜仲)虎(陳皮)靈(茯苓)髓(江香)連(黄連) 各二分 五分 但上二ツ不用中ノ遺 各二分 五分 病上ニ有ハ花ノ用中ニ有ハ中ノ用下部ニ有ハ元ノ用 贈(甘草)二ツ 二分九リン近ク 師(甘草)一ツ 五分 十二味 煎 十七両

・病之新久ニヨリ新病ニハ多用ル乇ノ用ハ古ノ用ハ是近ニ煎多ニ依テ可見合右之秤目ノ一剤トメ是ノ七貼ニ合ス調合大方一ツ不二三ツ位水煎又茶碗大小人ニヨル一貼・一番水二碗入一盃・右三杯ノ一日一夜三碗入一碗・三番三碗入一盃・右三杯ノ一日一夜二用但し病人之強弱ニ可依・大服ハ右ノ半剤・中服ハ半剤 煎 五ツ八分 十分・小服ハ半剤煎二ツ三分・診脉ノ口傳中指ノ折文ナシツカム様成ル脉ハ難治残毒有ハ脉濕ル・加減胃痛ハ泡(炮)ノ多無験ハ猛ノ強テ痛ニハ檳(檳榔)榔ノ・往ヘ吹出テイトハヌ人ニハ蓍(白芷)薬ノ加テ後ニ散早シ・筋痛ハ仲(杜仲)ノ増・頭痛ニハ宮(甘草)薬・肢體ニ房(香附)加・足痛ニハ膠(黄柏)柏加・目悪シキニハ靈(茯苓)去ル乇シ悪ニハ半減・咽喉腫ハ乾(乾姜)ノ多ク用ハ目障ル・肢體強迫加腫引ハ可止久シク用ハ目障ル・肢體強ク八鍼(芎藭)薺ノ多・腫滅カ子ハ乾ノ多如・濃血強出ハ蓍(白芷)薬ノ増・大便結ハ瀉(大黄)ノ如ヘ虎(陳皮)ノ倍・盗汗ニハ箘(肉桂)桂長ノ如・不食ニハ蓍(白芷)薬靈(茯苓)ノ如・頭痛甚ハ宮(甘草)倍ノ小ノ多如・骨痛ニハ虎(陳皮)骨如

・禁物 鯨 白魚 蛤蜊 ア立メコウナキ名ミイカヤ

・含口湯 是ハ瘡毒ヨリ之痛ヒ舌茎之倍疵 楊梅ノ瘡 瘢ニノ師ニノ

・咽喉之腫ニ含テ可シ亦常ニ用テモ佳シ

・薫蕪 痒瘡

雄黄 蜀椒 酥 苡葉ホノ 口傳

・芩連七味湯 高 治瘡毒何程右キモドノ様ニクスシテモ治スル意妙ナリ

霊五リン 文連 滾ノ三宮五ノ 髄五リン 師炎ニノ

・帰朮 右八味七貼ニメ七日ニ服

・熨法一番ニ水四杯半入四五ニ至ル・二四入三・三二半ニ・四二入一・五二入半・禁物 茶酒酢大根 川魚 油気麺類 油ノ多キ魚 辛物 香物 茄子

・二豨散 小児胎毒諸病毋毒滿頭瘡瘢ニ用

繁縷 端午ノ不霜 乾ク

・右之三味細末メ耳カキ二三スクヒ程生ハコヘノ汁ニテ寒ク紅ノトキ排花色ニメ用

・金花散 小児諸病一切胎毒ニ用

虎穴離 疵 畜高 蚕ニ師ニノ振出

洗ニ 積雪 礬 得ノ

・一切胎毒生諸病良和生百日之内用ヘシ瘡瘢軽・小児胎毒三ツ一身生瘡瘢或痒或痛又大小便不通・虫気三ツ乳吐或不食或搐搦宝目遣ヒ大便青ク黒ノ或赤物ヤニ来或急ニ死ス色ヒ大便絶シ服賢有功用ニ吉ノ薬用服下ニ又有急ニ不治自然下ル気豊ニ

・毒虫巣腸タノ二塩湯化付ノ・大小便不通

雄黄 辰走 唖 礬石 刹ホノ 醤油ノ去

丸用・溺死ノ者白湯ニテ用・打身金瘡

二六茶ニテ化痛処ニ付ノ

・癌疔散薬

楊梅大霊 雄 菌中 師ニノ 振ヒ

・煩和湯 ニ君ニ加減

治男婦中気不知者去噤 多

・加芒散　治男婦尝苦症二有热心恶去噫
加光甚（音旺）二
・生衾散　婦人一切血病或疮毒
加薜的（收）二
・生衾進　治劳症之气有者或異物散可用症
噫（本）抱（本作抱）霊（阿）噫（本）薜的（收）孙（仁）師（甘）水煎
・李方湯　諸病後脾胃弱痰气有者二姜入
抱（本作抱）霊（夏）噫（本）汪生犭（狂）師（甘）水煎
・李二　諸病後脾胃弱血分或婦人血道産後
薜的（收）加
・李三　男婦陽气不足
髭（生附子極）菌（手参）強
・李四　同心三于气力不足表气又弃或八傷寒
後二　長（茂）加
・李五　同心三于痰气多人二
加霊（牛膝）
・李六　同心恶心戴或气分恶二
箕（本作蓖）蜜加
・李七　同心三于虚人多夢見不寧心驚之气
百二　遠（本作蒺）酸（本作棗）蜜加
・李八　同心二飲食不進二用
服（丁香）加
・李九　同心二大病後二多久用
薜（收）蜜加
・八味方病円　治血目上气（ウ）黄痰腫物之类未
安二气血不順二癲病初发中風瘡毒胖病
膀咳寝汗小痒气積脉暈
抱（本作抱）支霊長箕（本作蓖）蜜（本作棗）板（初版）粽餅
弁（十二ケ）　姜水煎
・返（ハン）魂丹　治一切久病危不進二飲食气欲絶

香

・搜牙光得多蜜良汪ホ

水二盞入煎七分・忌腥油・此薬最妙余救ノ
又極テ多メシ

・薛湯　治下痈横根便毒瘡毒初發第一用之
内ニ有濕熱骨節ニ熱ハ是ニテ發散スト

痈ハ数服ニ又根立ノ
薛宮的寧雞文連房乾膚
珊茫ホ退又師ナ水煎

・寄験膏　下痈付茶男婦共ニ
栀実彌軽炒五ホ广香ハリン　ホルトニテ煉
歸霜五ホ

・同煎洗茶
貫床房又鰲中



・五香湯　婦人諸症ニ用
噌抱又霊鬚疑又蜜箕喬紛中
師ナ　振ヒ後ニ水煎

・婦人痞塊或頭痛或虚症ノ如ニメ咳嗽
有之ニハ七ノ喩ニ灸メ後ニ可用

・甲賀龍王湯　一切崩漏
噌連心抱薛宮滑蜜箇文ホ
師鮮　ナシ炒振ヒ亦水煎

・此方極テ崩漏止ル意又妙ニテ数十人ノ
・茆柳肝湯　治宮寒獨女之方ヨリ素ノ補澄作ル
粤光瑚蘭薑行　茆鍵仁　茫竟
五杼ホ軒曲多宮ホ師ナ

・此症ハ実ニ熱火往来ニ治スル如ク虚羸痩スルニ
吉労療之方シ・右ノ二方共ニ統婦人門ニ云ノ治ス

寡若獨陰無陽慾萌メ而久メク不遂
是必悪寒並汝拔丈全類瘧

婦
・四物調経湯　治婦女或十五六歳脈不行月夜
生寒、熱丈手足麻痺飲食丈ク進ミ頭痛
悪心呃吐腹中忽然結塊冲動者此誤テ食ニ
生冷傷感メ致スモノ

薛宮　芎　地黄　芍藥　老ハ加之　當歸　茂　琴
枹薯　白芷　甘草　延胡索　蓬朮　離ク
師丈　姜三片　葱白三根

・婦人月水閉テ腹ニ結塊有ル者用ル方之延又
薑狀瘀血ヲ破リ通経丈茂ク之醒シ安胎
スルノ・十七八歳女子モ月水不来寒熱往来
シ頭痛シ手足麻痺冲動トシテ塊有ル処ヲ
ト云等之症ヲ治スル方ノ委曲之事能見
ヘタリ可見合・惣メ月水ヲ調ル二ハ由婦人門

之初ノ方吉則

婦
・調気養血湯　順旦六気調其経ト云ヨリ建立シ
タル方ノ則チ

香附　薑仁　鱉　薛宮　芎　地黄　芍藥　姜水煎

・若有塊不通順丈調経丸向服・遍身疼痛
六加虜僂・咳嗽加杏茎ク吐痛ニハ加薑乾漆
ク・瘧疾ニハ加梁常

婦
・五積散　傷寒　条下死胎ヲ下ス服冷痛迷惑サニ汗
ヲテ契有ニ脈数此方丈テ治メリ子ククメケテ
下ルモノソ又ニ由婦人科子死服中命ニシク四味

・之平胃散ヲ以テ下ス死胎ニ丈妙ソト有・婦人之
腰下ニ用殊四物湯モ中ニ有証ハ上気メ両ノ足
冷面赤メ火ヲ焼クカ如ク下ハ腰ヘ水ヲカケル様ニ
冷ケトメ甚片ハ山椒喰ヒタル舌ノ如ニ酸痛ス
此寒非ヲ散シ血ヲ温ル故ニ吾経脈ニ寒ニ湿

滞テ腰気生ズル者也此方ニテ下焦ノ寒湿ヲ去ルト上気サカンニ・婦人帯白血長血虚寒ニ属スルニ冥(優)ク加用テ吉。然レドモ此方ハ専痛有ル者ノ・産悪血残テ為瘧冷テ心工上リ攻メハ速カニ用テ上気抜スルニ用ユベカラズ。婦人難産ニ腰強痛ハ此方佳(能カ)ク思ニ龍(能カ)ヲ除可用又寒天之時余ニ誰(千晴)ニ又走ルカテ吉・婦人足腰冷或痺ニ常ニ足抜冷ニ用・婦人遇経行之時沐浴シ疾痛麻痺シ或ハ生寒熱頭疾目眩(クラム)ト云ヘル思ニ沐浴セズ先経行之時身痛ミ麻痺寒熱頭疾スルニ依此方強(千晴)ヲ去リ虜僂増姜葱ヲ加ヘテ用ルノ・死胎非ズ先ニ月之内ハ此方ニ膝蜻(千晴)ヲ加ヘテ落胎スト云云

・婦人(カンショウイトウ)曾(千晴)腸胃湯傷寒ニ余下婦人帯下白血長血洒々トメ(ヌ)ル(ル)ヲ用テ吉。然ル症ニハ帯下長血寒湿ヨリ大ニ異(ナリ)

下ハ湿淫入旁脱此方尤妙ク

雑・杏蘇散感冒 条下風傷シタル人軽ハ此方重頭痛シ悪寒有ハ之又吉即風之毒ニ袭毒有ル故ニ惣別蜂蛇杯ノ類又虫歯之咬ニ傷シタル皆袭之毒有ツテ内ニ入ト可忘得ニ是モ外感ニ風邪杯ニ傷タル ト同ク亦早ク盖ヲスシハ悪シ惣別此等ノ毒ニ嘗リタルヤ金瘡何ニテモ早ク盖ヲスシハ先ツ愈テ四五日モメ後袭気ヲ生ジテ痛ミ腫物ト成ル・一男手ヲ亂ニ被破二十日計過テ袭気ヲ生ジ股痛ミ甚シクメ自汗盗汗ヲ是火毒裏ニ入ト心得テ連翹毒一三貼与ヘテ股痛ミ止テ後二辞六黄湯二十貼計与ヘテ愈タリ此ノ用タル心ハ翹毒一二匁辞長髄ヲ加メルモノニ即長ニテ表ヲカタメ自汗ヲ止辞ニテ温瘧ニ栄益盗汗ヲ止心虚ヲ補故ニ髄ハ其血ヲ潤ス者ニ火毒内ニ感スレハ血乾故ニ別メ便テ吉・鼠杯ニ破タルヤ又ハ何ナリトモ害傷セラルヽ之近日ナラハ袭毒浅ト得心テ香蘇ノ一匁ノ類此ニテ表ヲ解メ吉程ヘテ火袭裏ニ入ハ可腫痛毒深入ト得心連翹一杯吉一倫不可用ク・香薷一参ノ薷ハ重ク参ノ薷ハ軽茂散之剤ニ此方ヨリ匁ノ次第ニ重キニ

雑・九文感冒 条下風毒第一三吉惣メ四肢ナト痛ム処上焦ノ風毒膻中ニ宿ル時ハ文ヲ加テ吉方佳ク袭毒甚ニハ文ヲ加テ吉ニ此方ニ貝加テ可用妙ク鼠毒深ク入ハ連翹毒一佳ク・癌疽或ハ瘍梅瘡杯ニテ湿毒袭甚ク頭痛杯百三或ハ

身節痛ニ此方ニ麻大ニ加用テ治ス猶ホ輕ハ雜
濕モ吉毒ニ乀ヲ挿ニ濕毒ヲ散ス之方ニ・荊防
敗毒ノモ猶可シ又濕氣故ニ盜汗杯有ニ絶テ
盜汗ヲ治テハ不叶ヲ又雞湯杯ニテ留事首ノ
•男嵐ニ喰ル之ヲ正月ニメ六月之時分草臥口
氣焚シ盜汗百是皆熱毒裏ニ入ト思ハヽ毒
ニテ大驗ノ後六苗ハ一ニテ全愈•瘰癧ニモ
此方ニ加減メ用ル主徴
•腫物ニ押茶杯シ或ハ癬瘡杯ニ付茶メ毒氣
不去メ入裏不得出ニ故周身腫ヌ有此方吉
•肺氣瘡癌疾等之初メ之類ニ
雜
•八解散 腸 条下平人脉二十日計ヒテ三貼ニメ
安
雜
•算正 胃 条下香薷ノ之ヲ算正香蒿ノ之ヲ茶
毒ヲ解ス之方ヒ誤テ他医走杯ヲ用テタリ

テ休草卧ニ右ニ方皆表ヲ解メ吉ヌ有
婦
•医王諸 虚 条下或婦人凡毒腫ヲ患ヒ膿メケ瘡気
不足十ル故カ發散不足故カ流注シテ此彼ヲ腫
痛ニ手見ヌ之ヲ始終共此方ニ膏ヲ加テ愈メ
依テ
リ此病人甚瘦不食メ脉細數体弱ヲ數シテ
勞体ノ又流注ニ必膏ヲ加テ吉ノ惣別腫痛
ミヌ又須強ハ大陽経引痛ミ上焦ニ有ハ膏カ
能ノ下焦腫痛ニハ女陰之分ハ或両之下部ヤ
トノ準痛ヌル之ニハ僂吉ノ・想別腫物之後膿
血ヤヽル跡ニハ必ヌ補ヲ之ヲ用テ
ハ風杯引頭痛發杯有ニ香蒿ノ女用テ
吉・手負杯ニ疵之口開タラハ必ヌ補茶ヲ吉
トノ則此方ニ・瘡疽之類或ハ何ニテモ腫物
傷レタル之ニハ此方可用若脉ハ如何ニテモヤヽ無
ハ此方吉又脉結リ杯有テ気不續者ハ十六味

流ミ一ナト可ク脉ニ結有ル元気草卧メツハ
此方ニ加減シ夜毒順気之剤可用惣別ナ腫
物傷シ膿血ヲミメル跡ニ風ナト引事有杏葛
ヲ用テ吉症頭痛拘攣抔有ニ吉

婦慈陰降火湯虚労 傘下産後憂労ナト云ヒ又有リ産
後必咳嗽抔有テ労瘵之症ニ成ヌ有此方吉
ソ産後ナル二依テミ如様ノ又ハ他人ハ不知ト可
秘ク〳〵真ニ療治メ吉シ先東垣浮白ー吉若
不治此方吉ソ脾肺ナト虚衰メ居ル不知早
ク合点スヘカラス始終可分別若脾肺之虚ヲ
不考早合点メ用シハ結句アメルソ大聚東垣
浮白ー吉若クハヒシトセル此方吉・或人産後ニ脉
細数ニメ咳歎喘急甚ニヲメ宿食シ初中後
用乾キ香葛ー用テ不効最モ降火湯ノ症
ナレ共能思安ホスル二脾胃之虚ニテ可有ト思

東垣浮白ー二テ肺気ヲ養ハント思治タリ用
之乾キモ止按ニ方中ニ茎アル故ニ茎蔬寒湯ヲ
止モノ葵湯ハ又閻之類ニ又茎肺気ヲ補茶
又ハ脾ヲモ養フ茶ソ霊ハ肺中伏火ヲ下シ痰、
産ノ敢降スルモノ鎮者腎中ノ湿熱ヲ去光
ハ須血行瘀血硬スルソ粳米ハ脾胃ヲ大ニ補其
余ニ味須痰、牧脇之茶噛ハ毋渓ノ言之如ク産
後必ス用ル茶ニ陽中之陰血ヲ補其説見天
民或問也前之如ク浚白ー用テモ吉ニ若此
方ヲ与タシハ不治故ニ始終分別メ用ト云・或
婦人産後三十日ヨリ内ニ房事ヲ侵シ大熱往
来脉弦大数ニメ前疾又其上尺ヲ引タリ悪症大
積タリ是九文之症ナシモ房室故ト心得テ此
方ニ鍛ヲ倍シ蜜桃仁ヲ加テ治タリ今按スルニ
甲剤門之調和飲モ可然故ハ右之方ニ似タ物ソ・

老婦素ヨリ血ワツニ弱キ人長血三ヶ虫指ノ如
々トメ寒ニ七味湯脾一ニヶ治メリ此病人常ニ
堀石或ハ特堀甚々痛ミ色々虫菜之苦辛
之剤ヲ用レ尤痛ミ不退異仰敢ニ姜ヲ不入
用ヲ立処ニ痛止ト雖ヒ辛菜ヲ嫌故ニ姜ヲ
不入ヒ異木白一八四君ニ加當歸 治脾胃虚弱
吐涎不食凡虚寒ノ症先服之以正面目気・
此方ノ症ニヌメ分ハ初感冒ニヶ後ニ此方ノ症ニ
ナルソ

・婦 龍胆瀉肝湯 疾 柔下壮婦七八年程帯下ノ患ヒ
串柿ノ様ナル物ヲ下シヌメソ諸医更ニ不効此方ニ
ヶ愈ヌメソ其内ニ小便渋リヤスヒヶ月付ケ用
ヌメソ是モ肝経湿熱ヨリ故ソハ正散ノ類ニヶ不効故
ニ此方ヲ用也



・小 五香湯 児口廻リ赤クヌレヌル三用ユ度々物ノ
箕(霍)[尚]蔚(陳)[皮]藿連(木香)[香]蜜ホ少師ヤ 水煎
五六貼亦七八貼用ヶ治

・小 天花湯 秘方ロイ
連中房(青皮)[皮]雪乾ニ大光猪(猪苓)[苓]蓼中茂ヤ粤(桂)[枝]

・小 水煎弱ニ加霊(茯)[苓]
亦茂房(桂)[枝]粤連(香附)[附]霊雪柏(木通)[通]猪(猪苓)[苓]
右水煎軽疹ニ用ロイ

・小 阿毘羅散 小児胎毒主方
霊ヲ菌(肉桂)[桂]ニク但シニクヌメ可シ離五(香附)[附]薑ヲ(桂)[枝]得ル(木通)[通]支(円)[円]
師(甘)[甘] 右七味両目八分ニツヽ合ヶ二貼ニヌ可用
或急ニ貼用ヶ可シ

・小 小便ヌ通去ヌ(木通)[通]・小便渋ル支(木通)[通]ニヲ粤ノ一ヲ加ヒ・大
便閉ニハ虎(大黄)[黄]ヲ・咽乾ハ雑加・脾胃虚弱気衰

加噌・痰有（脫）粵（人ヲ）ノ一多加強ハ加連・大痰有テ舌モ黑成程十ヲ八輕（輕粉ノ）ヤ加・疾喘ハ得（得）五加倍・鼻塞（不通）支倍

・虎口三関陽尤陰右

二風関易治二氣関重病三命関不治

此ノ紅風寒、痰也・青白痃狂重・黄脾胃之虚ヘ・痃黑・内瘡匆（匆）瘡ハ紫・痰气ハ赤筋討也・气関最ハ脾痃不可ヘ灸（灸）忌・落紫肺痃・紫脾痃・赤心痃・青肝痃・黑腎痃・黄虫・地色黑ク青筋俗ニカワラト云痃ヘ・地白黑キハ内瘡

一急慢驚風　二癇症

三天鉤（脹ノテ智カラニ）　四尿床

五陰腫　六臍瘡

七咬牙　八通睛

九約生　十臍凡撮口

十一客忤　十二不吃乳

十三小便閉　十四鎖肛大便閉

十五歩瘡重台重膀重膀重斬

十六百日脾嗽　十七夜啼

十八龜腦龜背　十九解顱

二十顱陷　二一顱填

二二行遲　二三萬遲髮遲

二四天柱倒　二五停耳

二六鬾病　二七五痃

二八疰癖疕貝　二九滯願

三十丹毒　三一雜病

・急慢驚風

・雲林救毒散　治中風寒或痘疫ノ前ニ上嘗搐搦目ヲ見ツムル二用茨痰ノ脾胃強ニ

勇僊浦芫宮老樟霊噌糸師艾
水煎　驚癇痰疫又張等在壮変薬
躁丸又蚕星薤又加・有浮者七味柏散加蚕
定星薤加・小児咳有テ急驚風之初薬ニ
参蘇飲ヲ先用ユ或智工疾、気ツカヘ又ニ・
急驚ニ蝎薤蚕ヲ丸又ニ加テ可シ・小児泄
浮後茂慢驚又ハ白木散ニ小定一ニ蝎ヲ白
ヤヲ加治タリ

・小児胎毒驚風疑似之方
米酢一味辰ニヌル二驚風則ヤ苦酢之不酢ハ
胎毒ヘ

・抱龍丸　丸又兼用月ヲ見ツメハ必用
天竺黄二雄黄辰別研往广別研仁牛膽
星両　右為丸荊湯ニテ送下蜜丸隹ヘ

・護神湯　治慢驚久吐浮ヲメ後ニ茂変ヘシ
驚風ニ成ヲ慢驚ト云必此ヲ用ユ亦抱竜丸
ヲ兼用テ吉
抱霊長箘兼曽定荊根全走真珠
鉄水煎

・醒脾散　治慢驚風止吐利ニ進飲食
煎曽箕霊抱師星破蓖　鉄水煎

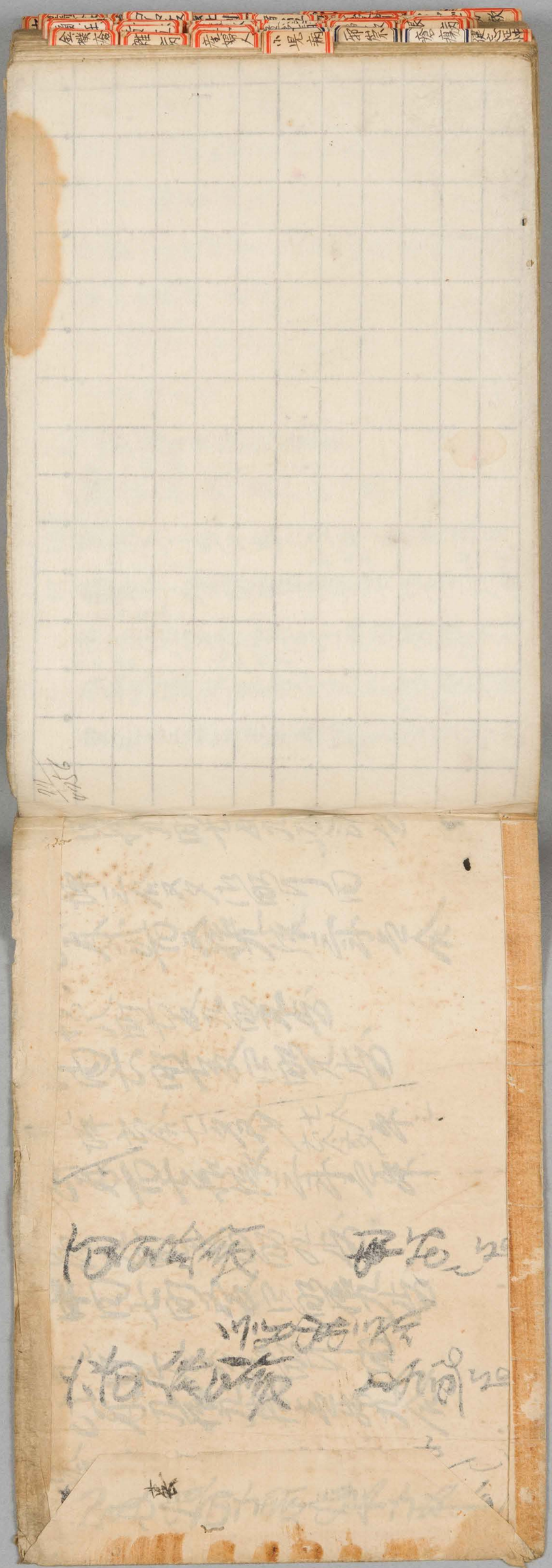
・冬瓜核艾加

・補脾益真湯　純　治小児胎稟性弱外実裏
虚吐乳妳大便青色而成慢驚風或変煮
客忤
蜜薜煎曽行菜長喬霊黎雷檎
師抱箘汪走全　鉄棗、

・渇者去走喬行加霊・浮増喬黎・腹痛ハ

加秦艽(前胡)喬渕老・咳嗽二ハ加渕老(茯苓)去喬走閑
景行・疾喘加渕老(茯苓)去喬走行景・此某
性温不瘥本治汪大人湯疾一
・木香散　小児増寒ミ發熱唱乾者惣用驚
風証五歳以上先用之
曾(ソ)抱(ホ)(茯苓)(木香)霊而雞(葛根)矢(芍)厚(肉桂)朴(甘)
水煎或為丸
・七味清脾湯　治諸般驚風
(非烏梅)楾(青皮)猿汪光良(夏)仁師(甘)五景仁(半夏)蜂(ハチ)
・(丸書云藥湯)瑟定湯
・(今)銭氏抱(ハウヒニテヤル)散　小児吐瀉或傷食
曾(ソ)抱(ホ)霊(茯苓)莫(葛根)雞(木香)蜜(ミツ)師(甘)艾(ヨモギ)　蜂(ハチ)水煎
・冬月吐出胃寒ミ之喬ケヲ加・胃虚メ不食湯
不止加雪・食メ湯白虎湯加(今)薑(ショウ)・中氣虚
發シ口舌ニ瘡ヲ生不喜飲冷服之佳也・痘
疫吐逆二粒茈退(前胡)賁(茯苓)加・疾ミ二(陳皮)蠲汪・胠痛
高(前胡)蔓(葛根)・風發賁(茯苓)茈(前胡)莫(葛根)芡・夜眠驚酸(ス)・大便
結長(茂)老・胠ニ積虫有ニ蓼(タデ)ア茂高蔓(葛根)・凡熱
賁(茯苓)莢(サヤ)文・小便不通ニ支(木通)車(車前)・胃弱薛(服)長(茂)

(世渡ノ門ヨリ入ル十八)
六君　加走(諸)疾服剛劉成慢驚者ニ



金牋窗雜記 室婦人 小兒病 卵紫 瘡痘 更定中